

日枝中学校 E L V 棟増築工事（建築）

図 面 目 録

図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
A- 001	特記仕様書-1	A- 026	矩計図-3	【構造】	
A- 002	特記仕様書-2	A- 027	各階平面詳細図	S- 001	鉄骨構造基準
A- 003	特記仕様書-3	A- 028	屋根伏図	S- 002	RC標準図-1
A- 004	特記仕様書-4	A- 029	展開図	S- 003	RC標準図-2
A- 005	特記仕様書-5	A- 030	部分詳細図	S- 004	Q Lデッキ合成スラブ設計・施工標準
A- 006	特記仕様書-6	A- 031	渡り廊下改修図-1	S- 005	各階伏図・RC部材リスト
A- 007	特記仕様書-7	A- 032	渡り廊下改修図-2	S- 006	軸組図・S部材リスト
A- 008	特記仕様書-8	A- 033	渡り廊下改修図-3	S- 007	鉄骨詳細図
A- 009	特記仕様書-9、工事区分表	A- 034	既存校舎改修図-1	S- 008	ボーリング位置図、柱状図
A- 010	付近見取図	A- 035	既存校舎改修図-2		
A- 011	敷地求積図	A- 036	外構図	【電気】	
A- 012	求積図・面積表	A- 037	外構詳細図	E- 001	電気設備工事仕様書・照明器具一覧表
A- 013	面積表・平均地盤算定図	A- 038	法チェック図-1	E- 002	動力設備・電灯設備・構内配電線路図
A- 014	建物概要・仕上表	A- 039	法チェック図-2	E- 003	弱电設備・自動火災報知設備図
A- 015	配置図-1	A- 040	法チェック図-3		
A- 016	配置図-2	A- 041	仮設計画図		
A- 017	日影図				
A- 018	1 階平面図				
A- 019	2 階平面図				
A- 020	3 階平面図				
A- 021	4 階平面図				
A- 022	立面図				
A- 023	断面図				
A- 024	矩計図-1				
A- 025	矩計図-2				

[illegible]

建築工事特記仕様書（最新版）No. 2/8

章

③

①

埋戻し及び盛土
(3.2.3)
(表 3.2.1)

章

③

②

建設発生土の処理
(3.2.5)

章

③

③

建設発生土処分先
(3.2.5)

④

①

基礎

④

②

試験及び報告書
(4.2.2～4.2.4)

④

③

既製コンクリート
(4.3.2)(4.3.6)

④

④

場所打ち
コンクリート杭地業
(4.5.1)(4.5.2)

④

⑤

砂利及び砂地業
(4.6.3)(4.6.2)

④

⑥

捨コンクリート地業
(4.6.4)

④

⑦

床下防湿層
(4.6.5)

④

⑧

断熱材

④

⑨

試掘

⑤

①

鉄筋の種類
(表5.2.1)

⑤

②

溶接金網
(5.2.2)

⑤

①

基礎

⑤

②

試験杭 位置、本数及び寸法
杭の載荷試験
地盤の載荷試験

⑤

③

設計支持力 KN/本 (φ)
杭地業
支持力の算定方法 ※平成13年国土交通省告示第1113号による。
支持地盤の位置及び種類 ※図示による
杭の水平方向への位置ずれの精度 ※図示による

⑤

④

杭の種類
規格・材質など
長さ (m)
断面寸法 (mm)
長期設計支持力 (KN/本)
継手
工法
先端部形式及び形状

⑤

⑤

杭頭処理
工法

⑤

⑥

施工管理技術者
工法

⑤

⑦

鉄筋の種類
帯筋
最小かぶり厚さ
設計基準強度
コンクリートの種類
構造体強度補正值 (S)
孔壁の超音波測定

⑤

⑧

厚さ (mm) ※60
材料

⑤

⑨

厚さ (mm) ※50
材料

⑤

⑩

断熱材
押出法ポリスチレンフォーム3種b t50
※19章「内装工事」9項「断熱材」による。
※掘削範囲に、電気・衛生設備埋設配管が想定されるため、あらかじめ位置・深さを確認すること。

⑤

⑪

鉄筋の種類
鉄筋の種類
類別
異形鉄筋
丸鋼

⑤

⑫

溶接金網
網目の形状、寸法及び径 (mm)

⑥

①

コンクリートの強度
(6.2.2)(6.2.4)
(表6.2.2)

⑥

②

コンクリートの類別
(6.2.1)(表6.2.1)

⑥

③

水セメント比
(6.3.2)

⑥

④

コンクリート
中の塩化物量
(6.3.2)

⑥

⑤

コンクリート
のアルカリ総量
(6.5.4)

⑥

⑥

コンクリート
の仕上り
(6.2.5)(表6.2.3)
(6.9.6)

⑥

⑦

コンクリートの材料
(6.3.1)

⑥

⑧

コンクリート
製造工場の選定
(6.4.1)

⑥

⑨

強度
(6.3.2)(表6.3.2)

⑥

⑩

暑中コンクリート
(6.12.1～6.12.4)

⑥

⑪

寒中コンクリート
(6.11.1～6.11.6)

⑦

①

柱・梁の鉄筋の継手
(5.3.4)

⑦

②

梁貫通孔補強

⑦

③

圧接完了後の検査
(5.4.9)

⑦

④

柱の帯筋

⑧

①

コンクリートの強度
(6.2.2)(6.2.4)
(表6.2.2)

⑧

②

コンクリートの類別
(6.2.1)(表6.2.1)

⑧

③

水セメント比
(6.3.2)

⑧

④

コンクリート
中の塩化物量
(6.3.2)

⑧

⑤

コンクリート
のアルカリ総量
(6.5.4)

⑧

⑥

コンクリート
の仕上り
(6.2.5)(表6.2.3)
(6.9.6)

⑧

⑦

コンクリートの材料
(6.3.1)

⑧

⑧

コンクリート
製造工場の選定
(6.4.1)

⑧

⑨

強度
(6.3.2)(表6.3.2)

⑧

⑩

暑中コンクリート
(6.12.1～6.12.4)

⑧

⑪

寒中コンクリート
(6.11.1～6.11.6)

⑨

①

施工場所 ()

⑨

②

鉄筋の継手
継手位置
貫通孔補強
検査方法
柱の帯筋

⑨

③

鉄筋の継手
構造設計標準仕様書 2章 (3)鉄筋の表による
○ガス圧接 (SD295Aは不可)
※鉄筋工事仕様書による。

⑨

④

○重ね継手
・機械式継手
・溶接継手
・各部配筋参考図

⑨

⑤

貫通孔補強
※鉄筋工事仕様書による。

⑨

⑥

検査方法
※超音波深傷試験
・引張試験

⑨

⑦

柱の帯筋
構造設計標準仕様書 5章 (2)柱の帯筋(H00P)の加工方法による
・組み立ての形はSP形とする。(鉄筋工事仕様書による)
・H型(タガ型) ・W型(溶接型) ・I形 ・II形 ・III形
・丸形

⑩

①

コンクリート
※普通コンクリート

⑩

②

設計基準強度
Fc (N/mm²)
※21
・21
○24
○18

⑩

③

スランブ
(cm)
18
15
18
18

⑩

④

適用箇所
適用箇所
基礎・躯体
土間・デッキ

⑩

⑤

※軽量コンクリート

⑩

⑥

設計基準強度
Fc (N/mm²)
種類
・1種 ・2種

⑩

⑦

スランブ
(cm)
適用箇所

⑩

⑧

※構造体コンクリートの強度は、材令91日において設計基準強度以上とする。
※屋根床版のスランブは15cmとする。

⑩

⑨

※I類
・II類

⑩

⑩

※最大値は65%とする(低熱ポルトランドセメント及び混合セメントB種の場合は60%)

⑩

⑪

※0.30kg/m³以下

⑩

⑫

・アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、
コンクリート中の総アルカリ量を3.0kg/m³以下とする。

⑩

⑬

打放し仕上りの種別
※合板せき板を使用する場合

⑩

⑭

種別
・A種
※B種
・C種

⑩

⑮

せき板の種類
JAS (表面加工品)
JAS B-C
JAS B-C

⑩

⑯

表面・せき板の程度
表6.2.4
表6.2.4
表6.2.4

⑩

⑰

適用箇所
※図示
・

⑩

⑱

セメント
混和材料

⑩

⑲

※普通ポルトランドセメント
※AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤(JIS A6204)
※フライアッシュ(JIS A6201) I種、II種若しくはIV種
※高炉スラグ微粉末(JIS A6206)
※シリカフューム(JIS A6207)又は膨張材(JIS A6202)

⑩

⑳

※コンクリート製造工場の選定は、監督員の承諾を受ける。

⑩

㉑

構造体強度補正值 S (N/mm²)

⑩

㉒

4～10月
11月
12月
1月
2月
3月

⑩

㉓

全
上旬
中旬
下旬
上旬
中旬
下旬
上旬
中旬
下旬
上旬
中旬
下旬

⑩

㉔

普通ポルトランドセメント
早強ポルトランドセメント

⑩

㉕

一般地域
北部地域
その他

⑩

㉖

3.0
3.0
3.0

⑩

㉗

・一般地域：
・北部地域：
・その他：
○飛驒地域基準による
※日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合
構造体強度補正值 S (N/mm²)
6.0 N/mm²

⑩

㉘

適用期間 ()

⑩

㉙

工事名
日枝中学校ELV棟増築工事 (建築)

⑩

㉚

図名
特記仕様書-2

⑩

㉛

縮尺
—

⑩

㉜

番号
49枚の内 A-002号

⑩

㉝

設計年月日
令和7年2月

⑩

㉞

設計
(有)斐太プランニング一級建築士事務所
一級建築士 第266975号 門 秀樹

⑩

㉟

高山市

建築工事特記仕様書（最新版）No. 3/8

章

項

特記事項

⑥

コンクリート

※「建築標準仕様書」表 6.9.2 による。

⑬

外部に面するコンクリート打放し仕上

※打増厚さ（mm）※20○図示による

⑭

型枠のせき板

せき板の材料 ※合板（12mm）・合板（15mm）
・床型枠用鋼製デッキプレート（実績等の資料を提出）
・メッシュ型枠（25mm以下かつ熱抵抗値 1m²℃/kcal 以上）
・断熱材兼用型枠
・MCR工法用シート（気泡発泡ポリエチレンシート）

15

マスコンクリート

セメントの種類（）
適用箇所（）

16

水密コンクリート

水セメント比（／wt）	スランプ（cm）	適用箇所
※ 50	※ 15	

17

打継部

止水板 止水ゴムの製造所（）
適用箇所（）
打継ぎ目地 ※図示 ・幅 20mm 以上 深さ 10mm 以上

18

無筋コンクリート

適用箇所 ・図示 ※「建築標準仕様書」 6.14.1 による
粗骨材の最大寸法（捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合）※25mm
コンクリートの品質

種類	設計基準強度 Fc（N/mm ² ）	スランプ（cm）	適用箇所
普通コンクリート	18	・ 15 ・ 18	・捨コン ・配管埋設用コンクリート

19

流動化コンクリート

・適用（）

⑦

鉄骨工事

①鉄骨製作工場及び施工管理技術者（7.1.3～7.1.4）
鉄骨製作工場
・構造設計標準仕様書 6章（2）製作工場による
○次表による加工能力のある工場 ・監督員の承諾する工場

製作工場の加工能力	建築基準法第77条の4第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鉄鋼工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Rグレード」以上として国土交通大臣から認定を受けた工場又工事現場対象地域の都道府県の鉄構工業会会員企業の工場
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施工管理技術者 ※適用する ・適用しない
鋼材の種類
○次表による鋼材 ・構造設計標準仕様書 2章（4）鉄骨鋼材表による

材質	規格	使用箇所
○SS 400 ・SM 400	※JIS規格品 ・JIS規格品以外	○図示 ・
・SSC 400	※JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・
・STK 400 ○STKR 400	※JIS規格品 ・JIS規格品以外	○図示 ・
○BCR 295 ・BCP 325	・JIS規格品 ※JIS規格品以外	○図示 ・
○SN490C	・JIS規格品 ・JIS規格品以外	○図示 ・
・SN490B	・JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・
	・JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・
	・JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・
	・JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・

JIS規格品以外の場合 ※試験を行う ・試験を行わない
※BCR 295 及び BCP 325 は 一般社団法人日本鉄鋼連盟の製品規定で大臣認定品とする
BCR295：「建築構造用冷間ロール成形角形鋼管」BCRは、200mm×6mm～550mm×25mm
BCP235、325：「建築構造用冷間プレス成形角形鋼管」BCPは、350mm×12mm～1000mm×40mm
※BCR 295 及び BCP 325 は 監督員の承諾のもと大臣認定品の証明書類一式とメーカーのミルシートにより上記の試験を省略することができる。
高力ボルト（7.2.2）
高力ボルトの種類
・下記による高力ボルト ・構造設計標準仕様書 2章（5）ボルトによる
○トルシア形高力ボルト（セットの種類 ※2種（S10T） ・
・JISの高力ボルト（セットの種類 ※2種（F10T） ・
・溶融亜鉛めっき高力ボルト（セットの種類 ※1種（P8T相当） ・
ボルト径 ※図示による。
普通ボルト（7.2.3）
普通ボルトの種類
○下記による普通ボルト ・構造設計標準仕様書 2章（5）ボルトによる
ボルト及びナットの材料等 ※「建築標準仕様書」表7.2.3 による
ボルト径 ※図示による。

⑧

鉄骨工事

⑤アンカーボルトの材質及び設置（7.2.4）（7.10.3）
（表7.10.1）
6 ターンバックル（7.2.6）
7 デッキプレート（7.2.7）
8 柱底均しモルタル（表7.2.6）（7.2.9）（表7.10.2）
9 溶接部の試験（7.6.11）（表7.6.2～7.6.4）
10 錆止め塗装（7.8.1～7.8.4）
11 耐火被覆（7.9.1～7.9.9）
12 亜鉛めっき（7.12.3）
13 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合（7.12.4）

⑧

コンクリートブロック

（8.2.2）（8.3.2）
（8.3.3）
2 ALCパネル（8.4.2～7）（表8.4.2～4）
3 押出成形セメント板（ECP）（8.5.2～5）（表8.5.1～2）

⑨

防水工事

1 アスファルト防水（9.2.2）（表9.2.1～表9.2.10）
2 改質アスファルトシート防水（9.3.2～3）（表9.3.1～3）
3 合成高分子系ルーフィングシート防水（9.4.2～4）（表9.4.1）
（9.4.2～4）（表9.4.2）
4 塗膜防水（9.5.2～4）（表9.5.1）
5 ケイ酸質系塗膜防水（9.6.2～4）（表9.6.2）
6 漏水試験
7 シーリング用材料（表9.7.1）

⑨

防水工事

防水層の種類及び工程

種別	施工場所	備考
		・屋根保護防水層（断熱工法）の断熱材（オゾン層を破壊する物質を使用しないもの） ・材質 ※A種硬質ウレタンフォーム保温材保温板2種1号（JIS A9511） ・A種硬質ウレタンフォーム保温材保温板2種2号（JIS A9511） ・厚さ ・mm 防水立上り部の保護 ・ ※乾式保護材 製造所 屋根露出防水絶縁工法の脱気装置 ・設けない ※設ける 種類 ・平場部脱気型 ・立上り部脱気型 ・設置数 箇所

防水層の種類及び工程

種別	施工場所
AS-2	図示

合成高分子系ルーフィングシート防水の工法、種別及び工程

種別	厚さ	仕上げ塗料	施工場所
S-F2	1.5	遮熱塗料	屋上平場
S-F2	2.0	遮熱塗料	屋上立上り

S-F1・S-Mの仕上げ塗料 ○カラー ・シルバー
合成高分子系ルーフィングシート防水（断熱工法）の工法、種別及び工程

種別	厚さ	仕上げ塗料	施工場所

SI-F1・SI-Mの仕上げ塗料 ・カラー ・シルバー
ウレタンゴム系塗膜防水の種類及び工程

種別	仕上げ塗料	施工場所
X-2	E LVビット内	

脱気装置（種別X-1） ・設ける ・設けない
種類 主要材料 製造所の仕様による。
・設置数量 箇所 ・
ケイ酸質系塗布防水層の種類及び工程

種別	仕上げ塗料	施工場所

工法 ※C-III ・C-UP
※屋内については水張り試験を行う。
被着体の組合せとシーリング材の種類

被着体の組合せ		シーリング材の種類（注）1	
		記号	主成分による区分
○金 属	・金 属 方立目地	SR-2	シリコーン系
	上記以外の目地	MS-2	変成シリコーン系
	○コンクリート		
	・ガラス	SR-1	シリコーン系
	・石、タイル	MS-2	変成シリコーン系
	・石、タイル	MS-2	変成シリコーン系
・ポリ塩化ビニル樹脂材（樹脂製建具）（注）6	○ALC ・仕上げなし	PU-2	ポリウレタン系
	・押し出し成形セメント板	MS-2	変成シリコーン系
	・ポリ塩化ビニル樹脂形状材（樹脂製建具）（注）6	MS-2	変成シリコーン系
	・コンクリート		
	・ガラス	SR-1	シリコーン系
	・石、タイル	MS-2	変成シリコーン系
○コンクリート	・ALC ・仕上げなし	MS-2	変成シリコーン系
	・仕上げあり（注）2	PU-2	ポリウレタン系
	・押し出し成形セメント板	MS-2	変成シリコーン系
	・ガラス	SR-1	シリコーン系
	・石	PS-2	ポリサルファイド系
	・プレキャストコンクリート	MS-2	変成シリコーン系
○ALC	○ALC		
	・打継目地 ひび割れ 誘発目地	PS-2	ポリサルファイド系
	・石、タイル	PS-2	ポリサルファイド系
	○ALC ・仕上げなし	MS-2	変成シリコーン系
	・仕上げあり（注）2	PU-2	ポリウレタン系
	・押し出し成形セメント板	MS-2	変成シリコーン系
○ALC	○ALC		
	・仕上げなし	MS-2	変成シリコーン系
○ALC	○ALC		
	・仕上げあり（注）2	PU-2	ポリウレタン系

工事名

日枝中学校ELV棟増築工事（建築）

図 名

特記仕様書-3

縮 尺

—

番 号

49 枚の内 A-003 号

設 計 年 月 日

令和7年2月

設 計

（有）斐太プランニング一級建築士事務所
一級建築士 第266975号 門 秀樹

高 山 市

建築工事特記仕様書（最新版）No. 4/8			章	項	特記事項	章	項	特記事項		
⑨ 防水工事			⑪ タイル工事	4	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り (表11.2.2)	・タイル張りの種類及び工法	⑫ 木工事	6	造作用集成材 (12.2.1.C)	ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆（※1） ・F☆☆☆ ※1：F☆☆☆☆又はホルムアルデヒド放散量表示がない場合は、塗装していないものにあつては「非ホルムアルデヒド系接着剤使用」塗装したものにあつては「非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用」
	⑧	シーリング材の試験 (9.7.5)		接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験	(11.3.3)	・タイル張りの種類及び工法		壁	・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・ユニットタイル ・その他のタイル	
	⑨	保証年限		・アスファルト防水 10年 ○合成高分子系ルーフィングシート防水 10年 ○塗膜防水 10年 ・ 年 ・ 年	5	接着材による陶磁器質タイル張り (11.3.1)(11.3.2)		床	・その他のタイル	
10 石工事	1	天然石 (10.2.1) (10.2.1)(10.2.2)	・石材の品質 床 ※2等品 ・ その他 ※1等品 ・ ・石材の種類及び表面仕上げ	⑫ 木工事	①	適用基準等	7	造作用単板積層材 (12.2.1.d)	ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆（※1） ・F☆☆☆ ※1：F☆☆☆☆又はホルムアルデヒド放散量表示がない場合は、塗装していないものにあつては「非ホルムアルデヒド系接着剤使用」塗装したものにあつては「非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用」	
	2	取付け金物 (10.2.2)(表10.2.4)	乾式工法用金物式 ・スライド方式 ・ロッキング方式		②	寸法		・構造設計標準仕様書（令和元年版）7章 木造工事による ・「建築標準仕様書」12.1.1：内装の木下地、木造作及び木仕上げの工事 ・木造建築工事標準仕様書（官庁営繕関係統一基準）：軸組工法等の木造建築工事に適用 ・住宅金融支援機構【フラット35】対応 木造住宅工事仕様書（最新版）の木造躯体工事 ・2017年 木造軸組工法住宅の許容応力度設計：（財）日本住宅・木材技術センター ・木造建築工事標準仕様書（官庁営繕関係統一基準）：枠組壁工法の木造建築工事に適用 ・住宅金融支援機構【フラット35】対応 枠組壁工法住宅工事仕様書（最新版）の木造躯体工事 ・2018年 枠組壁工法建築物設計の手引き：（社）日本ソーバイフォー建築協会 ・木造建築工事標準仕様書（官庁営繕関係統一基準）：丸太組構法工事の木造建築工事に適用 ・図示（関連図名： ・枠組壁工法の構造耐力上主要な特記仕様書（平成29年版） ・枠組壁工法1階床枠組特例標準図（平成29年版） ・枠組壁工法構造詳細標準図（平成29年版） ・枠組壁工法技術基準図（平成29年版） ―使用木材は共通して「岐阜証明材推進制度」に基づき認証されたぎふ証明材を原則とし、全体の―80%以上を満たすこと。また、可能な限り高山市産材を使用すること。― ―主要構造（土台、柱、母屋、梁、構造用面材）については、JAS製材品または、「ぎふ性能表示材推進―制度」に基づき認証されたものを使用すること。― 図面上の寸法は構造材はひき立て寸法、造作材は仕上り寸法とする。	見え掛り面の表面仕上げ ・A種 ※B種 ・C種 ・D種	・集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 ・造作用集成材 単材の樹種及び厚さ
	3	その他の材料 (10.2.3)	・石裏面処理材（ ） ・裏打ち処理材（ ） ・ドレンパイプの材質（ ） ・金物固定充填材料（ ） ・（ ） ・（ ）		③	表面仕上げ (12.1.4)(表12.1.1)		木材の含水率 (12.2.1.i) (表12.2.1)	④	木材の含水率 (12.2.1.i) (表12.2.1)
⑪ タイル工事	1	伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)	・外壁の伸縮目地 ・図示による ※「建築標準仕様書」表11.1.1による。 ※下地ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地、構造スリットの位置及び他部材との取合い部には、誘発目地を設ける。	⑫ 木工事	⑤	製材	8	床張り用合板等	ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆（※1） ・F☆☆☆ ※1：F☆☆☆☆又はホルムアルデヒド放散量表示がない場合は、塗装していないものにあつては「非ホルムアルデヒド系接着剤使用」塗装したものにあつては「非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用」	
	2	施工後の確認及び試験 (11.1.5)	※打診による確認 ※屋外のタイル張り及び吹抜け部分 ・ ・接着力試験 試験体の位置（ ）		⑥	造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(板類・角類)		・広葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材の有無)	「製材の日本農林規格」による製材 ・下地、造作及び仕上に用いる製材 樹種、寸法、材面の品質、防虫処理、難燃処理	
	③	陶磁器質タイル張り (11.2.2～11.4.2)	タイルの種類 ※標準色 ・特注色 役物使用箇所 ※各部の形状は図示による		⑦	造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(板類・角類)		・広葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材の有無)	「製材の日本農林規格」以外の製材 ・下地、造作及び仕上に用いる製材 樹種、寸法、材面の品質、防虫処理、難燃処理	
⑫ タイル工事			⑫ 木工事				⑫ 木工事			
								</		

建築工事特記仕様書（最新版）No. 5/8

章

項

特記事項

⑫木工事

9 接合具等
(12. 2. 2. a)

(12. 2. 2. b)

(12. 2. 2. C)

10 防蟻処理

11 防蟻処理 (12. 3. 1)

12 防虫処理 (12. 3. 2)

13 鉄筋コンクリート造等の
内部間仕切軸組
及び床組
(12. 4. 1)

14 窓、出入口その他
(12. 5. 1)

15 床板張り
(12. 6. 1)

16 壁及び天井下地
(12. 7. 1)

・構造用合板

厚さ (mm)	接着の程度	表面の品質又は等級
※ 1 2	・特類 ※ 1 類	・ 1 等 ※ 2 等 ・ 1 級 ※ 2 級
・ 2 4		
・ 9		

・パーティクルボード

厚さ (mm)	接着の程度	曲げ強さ
※ 1 2	・ M タイプ ・ P タイプ	・ 18 タイプ ※ 13 タイプ ・ 8 タイプ
・		

・構造用パネル

厚さ (mm)	等級	備考
・	・	・
・		

接合具等

釘

・表面処理された鉄

・ステンレス鋼

・

木ねじ

※ステンレス

・

諸金物

※垂鉛めっき品

・

接着剤

ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防蟻剤を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※ F ☆☆☆

・ F ☆☆☆

・行う ()

・行わない

・行う ()

・行わない

・行う ()

・行わない

内部間仕切軸組及び床組に用いる木材

・特記がなければ、杉又は松とする。ただし、土間スラブの類の場合の土台、転ばし大引及び転ばし根太は、ひのき又は保存処理木材とする。

・間仕切軸組に用いる木材 ()

・床組に用いる木材 ()

窓、出入口その他に用いる木材

・特記がなければ、杉又は松とする。

・窓、出入口その他に用いる木材 (杉)

床板張りに用いる木材

・特記がなければ、ひのきとする。なお、フローリングは、19章5節【フローリング張り】による。

・縁甲板及び上がりがまちに用いる木材 ()

壁及び天井下地に用いる木材

・特記がなければ、杉又は松とする。

・壁下地に用いる木材 (杉)

・天井下地に用いる木材 ()

⑬屋根及びとい工事

⑬①長尺金属板葺
(13. 2. 2～3)
(表13. 2. 1)

⑬②折板葺
(表13. 2. 1)

(13. 3. 2)

(13. 3. 3)

・長尺金属板の種類

形式

・横葺

○瓦棒葺

・平葺

・立ハゼ葺

種類

・塗装溶融垂鉛めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（CGCCR-20-Z25）

・ポリ塩化ビニル被覆金属板（A種、SG）

・塗装溶融垂鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（CZACCR-20）

※溶融55%アルミニウム－垂鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（CGLCCR-20-AZ）JIS G 3322

○カラーガルバリウム遮熱鋼板

鋼板の厚さ (mm)

一般部 ※0.4

・

・

谷部 ※0.4

・

・

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※図示による

下葺材料

・アスファルトルーフィング940

・改質アスファルトルーフィング下葺材

耐風圧検査

○行う

・行わない

長尺金属板の種類

材種

※塗装溶融垂鉛めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（CGCCR-20-Z25）

・ポリ塩化ビニル被覆金属板（A種、SG）

・塗装溶融垂鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（CZACCR-20）

○カラーガルバリウム遮熱鋼板

種類

山高 90 mm

山のピッチ mm

厚さ 0.6 mm

形による区分

※重ね形

○はざ締め形

・かん合形

タイトフレーム、けらば納めは屋根ふき工法に応じた専門業者の仕様による。

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※図示による

・

⑭金属工事

⑭①モルタル塗り
(15. 3. 2)

⑭②防水モルタル塗り

3 セルフレプリング
材塗り
(15. 4. 2) (表15. 4. 1)

⑭④仕上塗材仕上げ
(15. 6. 2. a)

(15. 6. 2) (表15. 6. 1)

(15. 6. 2) (表15. 6. 1)

(15. 6. 2) (表15. 6. 1)

(15. 6. 2) (表15. 6. 1)

(15. 6. 2) (表15. 6. 1)

(15. 5. 4)

(15. 5. 7) (表15. 5. 4)

・300 形（呼称肉厚は 1.8以上）

○350 形（呼称肉厚は 2.0以上）

・（呼称肉厚は 以上）「建築標準仕様書」表 14. 7. 1以外の既製品

・（呼称肉厚は 以上）「建築標準仕様書」表 14. 7. 1以外の既製品

※AB－1種又はB－1種

表面処理

※AB－1種又はB－1種

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した固定金具の間隔、固定方法等

※図示による

材料

吸水調整材の品質

※「建築標準仕様書」表15. 3. 2による

既製目地材

○使用しない

・使用する

形状、寸法

()

防水剤

※実績等の資料を監督員に提出する

セルフレプリング材の種類

種類	厚さ (mm)	施工箇所
・セメント系	※ 10	・
・石こう系	※ 10	・

仕上塗材材料

内装仕上に用いる塗材のホルムアルデヒド放散量

※ F ☆☆☆

・

防火材料：屋内の壁及び天井の仕上り材は、防火材料又は建築基準法に基づく、基材同等の認定表示のあるものとする。

・薄付け仕上塗材

種類	仕上の形状	工法
・外装薄塗材 E	・砂壁状	・吹付け
・	・	・
・内装薄塗材 E	・砂壁状じゅらく	・吹付け
・可とう形外装薄塗材 E	・砂壁状	・吹付け
・	・	・

・厚付け仕上塗材

・内装珪藻土珪仕上

種類	仕上の形状	工法	上塗材
・外装薄塗材 E	・吹放し	・吹付け	・行う
	・凸部処理		・行わない

○複層仕上塗材

種類	仕上の形状	工法	上塗材		
※複層塗材 E	※凹凸模様	※吹付け	※水系	※アクリル系	※つやあり
・複層塗材 C E	・凸部処理	・吹付け	・水系	・アクリル系	・つやあり
・可とう形複層塗材 C E	・凹凸模様	・ローラー	・溶剤系	・ポリウレタン系	・つやなし
・複層塗材 S i	・ゆず肌状		・弱溶剤系	・アクリルシリコン系	・メタリック
○複層塗材 R E	・			・ふっ素系	
・	・			・シリカ系	
・	・				
・	・				

・軽量骨材仕上塗材

種類	仕上の形状	工法
・吹付用軽量塗材	・砂壁状	・吹付け
・こて塗用軽量塗材	・平たん状	・骨材混入
		・こて塗り

下地処理

ALCパネル内壁目

地部の形状

※V型目地付き

・

所要量等の確認

※「建築標準仕様書」表15. 5. 4による

・

⑮左官工事

1 防火戸の指定
(16. 1. 3)

2 見本の製作等
(16. 1. 4)

⑮③アルミニウム製建具
(16. 2. 2～16. 2. 4)
(表16. 2. 1)

4 アルミ樹脂複合サッシ

※図示による

※防火戸は、建築基準法第2条第九号の二ロの規定に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする。

建具見本の製作

・製作する（図示）

※製作しない

特殊な建具の仮組

・行う（図示）

※行わない

建具の製作所

※監督員の承諾する製作所

性能及び構造

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級

性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法
種 別				
・ A 種	※ S－4	※ A－3	※ W－4	70mm（注）
○ B 種	※ S－5			
・ C 種	※ S－6	※ A－4	※ W－5	100mm

（注）引違ひ・片引き・上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は、100mmとする

耐風圧性は取付高さに適応したものである。

表面処理

○外部

○BB－2種

○内部

○BC－2種

工事名

日枝中学校ELV棟増築工事（建築）

図 名

特記仕様書-5

縮 尺

—

番 号

49 枚の内 A-005 号

設 計
年 月 日

令和7年2月

設 計

(有)斐太プランニング一級建築士事務所
一級建築士 第266975号 門 秀樹

高 山 市

建築工事特記仕様書（最新版）No. 6/8			章	項		特記事項	章	項		特記事項
章	項		特記事項				章	項		特記事項
⑬ 建 具 工 事	④ 網戸 <									

建築工事特記仕様書（最新版） No. 7/8

建築工事特記仕様書（最新版）No. 7/8

章

項

⑬内装工事

6

畳敷き（19. 6. 2）

⑦せっこうボード
その他ボード
及び合板張り
(19. 7. 2)
(表19. 7. 1～表19. 7. 5)

畳の種別
種別・A種・B種※C種・D種
防虫処理防虫加工紙を使用する場合は、薬事法の承認を受けたものとする（A、B、C種）

※天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。
○せっこうボード製品

材種・規格	施工箇所	張 り 方	厚 さ (mm) 等
○せっこうボード (JIS A6901)	○壁	○下張り ○上張り ・直張り	・9. 5 (準不燃) ○12. 5 (不燃) ・
	○天井	○下張り ○上張り ○直張り	○9. 5 (準不燃) ・12. 5 (不燃) ・
・化粧せっこうボード (トラバーチン模様) (JIS A6901)	・天井	・直張り	・突付け ※9. 5 (準不燃)
・化粧せっこうボード (プリント)(JIS A6901)	・天井	・直張り	・突付け ・9. 5 (準不燃)
・吸音用穴あきせっこう ボード(JIS A6301)	・天井	・直張り	・目透し ・突付け ・不燃性原紙裏張り
・ロックウール化粧吸音板 (JIS A6301)	・天井	・上張り ・直張り	・突付け ・9. 0 (不燃) ・12. 0 (不燃) ・15. 0 (不燃)
・強化石膏ボード	・壁	・下張り	・継目処理 ・12. 5

・繊維強化セメント板

種 類	施工箇所	張 り 方	規格・厚さ (mm)
・けい酸カルシウム板	・壁 ・天井	・目透し ・突付け ・突付けV目地	※0. 8 F K ・1. 0 F K ・6. 0 (不燃) ・8. 0 (不燃) ・10. 0 (不燃) ・12. 0 (不燃)
・普通板 (JIS A5430)			
・化粧ボード (JIS A5430)	・壁 ・天井	・目透し (シーリング) ・突付け ・ジョイナ	

・その他ボード

種 類	規 格 等
・木毛セメント板 (JIS A5404)	天井壁
・鉛複合板	
・	

・合板

材 料	樹種名	処理	耐水性、厚さ (mm) 等
・普通合板	ラワン	・防虫・難燃	類・5. 5・12. 0・15. 0
	シナ	・防虫・難燃	類・4. 0・
・天然木化粧合板			
・			

合板のホルムアルデヒド放散量等
※F☆☆☆☆、非ホルムアルデヒド系接着剤使用（普通合板及び天然木化粧合板に限る）、非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用（天然木化粧合板に限る）並びに非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用（特殊加工化粧合板に限る）とする。
・

(19. 7. 3)

⑧壁紙張り（19. 8. 2）

建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの

施工箇所	品質（製造所）	防火性能の種別
各室	AA等級	・
		・
		・
		・

壁紙のホルムアルデヒドの発散量※F☆☆☆☆・

⑨断熱材（19. 9. 2）

断熱材打込み工法

材 種	種 別	厚 (mm)	施工箇所
・ビーズ法 ポリスチレンフォーム保温材			
※押出法 ポリスチレンフォーム保温材	・2種b ○3種b	※25○50 ・20	
・A種硬質ウレタンフォーム 保温材			
・フェノールフォーム保温材			

項

特記事項

(19. 9. 3)

※保温材は全てA種（ノンフロン類）とする
※フェノールフォーム保温材のホルムアルデヒド放散量※F☆☆☆☆
断熱材補修材・断熱材と同材・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材
断熱材現場発泡工法

材 種	種 別	厚 (mm)	施工箇所
・吹付け硬質ウレタンフォーム 断熱材	※A種1 難燃性	・35 ・35	外壁面、熱橋部（外壁より1m範囲） スラブ下

※難燃性・2級※3級
断熱材充填工法

材 種	種 別	厚 (mm)	施工箇所
○グラスウール断熱材 気密シード付き	・16kg品 ・24kg品 ○32kg品	・50 ・90 ○100○50	図示 図示 図示

1フリーアクセス
フロア(20. 2. 2)

フリーアクセスフロアユニット製品類

施工箇所	材 質	寸法・高さ	耐荷重性能	耐震性能

※表面仕上材※図示による・
・帯電防止性能・漏えい抵抗

2可動間仕切(20. 2. 3)

・パーティション

構造形式種別	構成基材の種類	パネル表面材・仕上	遮音性能	防火性能
・スタッド式	※アルミ			・不燃
	・スチール			・

3移動間仕切(20. 2. 4)

・スライディングドア

操作方法種別	パネル表面材・仕上	圧接装置操作方法	遮音性能	防火性能
・手動式 ・		・ハンドル回転式 ・プッシュ式		・不燃 ・

・アコーディオンドア
製造所

4トイレブース
(20. 2. 5)

・トイレブースの仕様

表面材の材質（下小口共）	脚 部	ドアエッジ
※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木 ・支柱	※SUS ・ ・標準 ※R付 ・アルミ ・SUS

金物※図示による（見本提出のうえ監督員の承諾を受ける。）

5階段滑り止め
(20. 2. 6)

・階段滑り止めの仕様

材 種	形状・寸法	工 法	フラットエンド
・ステンレス製 ・アルミ製	※タイヤ入 ・タイヤなし	※35mm ・	※接着工法 ・埋込工法 ・有（ ） ・なし

6黒板及び
ホワイトボード
(20. 2. 8)

・黒板及びホワイトボードの仕様

種 類	色	暗線	施工箇所
・黒板	※焼付	※緑 ・黒 ・有 ・なし	
・ホワイトボード	※ほうろう	・白 ・有 ・なし	

枠
形状・木製（図示による）
・平面
・平面（行事）
・
・アルミ製
・有（図示による）
・
・
・ ・アルミ製 箇所 箇所 箇所 || チョークボックス | ・アルミ製 | ・ | |
| ピクチャーレール | ・有（図示による） ・ | ・ ・ | |

⑦表示（20. 2. 10）
○図示による

※法令に基づく表示（非常用進入口等の表示は、消防法に適合する市販品を使用）
・衝突防止表示（
）
・室名札（
）
○ピクトグラフ（
）
・案内板（
）
・視覚障害者案内板（
）
・シンボルマーク（
）
・車イスマーク（
）
・施設名文字（
）
・切抜文字（
）
・箱文字（
）
・ステンレス
文字数（
）
・ステンレス
文字の大きさ（
×
）

8ブラインド及び
ロールスクリーン
(20. 2. 12)(20. 2. 13)
・図示による

・ブラインドの仕様
スラットは消防法で定める防炎性能の表示があるものとする

形 式	※横形(JIS A4801)	・縦形
種 類	※ギア式	・コード式 ※コード方式
スラットの幅	※25mm ・35mm	・100 ・75
スラットの材種	※アルミニウム合金	・
ボックス等の材種	※鋼製	・
		※アルミ（ヘッドレール）

・ロールスクリーンの仕様
スクリーンは消防法で定める防炎性能の表示があるものとする
※ロールスクリーンの操作方式、幅及び高さは、図示による
※ロールスクリーンの材種、品質等は、図示による
※ロールスクリーンの色見本を監督職員に提出する
※ロールスクリーンの巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は
※ロールスクリーンの巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は
・製造所の仕様による
製造所

章

項

⑳ユニット及びその他工事

9カーテン及び
カーテンレール
(20. 2. 14)
・図示による

カーテン及びカーテンレールの仕様
きれ地は消防法で定める防炎性能の表示があるものとする

きれ地の品質等（製造所）	ひだの種類	防炎性能の表示

10スクリーン

種 別※ホワイトスクリーン
形 式※スプリング巻上（ノーショック）式
寸法 (mm)※幅（
）
・高さ（
）

11くつふきマット

枠
マット
排水
※ステンレス製
※塩化ビニル製
※設ける（排水目皿V P 50φ）
・黄銅製
・ゴム製
・アルミ合金製
・鉄製
・設けない

12厨房器具

・厨房器具
・下記表による
・図示による

器 具 名	規格・施工箇所等
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	
・	

建築工事特記仕様書（最新版）No. 8/8

章

項

②④追記事項

①路床(22.2.2)
(表3.2.1)(22.2.3)
(22.2.5)

遮断層
フィルター層
路床安定処理
路床の盛土材料
路床の試験

※適用しない
※適用しない
※適用しない
・A種
C B R試験
路床締固め度の試験
砂の粒度試験

・適用する（厚mm）
・適用する（厚mm）
・
・B種
・C種
・行わない
・行わない
※行わない

・D種
※行う
※行う
・行う

②路盤(22.3.2)
(22.3.3)
(22.3.5)

路盤の構成
材料
締固め度の試験

・車道部：100、歩道部：100
・砕石クラッシャラン
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・行わない

○図示による
※再生材クラッシャラン
・
※行う

③アスファルト舗装(22.4.2)
(22.4.3)

舗装厚
アスファルト

車道部
歩道部
・再生アスファルト

○50（基層なし）
・30
・

・
・ストレートアスファルト

加熱アスファルト混合物等の種類

表層
基層

※密粒度アスファルト混合物(13)
※粗粒度アスファルト混合物(20)

・
・

(22.4.6)

シールコート
切り取り検査
アスファルト混合物等の抽出試験

・行う
※行う（箇所）
・行う

※行わない
・行わない
・行わない

4コンクリート舗装(22.5.2)
(22.5.3)
(22.5.6)

コンクリート舗装の仕様
舗装厚
コンクリート
目地材
溶接金網
コンクリート版の厚さの試験

・150
・
・
・
・使用する(150□×6φ)
・行う

・
・
・
・
・使用しない
・行わない

5カラー舗装(22.6.2)

舗装厚及び種類
※アスファルト混合物
切り取り検査

車道部
歩道部

・50（基層なし）
・30
※行う（箇所）

・
・
・行わない

6透水性アスファルト舗装(22.7.2)

舗装の構成及び厚

車道部（ポリマー改質アスファルトⅠ型）
歩道部（ストレートアスファルト）

・50
・30

7ブロック系舗装(22.9.2～5)

・インターロッキングブロック舗装
基層
クッション材
種類、形状

・コンクリート舗装
※砂
・
製造所

⑧区画線

路面標示用塗料
色

・1種
※白
塗布幅

・2種
※図示
150

※3種1号
塗布厚さ

・1、0

23植栽工事

1植栽地の確認(23.1.3)

植栽基盤(23.2.2)
(表23.2.1)

土壌の水素イオン濃度、水溶性塩類等の試験

・行う
※行わない

2植栽基盤(23.2.2)
(表23.2.1)

植栽基盤
有効土層の厚さ（cm）

・適用する
・適用しない（ただし、芝及び地被類の植栽の場合は整備する）

	樹木				芝、地被類	
	高木		低木			
樹高	12m以上		7～12m		※20・	
有効	※100・		※80・			
土層	・		・			
工法	樹木	※A種	・B種	・C種	・D種	
	地被類	・A種	※B種	・C種	・D種	
	土壌改良材	※パーク堆肥 ・汚泥発酵肥料（下水コンポスト）				
3支柱材	支柱材	※杉の焼丸太 ・竹				
4芝	種類	※コウライシバ ・ノシバ				
5新樹木、芝 地被類の枯補償	新樹木の枯補償期間	(※1年 ・年)				
	芝、地被類の枯補償期間	(※1年 ・年)				
6移植樹木の枯損処理	移植樹木の枯損処理を行う期間	(※1年 ・年)				

②④追記事項

①建設機械

1）本工事においては、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」（平成9年7月31日建設省告示第1536号、最終改正平成16年9月24日国土交通省告示第1151号）に基づき指定された建設機械を使用する。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議の上、必要書類を提出するものとする。
2）本工事においては、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日建設省経機発第249号、最終改正平成14年4月1日国総施第225号）に基づき指定された建設機械を使用する。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年建設技術評価制公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」又はこれと同等の開発目的で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策機械と同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。
排出ガス対策建設機械、又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。

章

項

特記事項

②④追記事項

②軽微な変更等

現場の納まり、取り合い等の関係による協議の中で、形状、寸法等の軽微な変更は、監督員の指示による。なお、この場合の請負金額の変更は行わない

③下請契約

本工事において、下請契約を締結する場合には、「高山市公契約条例」（平成30年4月1日施行）に基づき、当該契約の相手方を高山市内に本店（建設業法（昭和24年法律第100号）に規定する主たる営業所含む。）を有する者の中から選定するよう努めること。
下請け業者の選定に当たっては高山市入札参加資格停止の処置がされていないこと。

④事故報告

工事施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督員に通報するとともに、事故発生報告書を監督員に提出する。

⑤重点監督対象工事

当該工事が高山市重点監督対象工事となった場合は、その取扱いによるものとする。

⑥経年検査

建築竣工引渡後1年が経過した時点において係員立合のもとで1年検査を行い、工事不良の為生じたと認められる損害等についても、係員の指示に従い改修しなければならない。
なお、その費用については請負者の負担とする。

⑦損害保険

工事中出来高部分と工事現場に搬入した工事材料・建築設備の機器などに火災保険または建設工事保険を付し、その証券の写しを監督職員に提出する。
1）損害の補填条件
a. 火災、落雷、爆発又は破裂
b. 台風、旋風、暴風、暴風雨の風災
2）保険金
原則として請負金額とする。
3）保険の期間
保険の加入の時期は、原則として工事着工のときとし、終期は工事完成後14日までとする。
4）協議
この取扱いにより難い事項については、必要に応じて請負者は、監督職員と協議するものとする。

⑧実施状況の提出について

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

⑨工事着手前協議について

1）本工事の受注者は、契約後1～2週間以内に設計書内容等について、監督員と工事着手前協議を行うこと。
2）協議に当たっては、別に定める「施工打ち合わせ記録簿」に協議事項を記入し、打ち合わせに持参すること。なお、協議日の設定については、受注者側が事前に監督員と連絡をとり設定しておくこと。
3）協議に当たって、発注者側は監督員及び担当係長又は課長、受注者側は現場代理人及び主任技術者が出席するものとする。
4）協議時、「施工打ち合わせ記録簿」の回答（その他）欄は監督員が記入し、最後に確認を行い監督員・担当係長又は課長の確認印を押印し、写しを現場代理人（主任技術者）が受け取ること。

⑩電子メールの利用

本工事の施工における受発注者間の情報共有は、電子メールを利用すること。運用にあたっては、「電子メールを活用した情報共有における運用指針」による他、工事着手前協議時に監督員と協議の上、決定するものとする。

⑪ディーゼルエンジンの車両の適正燃料の使用について

1）ディーゼルエンジンを動力とする車両にはJIS規格の軽油を使用すること。
2）ディーゼルエンジンを動力とする車両の燃料検査があった場合には協力すること。

⑫工事書類の簡素化について

1）実施にあたっては「工事書類簡素化要領」（技191号平成22年6月30日改正）に基づいて実施すること。

⑬提出書類等

高山市ホームページ上に示された書類とし、監督員協議によりその一部を省略することができる。

工事名

日枝中学校ELV棟増築工事（建築）

図名

特記仕様書-8

縮尺

—

番号

49枚の内 A-008号

設計年月日

令和7年2月

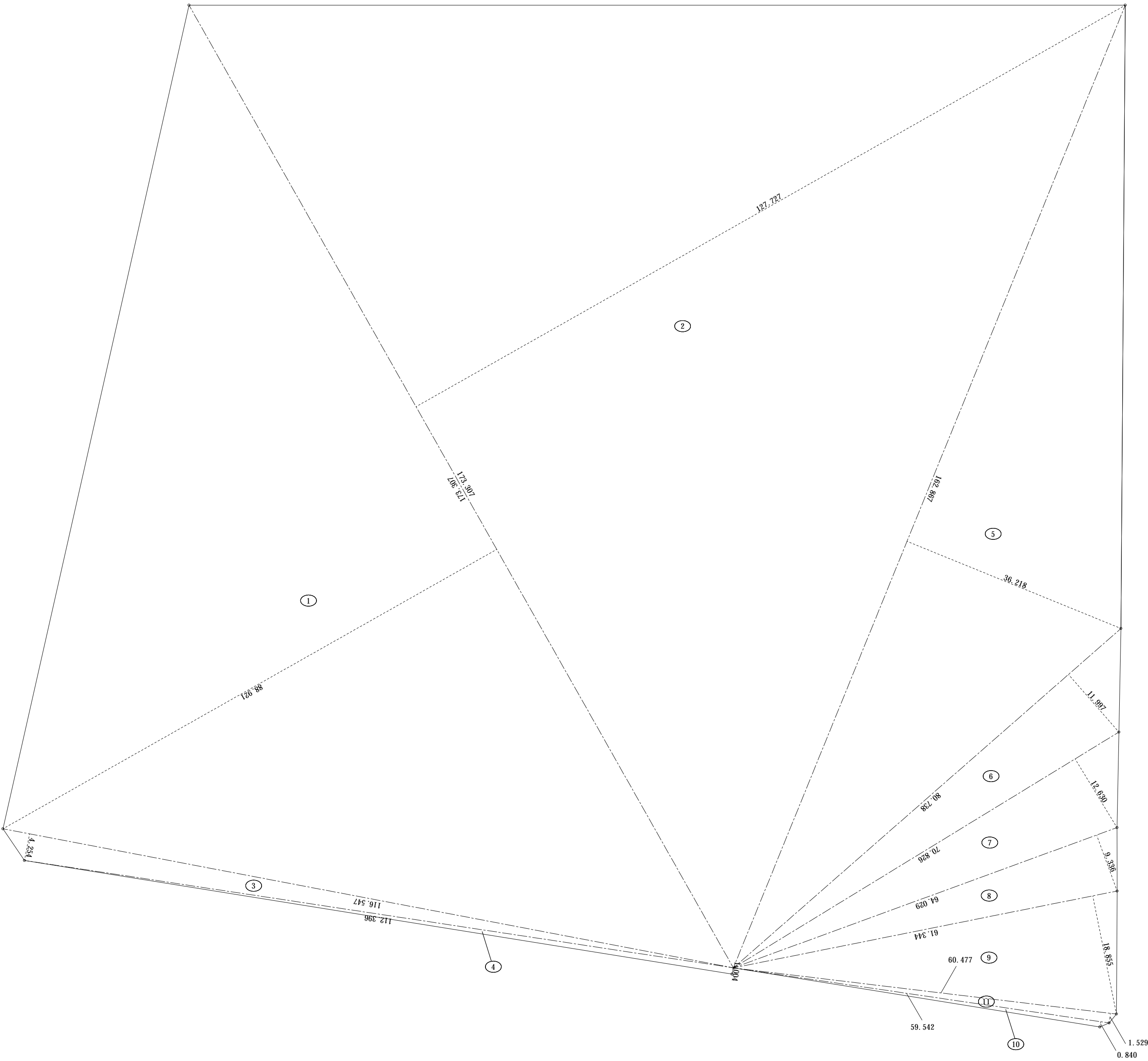
設計

(有)斐太プランニング一級建築士事務所
一級建築士 第266975号 門 秀樹

高山市

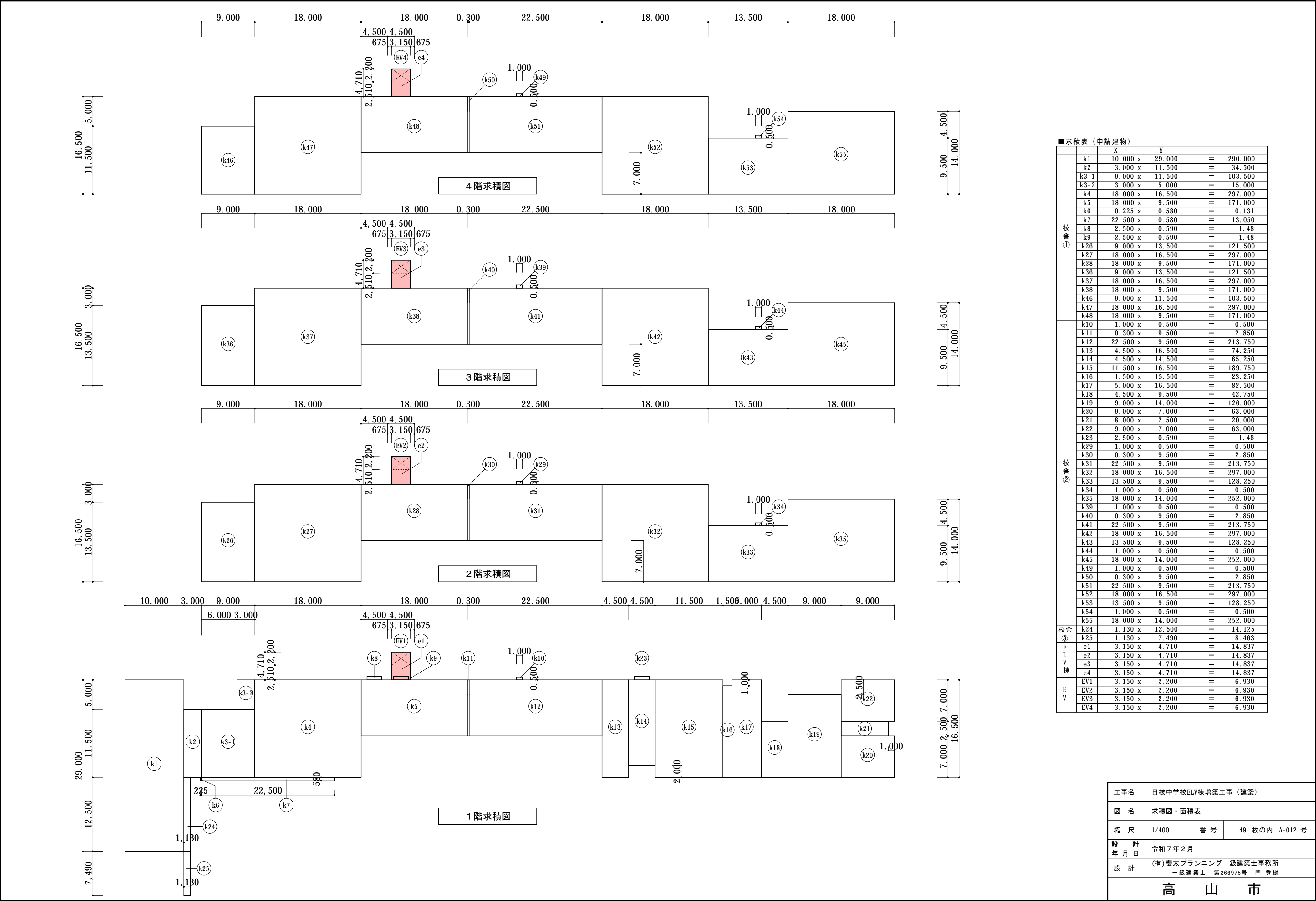


工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	付近見取図		
縮 尺	1/5000	番 号	49 枚の内 A-010 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



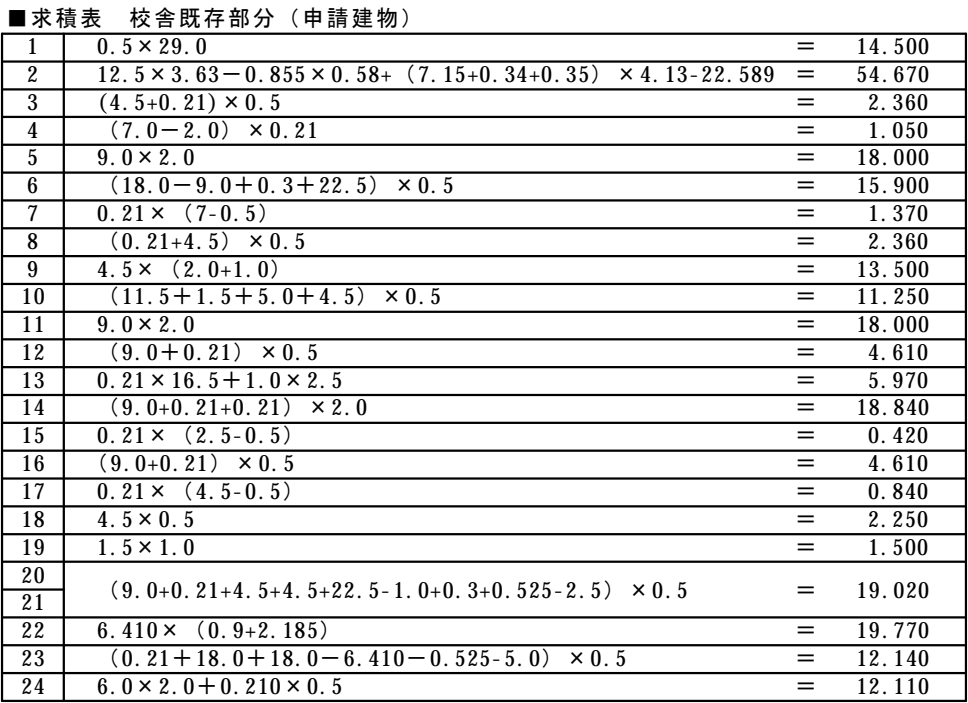
番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	173.307	88.921	15,410.631747	7,705.3158735
2	173.307	127.727	22,135.983189	11,067.9915945
3	116.547	4.254	495.790938	247.8954690
4	112.396	1.004	112.845584	56.4227920
5	162.867	36.218	5,898.717006	2,949.3585030
6	80.738	11.997	968.613786	484.3068930
7	70.826	12.630	894.532380	447.2661900
8	64.029	9.336	597.774744	298.8873720
9	61.344	18.855	1,156.641120	578.3205600
10	59.542	0.840	50.015280	25.0076400
11	60.477	1.529	92.469333	46.2346665
合 計				23,907.0075535
敷 地 面 積				23,907.00 m ²

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	敷地求積図		
縮 尺	1/500	番 号	49 枚の内 A-011 号
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀 樹		
高 山 市			

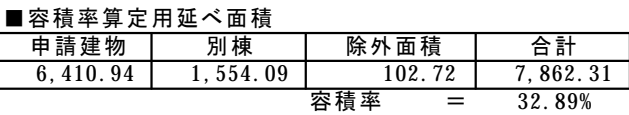
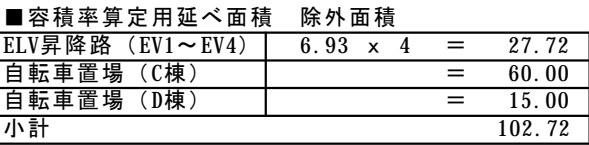
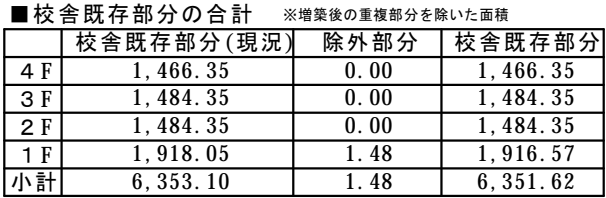
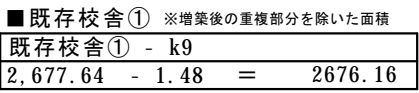
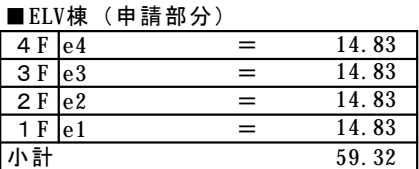
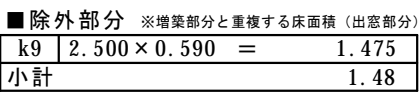
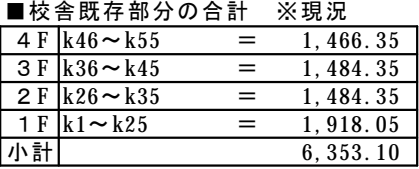
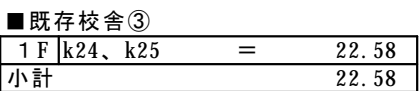
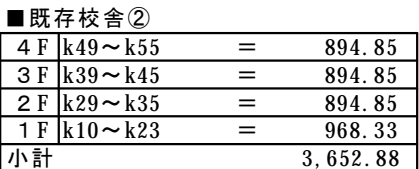
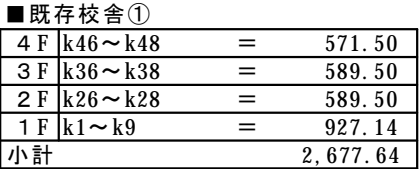


■求積表（申請建物）				
		X Y		
		X	Y	
校舎①	k1	10.000	x 29.000	= 290.000
	k2	3.000	x 11.500	= 34.500
	k3-1	9.000	x 11.500	= 103.500
	k3-2	3.000	x 5.000	= 15.000
	k4	18.000	x 16.500	= 297.000
	k5	18.000	x 9.500	= 171.000
	k6	0.225	x 0.580	= 0.131
	k7	22.500	x 0.580	= 13.050
	k8	2.500	x 0.590	= 1.48
	k9	2.500	x 0.590	= 1.48
	k26	9.000	x 13.500	= 121.500
	k27	18.000	x 16.500	= 297.000
	k28	18.000	x 9.500	= 171.000
	k36	9.000	x 13.500	= 121.500
	k37	18.000	x 16.500	= 297.000
	k38	18.000	x 9.500	= 171.000
	k46	9.000	x 11.500	= 103.500
	k47	18.000	x 16.500	= 297.000
	k48	18.000	x 9.500	= 171.000
校舎②	k10	1.000	x 0.500	= 0.500
	k11	0.300	x 9.500	= 2.850
	k12	22.500	x 9.500	= 213.750
	k13	4.500	x 16.500	= 74.250
	k14	4.500	x 14.500	= 65.250
	k15	11.500	x 16.500	= 189.750
	k16	1.500	x 15.500	= 23.250
	k17	5.000	x 16.500	= 82.500
	k18	4.500	x 9.500	= 42.750
	k19	9.000	x 14.000	= 126.000
	k20	9.000	x 7.000	= 63.000
	k21	8.000	x 2.500	= 20.000
	k22	9.000	x 7.000	= 63.000
	k23	2.500	x 0.590	= 1.48
	k29	1.000	x 0.500	= 0.500
	k30	0.300	x 9.500	= 2.850
	k31	22.500	x 9.500	= 213.750
	k32	18.000	x 16.500	= 297.000
	k33	13.500	x 9.500	= 128.250
	k34	1.000	x 0.500	= 0.500
	k35	18.000	x 14.000	= 252.000
	k39	1.000	x 0.500	= 0.500
	k40	0.300	x 9.500	= 2.850
	k41	22.500	x 9.500	= 213.750
	k42	18.000	x 16.500	= 297.000
	k43	13.500	x 9.500	= 128.250
	k44	1.000	x 0.500	= 0.500
	k45	18.000	x 14.000	= 252.000
	k49	1.000	x 0.500	= 0.500
	k50	0.300	x 9.500	= 2.850
	k51	22.500	x 9.500	= 213.750
	k52	18.000	x 16.500	= 297.000
	k53	13.500	x 9.500	= 128.250
	k54	1.000	x 0.500	= 0.500
	k55	18.000	x 14.000	= 252.000
校舎③	k24	1.130	x 12.500	= 14.125
E L V 棟	k25	1.130	x 7.490	= 8.463
	e1	3.150	x 4.710	= 14.837
	e2	3.150	x 4.710	= 14.837
	e3	3.150	x 4.710	= 14.837
E V	e4	3.150	x 4.710	= 14.837
	EV1	3.150	x 2.200	= 6.930
	EV2	3.150	x 2.200	= 6.930
	EV3	3.150	x 2.200	= 6.930

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	求積図・面積表		
縮 尺	1/400	番 号	49 枚の内 A-012 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



■ 求積表 重複除外部分（申請建物） ※ 既存軒天部分と増築部分の重複部分		
X1	3.150×0.500	= 1.575



■ 建築面積	申請建物	校舎既存部分	(申請外部分)
1階床面積	k1~k25	=	1,918.05
軒天等の合計	1~24	=	255.04
重複除外部分	X1	=	1.57
小計		=	2,171.52

■建築面積 申請建物		
増築部分	校舎既存部分	合計
14.83	2,171.52	2,186.35

■建築面積	申請外建物	敷地内別棟
体育器具倉庫（A棟）		60.75
らく焼棟（B棟）		15.00
自転車置場（C棟）		60.00
自転車置場（D棟）		15.00
体育館		1,342.35
銅製物置		3.34
合計		1,496.44

■ 建築面積		
申請部分	申請外部分	
増築部分	校舎既存部分	別棟
14.83	2,171.52	1,496.44
14.83	3,667.96	
		3,682.79
建築率		= 15.41%

The site plan illustrates the layout of the 2020 Tokyo Olympic Stadium and its surrounding facilities. The main stadium building is a large rectangle with a height of 58.500m, starting at elevation +200 and ending at +25. To its right is the 'らく焼棟 (B棟)' (Rakuyak Building B), which has a height of 46.000m, starting at +200 and ending at +27. Further right is the '自転車置場 (C棟)' (Bicycle Parking C), a small structure with a height of 7.44m, starting at +200 and ending at +200. To the right of the stadium is the '自転車置場 (D棟)' (Bicycle Parking D), which has a height of 45.000m, starting at +200 and ending at +60. To the right of the bicycle parking areas is the '鋼製物置' (Steel Warehouse), which has a height of 119.400m, starting at +60 and ending at +60. The plan also shows the '体育器具倉庫 (A棟)' (Sports Equipment Warehouse A) and the 'らく焼棟 (B棟)' (Rakuyak Building B) with their respective elevations and dimensions.

平均地盤面（日影図検討用）					
建物名称		始点高さ	終点高さ	延長	地盤高×延長
申請建物		0.225	0.225	366.020	82.355
体育器具倉庫（A棟）		25 ～ 25	0.200	0.200	58.500
らく焼焼（B棟）		26 ～ 26	-0.050	-0.050	16.000
自転車置場（C棟）		27 ～ 27	0.200	0.200	46.000
自転車置場（D棟）		28 ～ 28	0.060	0.060	45.000
体育館	29 ～ 30	0.060	0.060	43.000	2.580
	30 ～ 31	0.815	0.815	71.000	57.865
	31 ～ 29	0.060	0.060	15.000	0.900
鋼製物置		32 ～ 32	0.200	0.200	7.440
小計				667.960	167.988

$$\therefore \text{平均地盤面 (日影図算定用)} = \text{設計GL} + 0.250 \text{ m}$$

工事名	日枝中学校ELV増築工事（建築）		
図 名	面積表・平均地盤算定図		
縮 尺	1/400 1/600	番 号	49 枚の内 A-013 号
設 計 日 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

【 建物概要 】

工事名称	日枝中学校ELV棟増築工事（建築・電気）	
工事場所	岐阜県高山市森下町 地内	
用途地域	第二種中高層住居専用地域	
防火地域	法22条第1項指定区域	
その他	下水処理区域	
敷地面積	2,3907.00 m ²	
建築面積	14.83 m ²	
延べ面積	59.32 m ²	
主要用途	中学校（08090）	
耐火建築物等	耐火建築物	
◆主要構造		
【部位】	【仕様】ELV棟	【仕様】既存校舎
基礎	RC独立基礎	RC独立基礎
床	RC造	RC造
柱	鉄骨造（1時間耐火構造）	RC造（1時間耐火構造）
梁	鉄骨造（1時間耐火構造）	RC造（1時間耐火構造）
外壁	鉄骨造（1時間耐火構造）	RC造（1時間耐火構造）
軒裏	-	
屋根	鉄骨造、RCスラブ（1時間耐火構造）	RC造（30分耐火構造）
階段	-	RC造
設備工事	電気設備、消防設備	
備考	別途工事：機械設備（ELV工事、外部配管工事、衛生設備工事）	

【 断熱仕様 】

地域	4地域 高山市	
等級	－	
計算モデル	5項 学校等モデル	
【部位】	【材料】	【熱伝導率】 (W・m・K)
屋根	-	-
天井	グラスウール24K t100	0.038以下
外壁	グラスウール24K t50	0.038以下
床(外気に接する)	-	
床(その他)	押出法ホリスチレンボード3種b t50	0.028以下
外周部(外気に接する土間床)	-	
外周部(その他の土間床)	押出法ホリスチレンボード3種b t50	0.028以下
開口部		備考
窓	7mmサッシ	※増築に開口なし
		7mm樹脂複合サッシ
		樹脂製サッシ
ドア		7mmドア
		スチールドア
		7mm断熱ドア
		スチール断熱ドア
		木製
ガラス	【種類】	【中空層】 【日射】
	ガス入りLow-E複層ガラス12mm	取得型
	ガス入りLow-E複層ガラス12mm	遮蔽型
	Low-E複層ガラス 12mm	取得型
	Low-E複層ガラス 12mm	遮蔽型
	複層ガラス 12mm	－
	複層ガラス 12mm	－
	単板ガラス	－
	－	－
	ブラインド	－

【 耐火・防火仕様凡例 】

●は本工事の適用を示す

	既存校舎	ELV棟			
床	●		RC造、SRC造		H12建告1399号
		●	合成デキスラブ t50+CON80	1時間耐火	FP060FL-9095、FP060FL-9101
			合成デキスラブ t50+CON90	2時間耐火	FP120FL-9107、FP120FL-9113
			ALCt100	1時間耐火	FP060FL-9119
			ALCt120	2時間耐火	FP120FL-9120
柱	●		RC造、SRC造		H12建告1399号
		●	鉄骨造 乾式ロックウール吹付t25	1時間耐火	FP060CN-9460
			鉄骨造 乾式ロックウール吹付t45	2時間耐火	FP120CN-9463
			鉄骨造 ALCt50巻き	1時間耐火	FP060CN-9405
			RC造、SRC造		H12建告1399号
梁	●		RC造、SRC造		H12建告1399号
		●	鉄骨造 乾式ロックウール吹付t25	1時間耐火	FP060BM-9408
			鉄骨造 乾式ロックウール吹付t45	2時間耐火	FP120BM-9411
			鉄骨造 ALCt50巻き	1時間耐火	FP060BM-9352
外壁	●		RC造		H12建告1399号
		●	ALCt100	1時間耐火	H12建告1399号
			ALCt50	1時間耐火	FP060NE-9293
屋根	●	●	RC造、SRC造	30分耐火	H12建告1399号
			硬質木片セメント板t18	30分耐火	FP030RF-9082
			木毛セメント板t25+垂鉛鉄板t0.4	30分耐火	FP030RF-9092
			ALCt100	30分耐火	H12建告1399号
		●	金属板折板 t0.6以上+不燃ペツ裏張り	30分耐火	FP030RF-9326
			硬質木片セメント板t18	1時間準耐火/準不燃	H12建告1358号、QM0796
			繊維強化セメント板t16(ケイ酸板t8+8)	1時間準耐火/不燃	H12建告1358号、NM3522
軒裏			せっこうボード t12+金属板	45分準耐火	H12建告1358号
			繊維混入けい酸カルシウム板 t10,12	30分準耐火	QF030RS-0192
			鉄骨下地 片面GB-Ft21二枚張り	1時間耐火	FP060NP-0497
		●			
間仕切壁					
		●			

※大臣認定について認定書別添の仕様の通りに施工すること

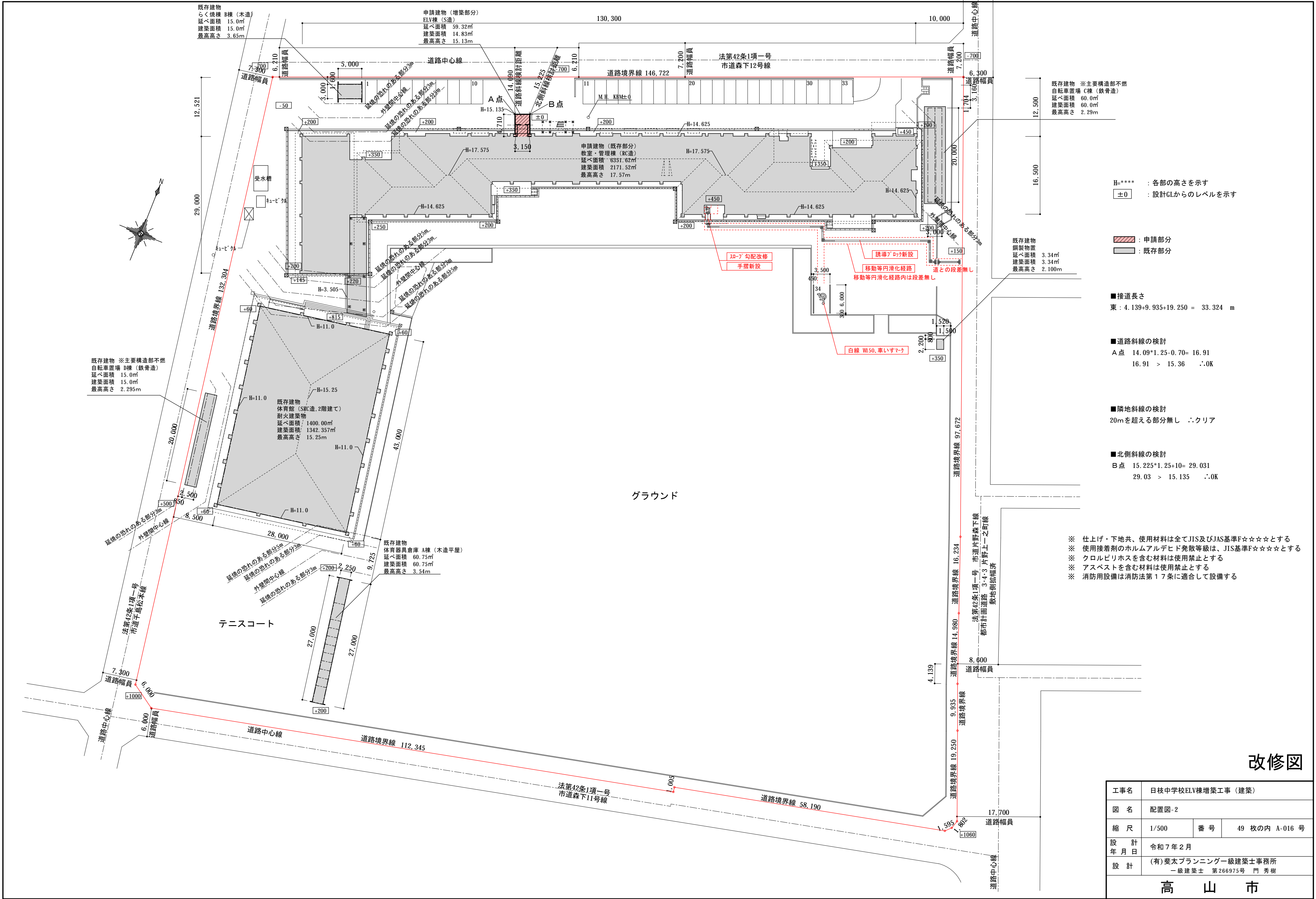
【 共通仕上げ記号 】

GB-Rt12.5～25	せっこうボードt12.5～25（不燃）	NM-8619
GB-Nct9.5	せっこうボードt9.5（不燃）	NM-0441
GB-Rt9.5	せっこうボードt9.5（準不燃）	QM-9828
GB-St9.5～12.5	シージングせっこうボードt9.5～12.5（準不燃）	QM-9826
GB-St12.5	シージングせっこうボードt12.5（不燃）	NM-9639
GB-Dt9.5（壁用）	化粧せっこうボードt9.5（準不燃）	QM-9824
GB-Dt12.5（壁用）	化粧せっこうボードt12.5（不燃）	NM-0128
GB-Dt9.5（和天井用）	化粧せっこうボードt9.5（準不燃）	QM-9824
GB-Dt12.5（和天井用）	化粧せっこうボードt12.5（不燃）	NM-0127
GB-Dt9.5（洋天井用）	化粧せっこうボードt9.5（準不燃）	QM-0524
GB-Dt9.5（洋天井用）	化粧せっこうボードt9.5（不燃）	NM-1864
GB-Dt9.5（吸音）	化粧せっこうボードt9.5（不燃）	NM-0879
GB-Lt7	せっこうラスボードt7（不燃）せっこうプラスター8mm以上	NM-8617
GB-Lt9.5	せっこうラスボードt9.5（不燃）せっこうプラスター3mm以上	NM-8618
GB-Ft12.5～25	強化せっこうボードt12.5～25（不燃）	NM-8615
DR t9	岩綿吸音板t9（不燃）	NM-8599
ビニルクロス	準不燃	QM-9409
ビニルクロス	不燃	NM-0680
不燃構造用合板	t12	NM-1596
不燃OSB	不燃配向性ストランドボード t6.3	NM-3851-2
ケイカル板t6	無石綿セメントケイ酸カルシウム板 t=6 SUSビス用	NM-8618
化粧ケイカルt5	不燃	NM-0393
折板	カラーガルバリウム鋼板t0.6、0.8 不燃	NM-8697
カラーガルバリウム鋼板	不燃	NM-8697
防火サイディングt15	窯業系サイディング 準不燃	QM-0629
防火サイディングt16	窯業系サイディング 不燃	NM-9744
練り付け合板	モアウッド（アイカ）不燃	NM-1739
メラミン化粧板	アイカセラー	NM-2183
SOP	合成樹脂調合ペイント塗り(木部、鉄部B種垂鉛メッキ面 各2面)	
EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り	
EP-G	有光沢合成樹脂エマルジョンペイント塗り	
OS	油性ステイン(ステイン1回)	
UV	ウレタン樹脂 ワニス塗り(2回)	
CL	クリアラッカー塗り	
1-UC	1液型油変性ポリウレタン樹脂ワニス塗り	
2-UC	2液型ポリウレタン樹脂ワニス塗り	
DP	耐候性塗料塗り	
WP	木材保護塗料塗り	

■内部仕上表

室名	床		巾木	壁		廻り縁	天井		天井高	内装制限	備考
	下地	仕上げ		下地	仕上げ		下地	仕上げ			
ELVホール	コンクリート直均し	LVSt2.0	木製巾木H100 ソフト巾木H60	LGS65、GB-Rt12.5 LGS65、GB-Rt12.5	ビニルクロ シ合板t5、WP	塩ビ 木製	LGS、GB-Rt9.5	ビニルクロ	1～3F:2,450 4F:2,150	-	壁・天井：7mmEXP.J金物 床：SUS EXP.J金物
校舎廊下	－	既存フロリング	既存撤去 木製巾木 H100	既存RC壁共撤去、LGS65、GB-Rt12.5	シ合板t5、WP	既存撤去 木製 25x60	－	既存のまま	既存のまま 2,600	-	壁木見切 25x60 床SUS T字見切
				LGS65、GB-Rt12.5	垂れ壁部分 ビニルクロ						

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	建物概要・仕上表		
縮 尺	－	番 号	49 枚の内 A-014 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



H=**** : 各部の高さを示す
±0 : 設計GLからのレベルを示す

申請部分
既存部分

■接道長さ
東 : 4.139+9.935+19.250 = 33.324 m

■道路斜線の検討
A点 14.09*1.25-0.70= 16.91
16.91 > 15.36 ∴OK

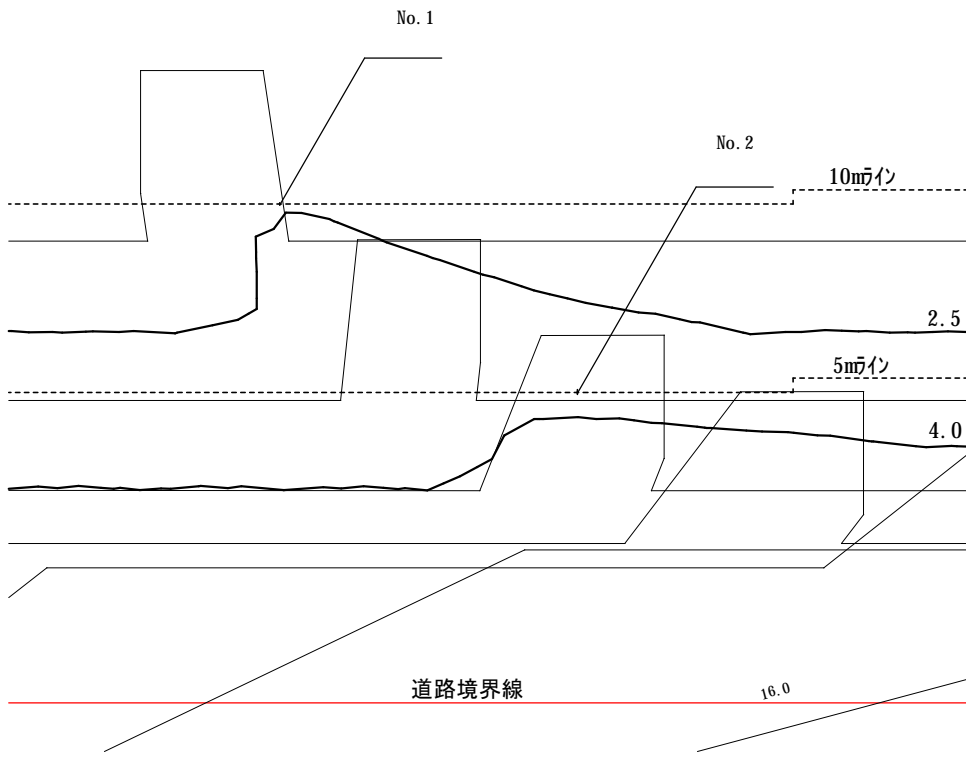
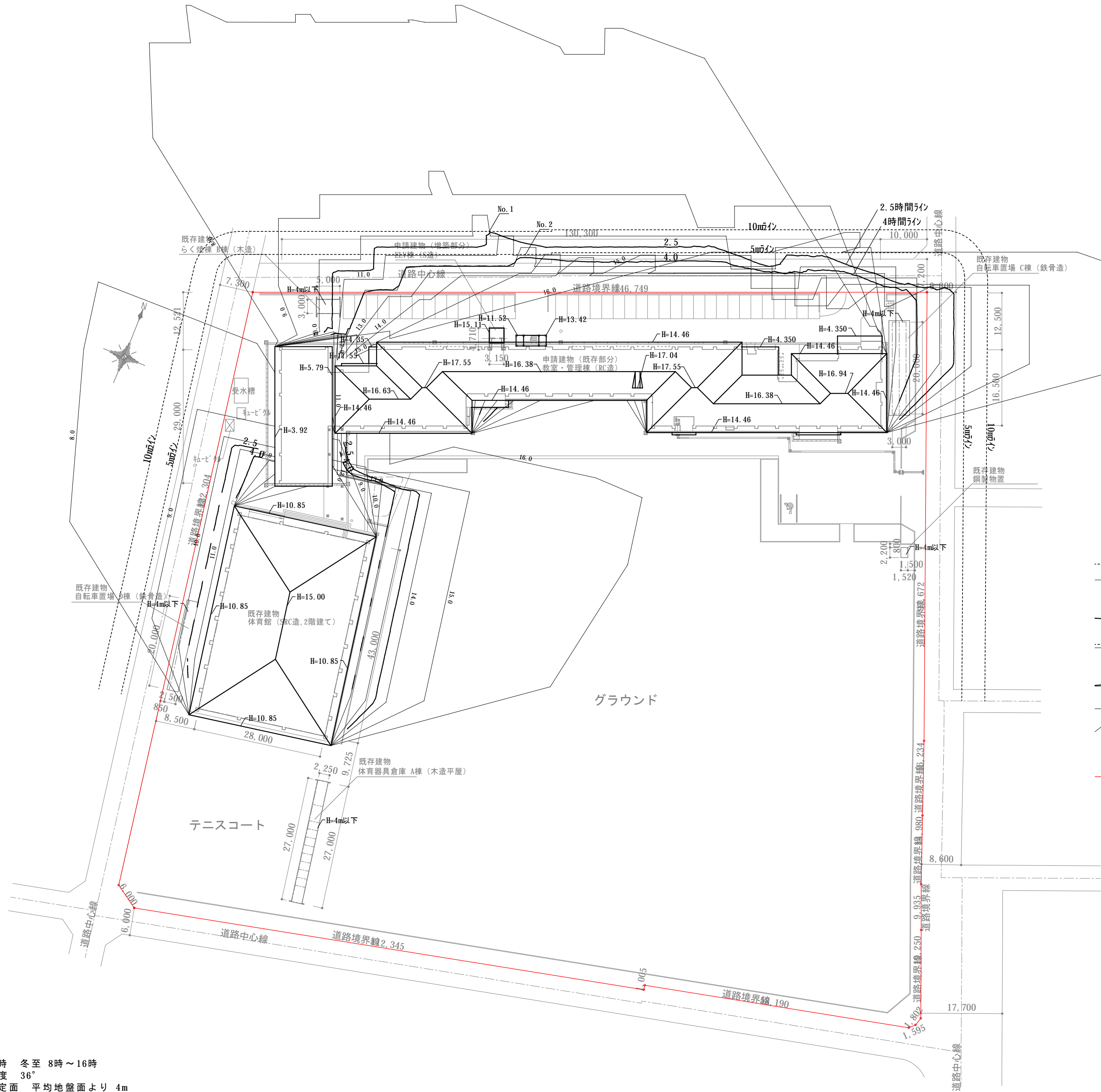
■隣地斜線の検討
20mを超える部分無し ∴クリア

■北側斜線の検討
B点 15.225*1.25+10= 29.031
29.03 > 15.135 ∴OK

※ 仕上げ・下地共、使用材料は全てJIS及びJAS基準F☆☆☆☆とする
※ 使用接着剤のホルムアルデヒド発散等級は、JIS基準F☆☆☆☆とする
※ クロロビリホスを含む材料は使用禁止とする
※ アスベストを含む材料は使用禁止とする
※ 消防用設備は消防法第17条に適合して設備する

改修図

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	配置図-2		
縮 尺	1/500	番 号	49 枚の内 A-016 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

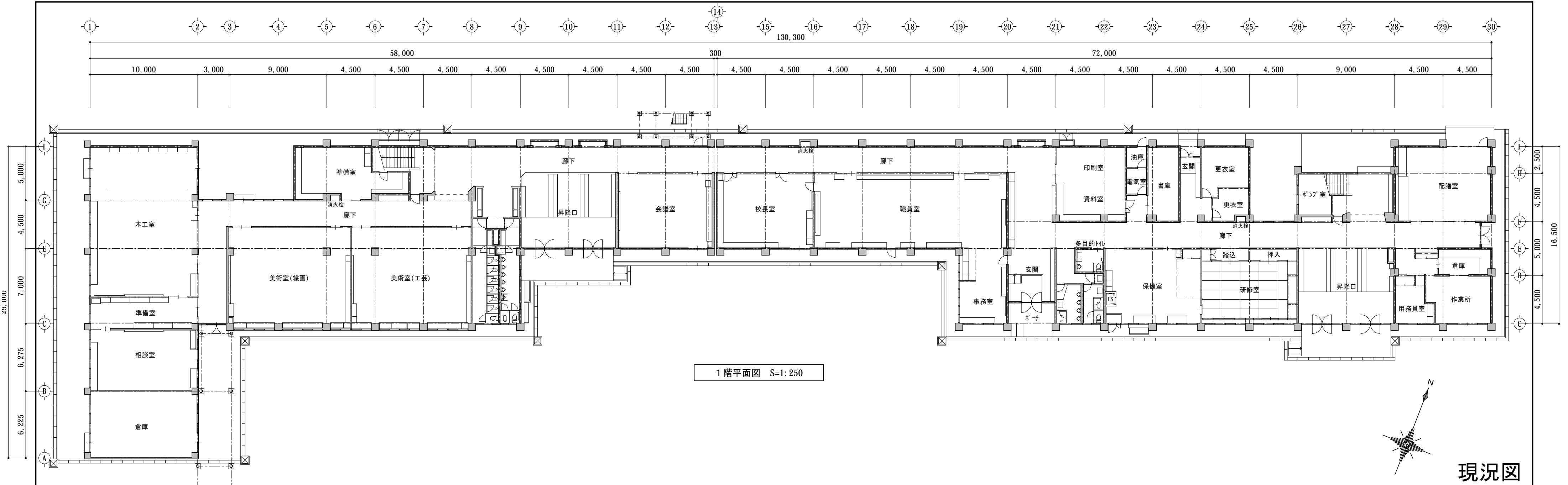


No. 1、No. 2 拡大図 S=1:200

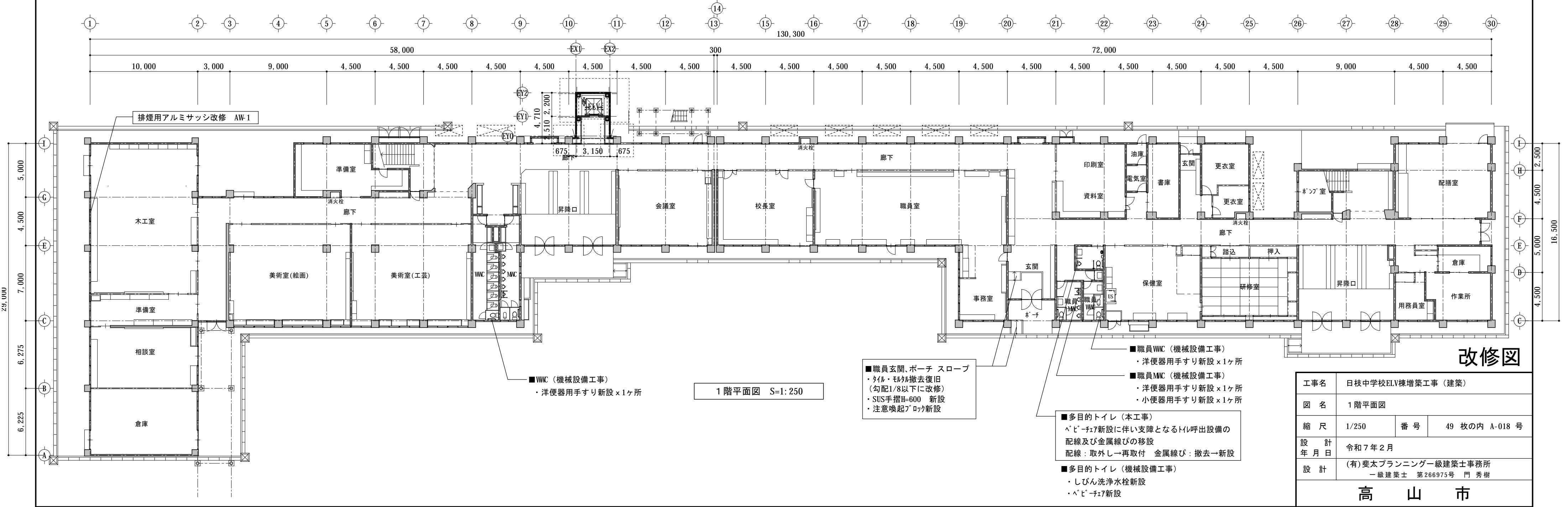
日時 冬至 8時～16時
緯度 36°
測定面 平均地盤面より 4m

No. 1	[2:30'] (8:00') - (9:51') (9:58') - (10:37')
No. 2	[3:44'] (8:00') - (10:57') (11:31') - (12:18')

工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	日影図		
縮 尺	1/700	番 号	49 枚の内 A-017 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

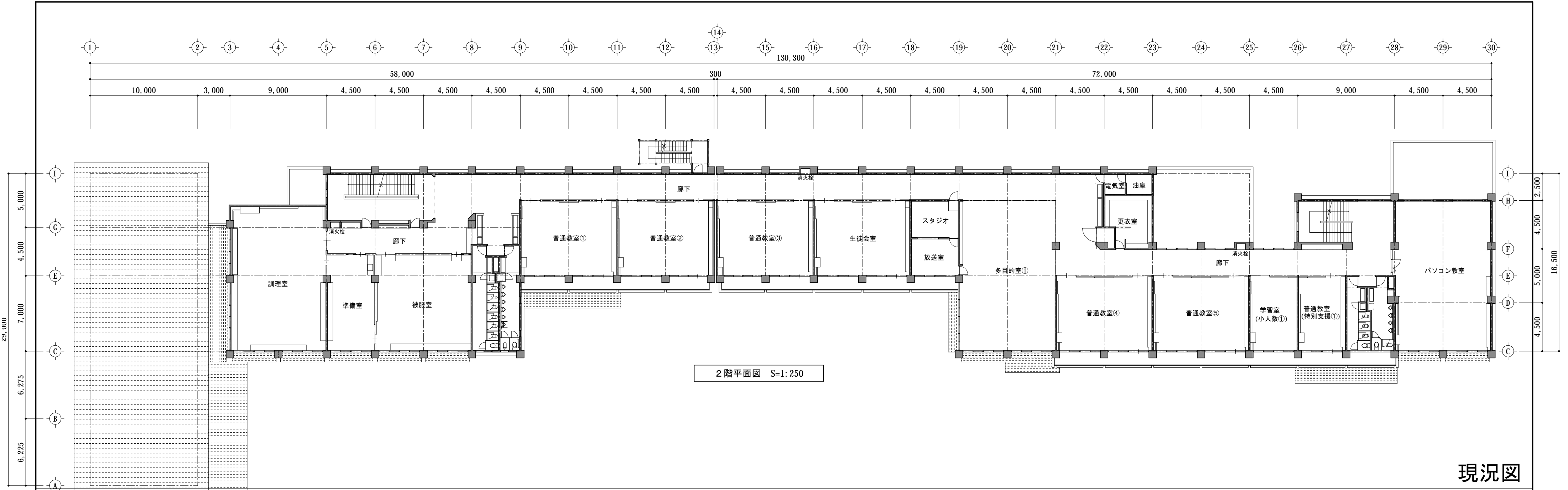


現況図

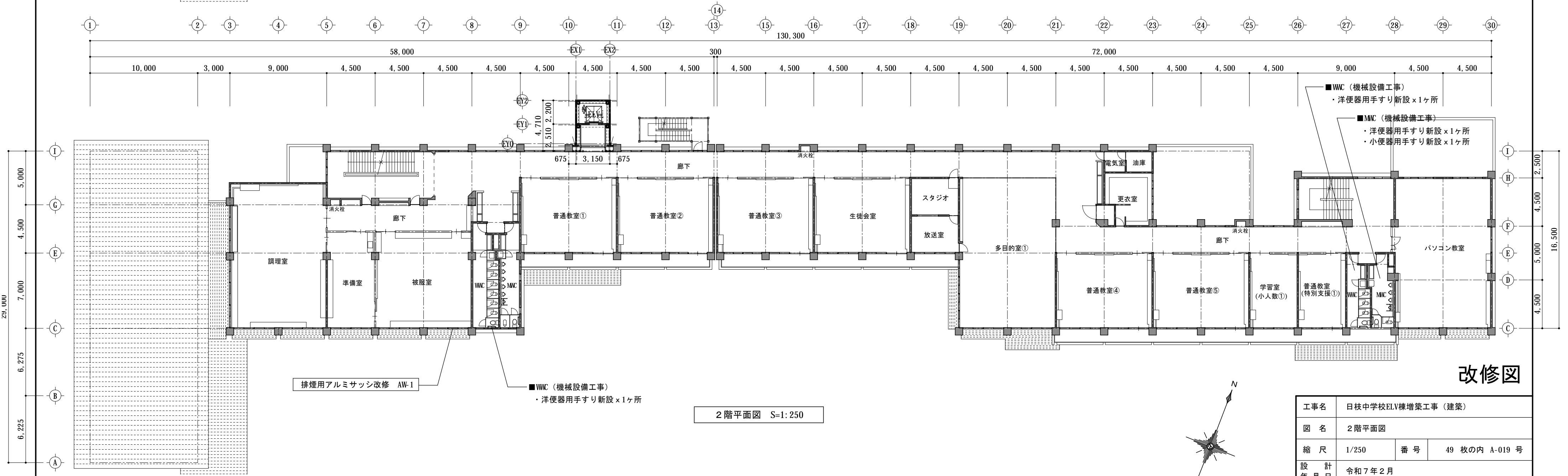


改修図

工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	1階平面図		
縮 尺	1/250	番 号	49 枚の内 A-018 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

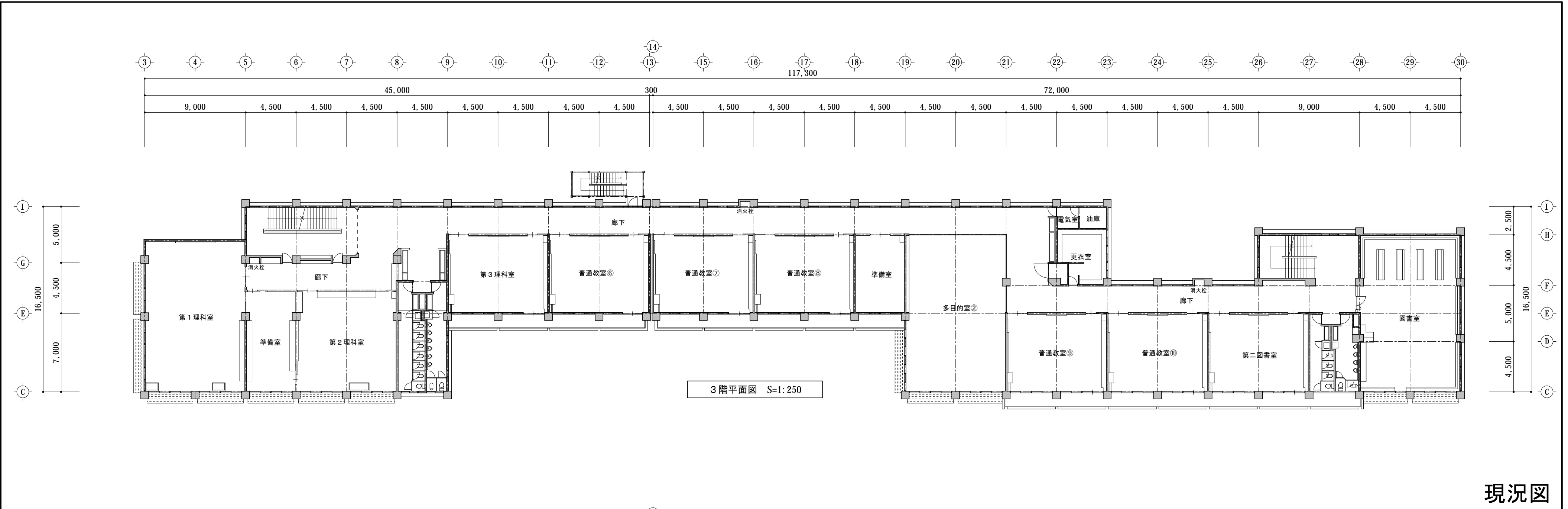


現況図

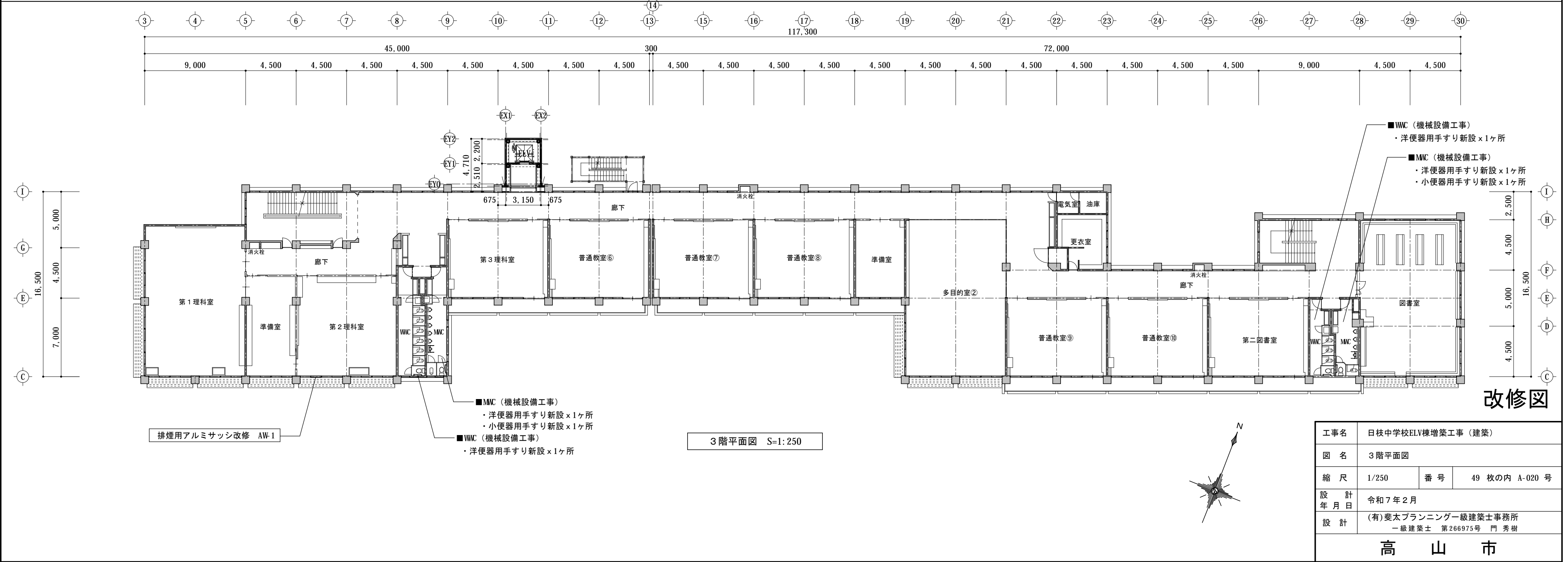


改修図

工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	2 階平面図		
縮 尺	1/250	番 号	49 枚の内 A-019 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

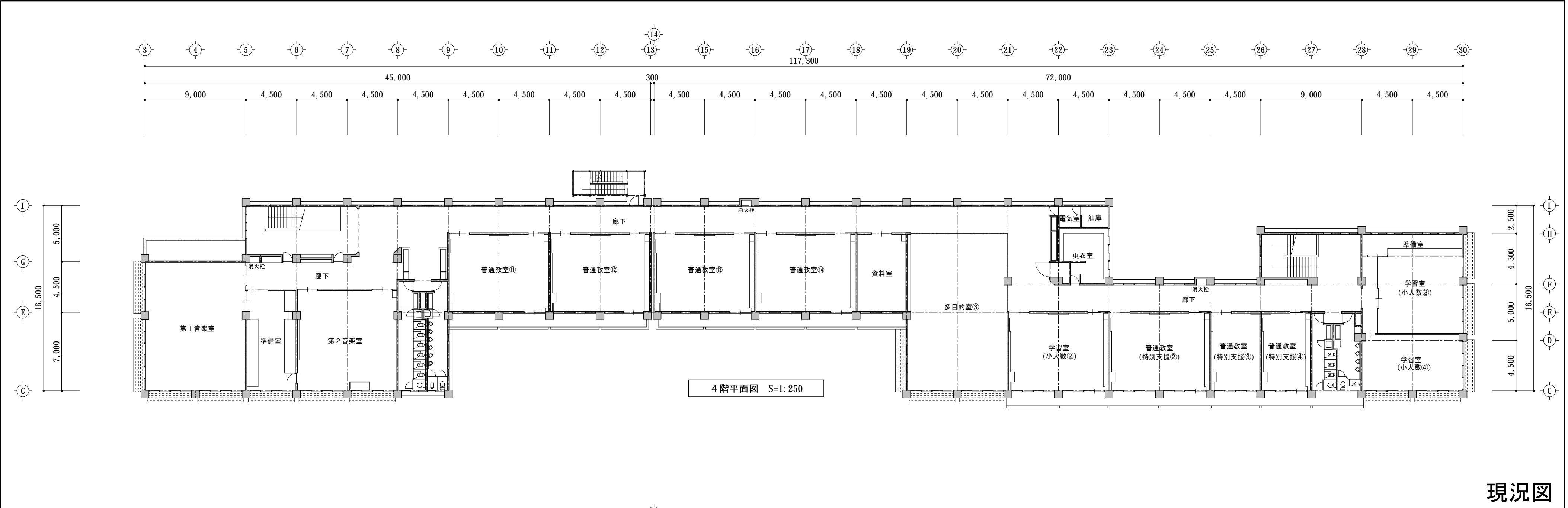


現状図

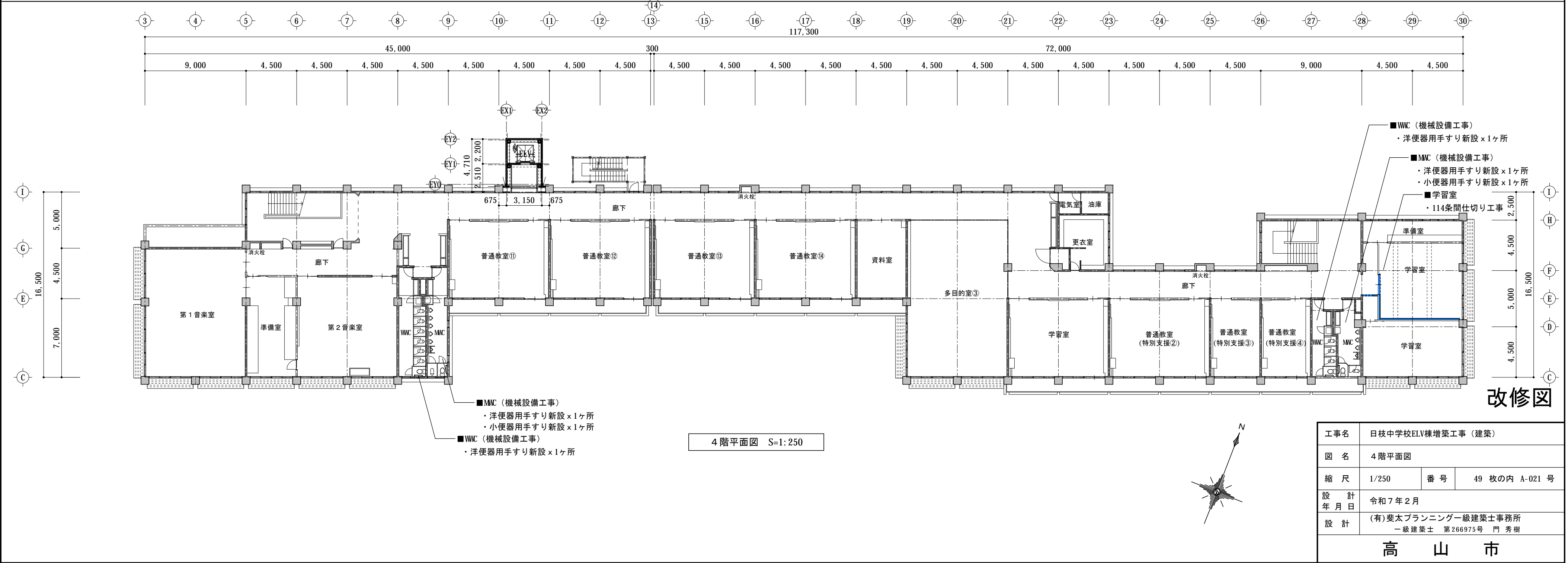


改修図

工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	3 階平面図		
縮 尺	1/250	番 号	49 枚の内 A-020 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



現況図



改修図

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	4 階平面図		
縮 尺	1/250	番 号	49 校の内 A-021 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



北立面図 S=1: 250

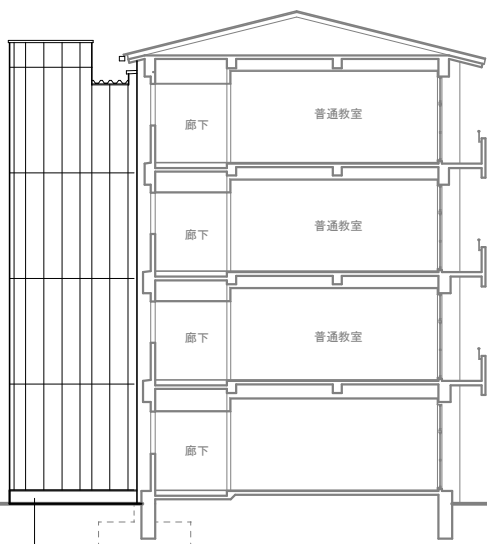
現況図



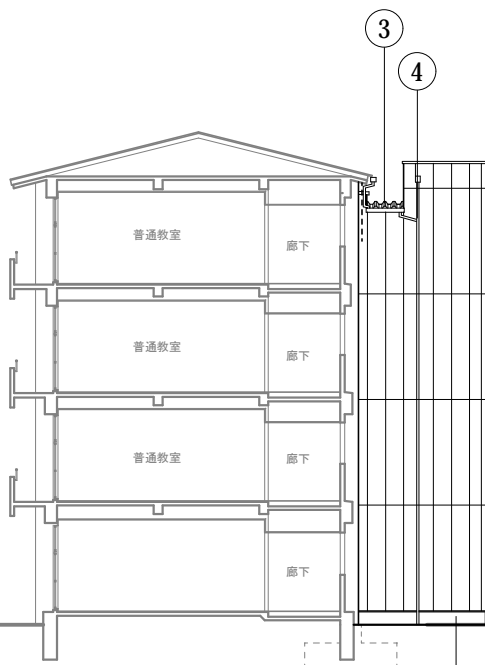
北立面図 S=1: 250

既存建物
▼最高の高さ
既存建物
▼最高軒高
▼平均GL
▲設計GL

1 2 c



西立面図 S=1: 250



東立面図 S=1: 250

■仕上凡例 (E L V 棟)

①	ALCﾊﾞｰﾙt100、下地調整Eの上、複層塗材E吹付
②	巾木：RC打放し、ｸﾚｯｸ塗膜防水密着工法 (X-2)
③	ｶｰｰGLはぜ締め折板t0.6 H=90、不燃ﾊﾞｰﾌ貼り 雪止めL-40x40x3垂鉛ﾒｯﾁ品、最下段ﾊﾞｰﾚｰｶｰﾄﾞ付
④	7ﾐﾃﾞ 100 (ﾊﾟﾝﾄﾞﾚｽ、BB-1) ※樋ﾋｰﾀｰ電気工事

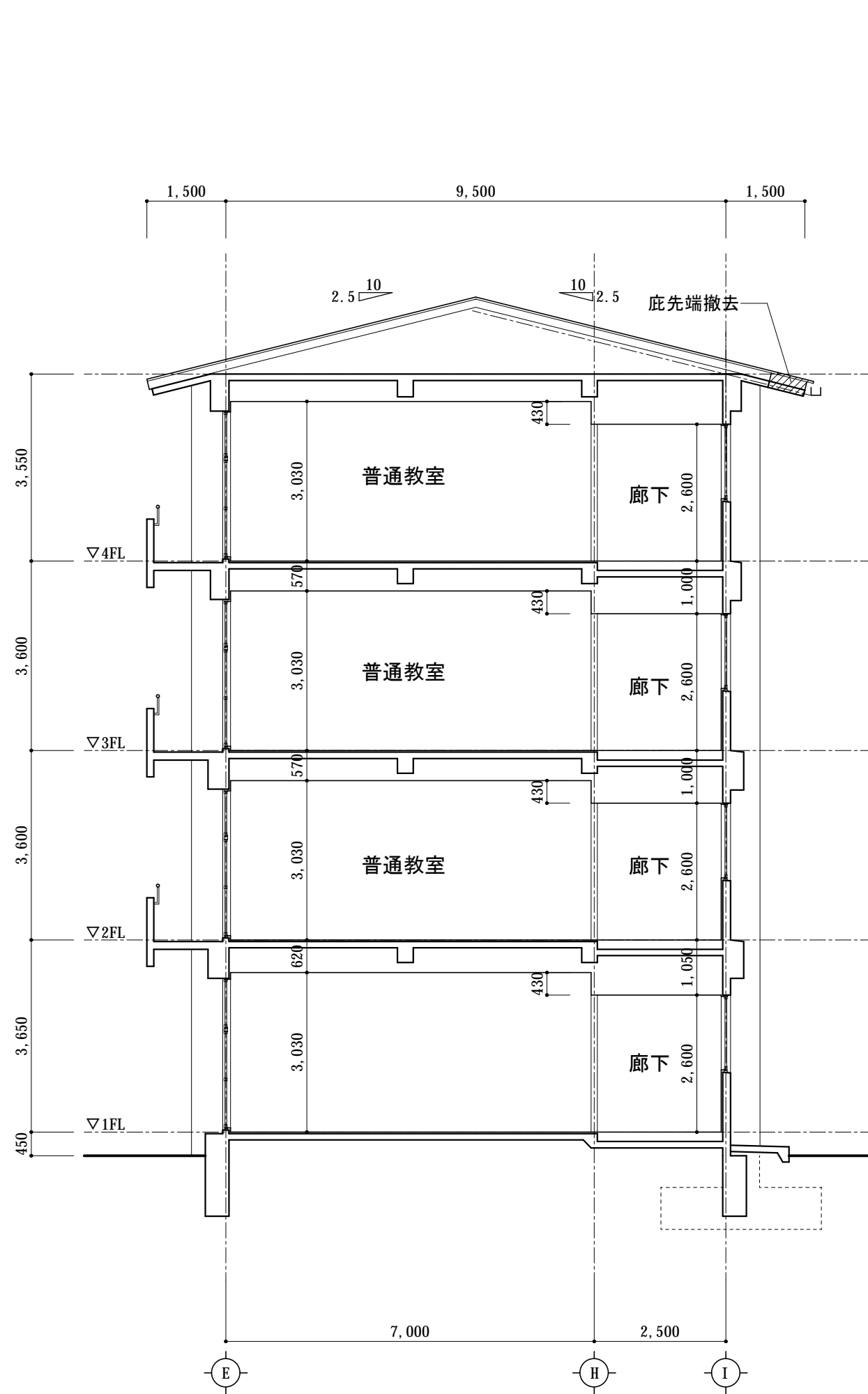
■仕上凡例 (既存校舎)

a	ｶｰｰGLt0.4 瓦棒葺き ｶｰｰ工法 雪止めL-50x50x垂鉛ﾒｯﾁ品、既存取外し再設置
b	ALCﾊﾞｰﾙt100、下地調整E、複層塗材E吹付
c	巾木：ｸﾚｯｸ塗膜防水密着工法 (X-2)

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事 (建築)		
図 名	立面図		
縮 尺	1/250	番 号	49 枚の内 A-022 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		

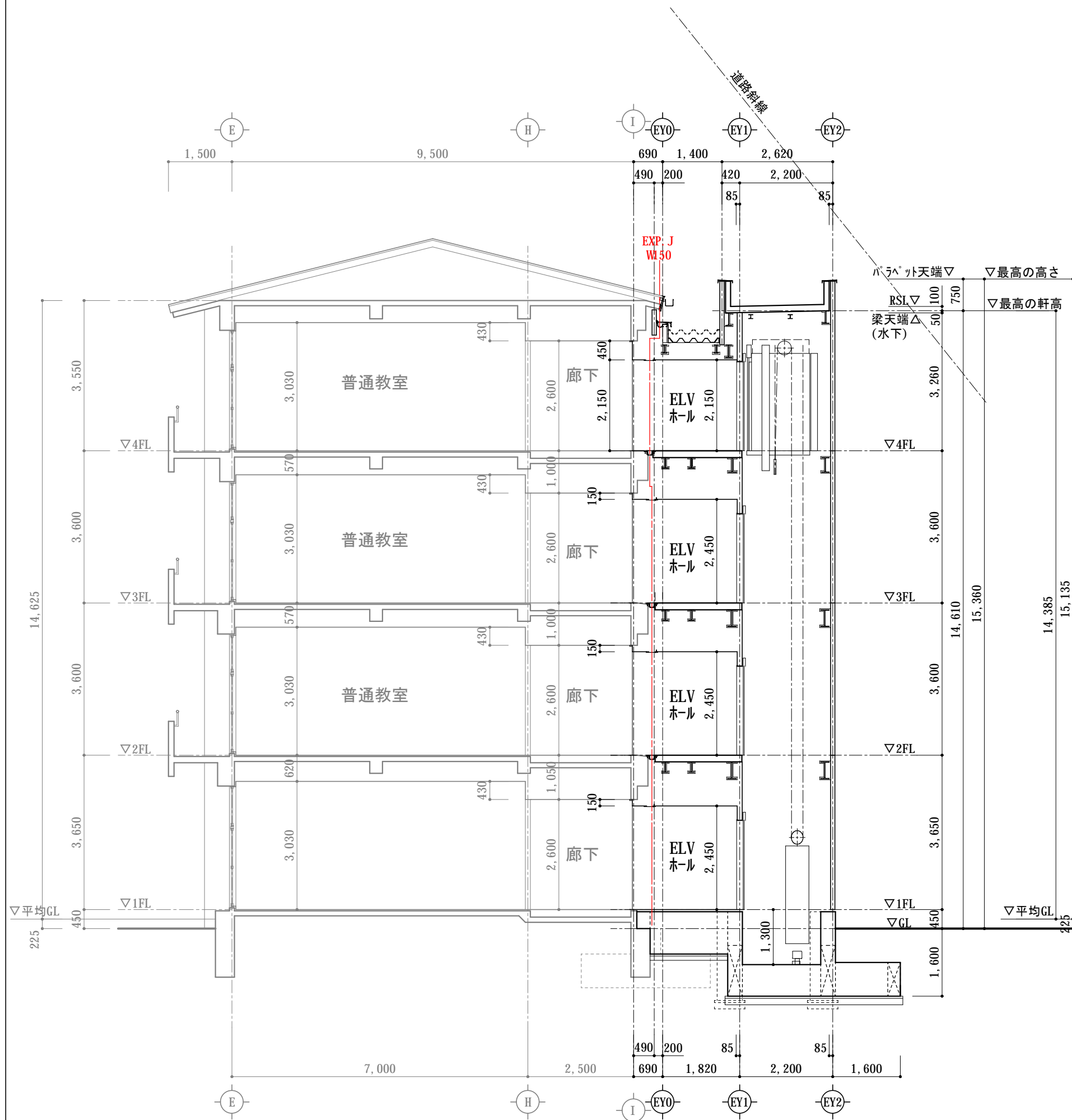
改修図

高 山 市

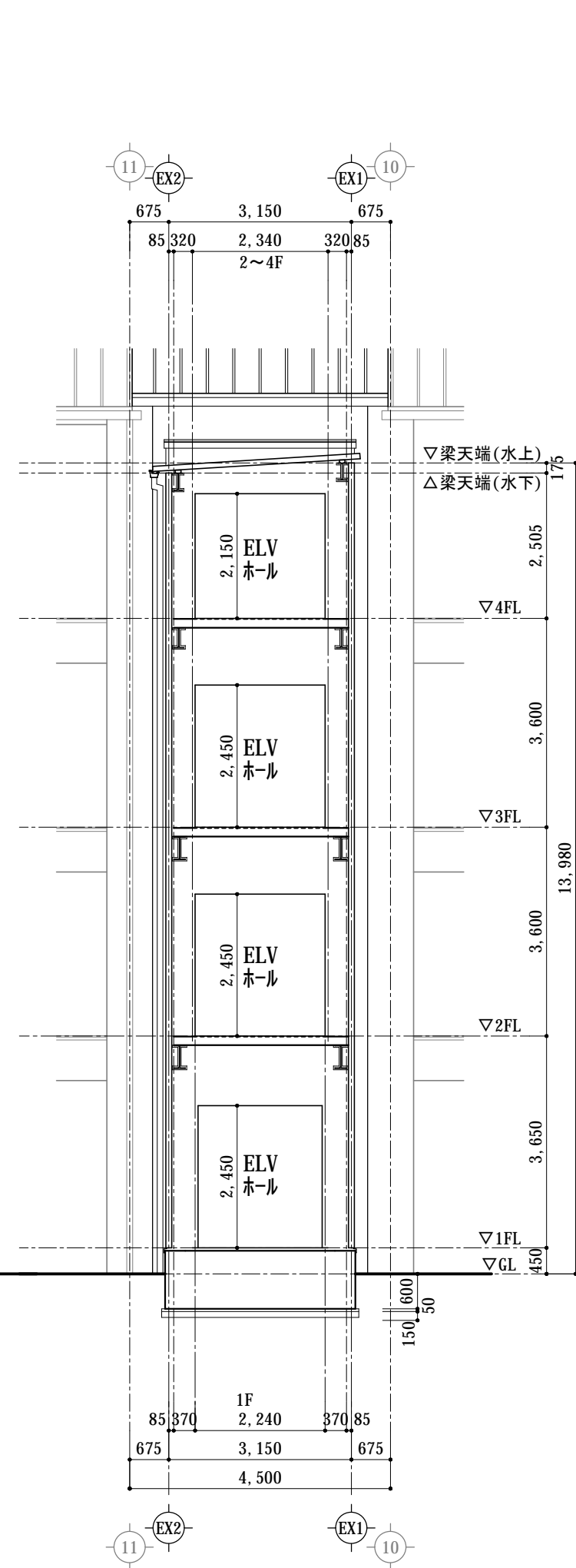


断面図 S=1:100

現況図



断面図 S=1:100



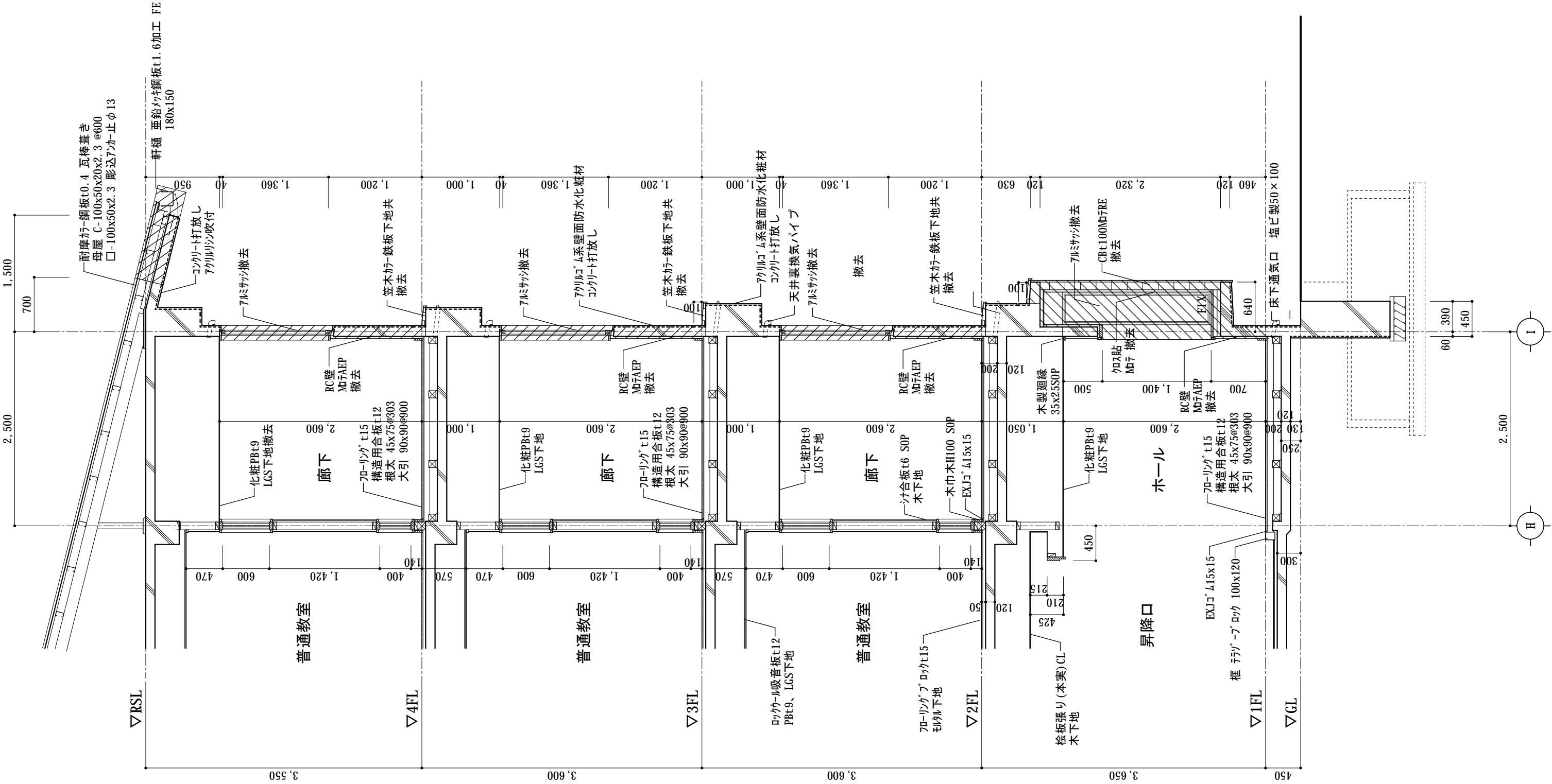
断面図 S=1:100

改修図

工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	断面図		
縮 尺	1/100	番 号	49 枚の内 A-023 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

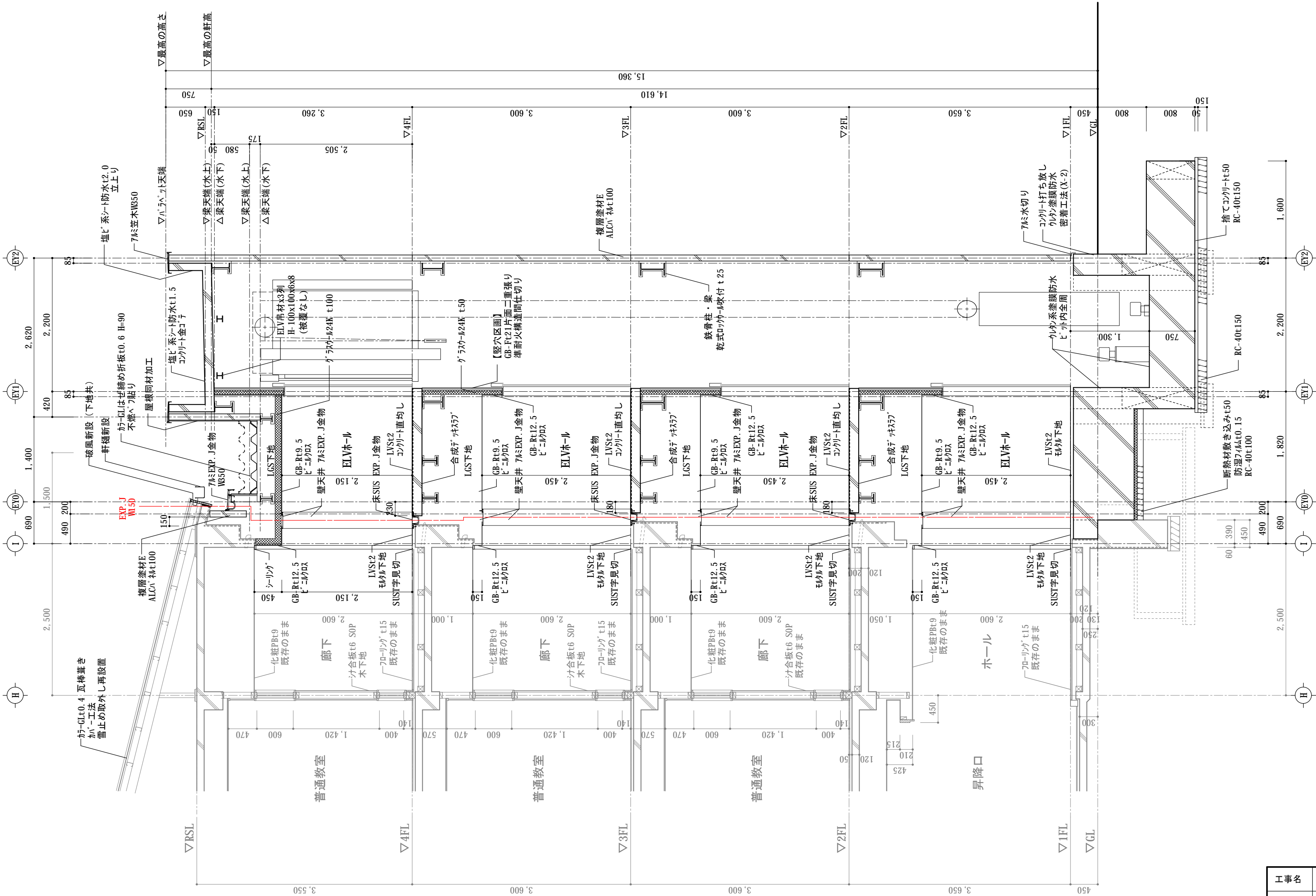
現況図

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	矩計図-1		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-024 号
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀 樹		
高 山 市			



矩計図 S=1/50

：撤去範囲を示す



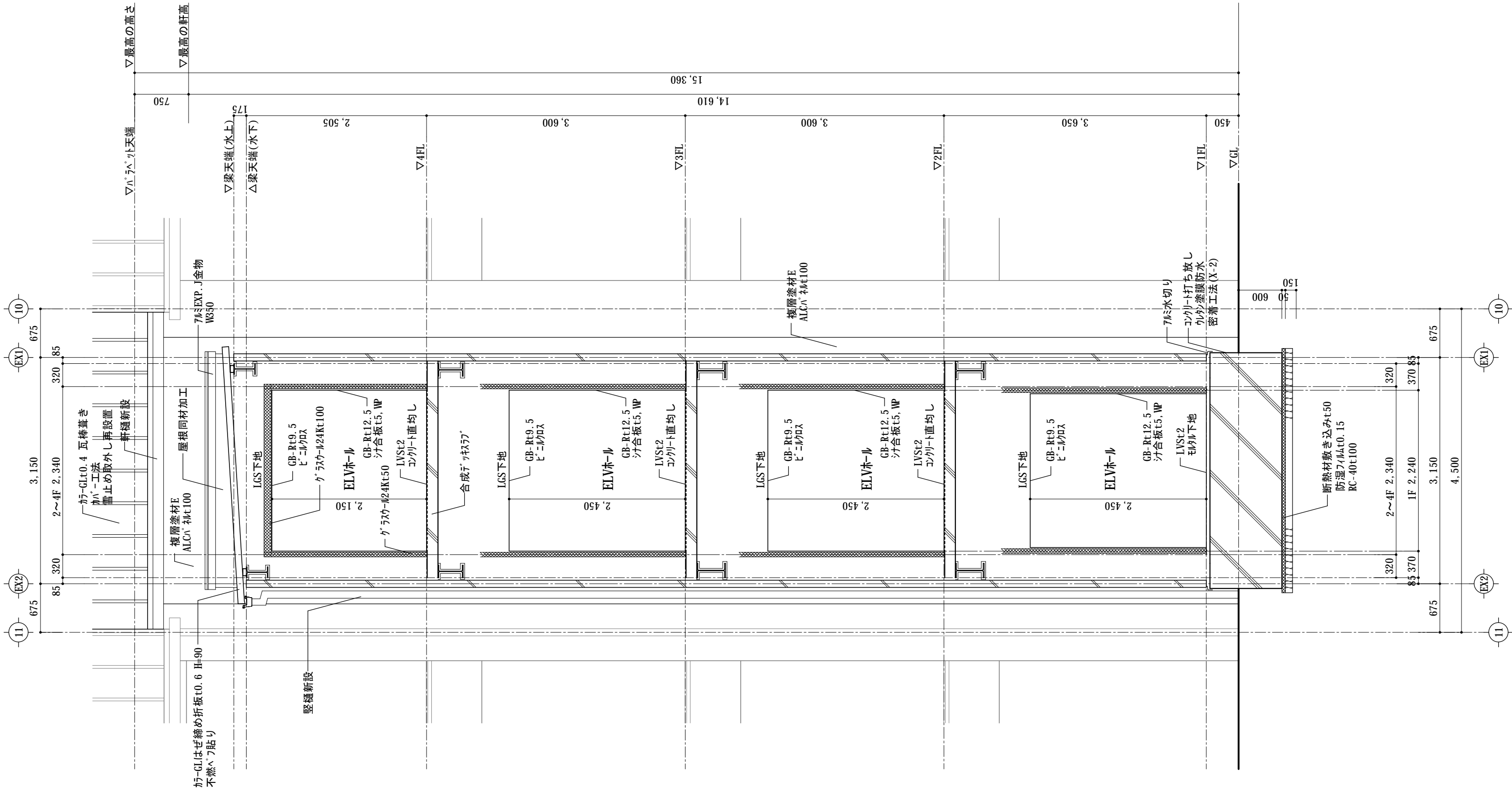
矩計図 S=1/50

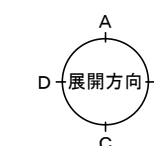
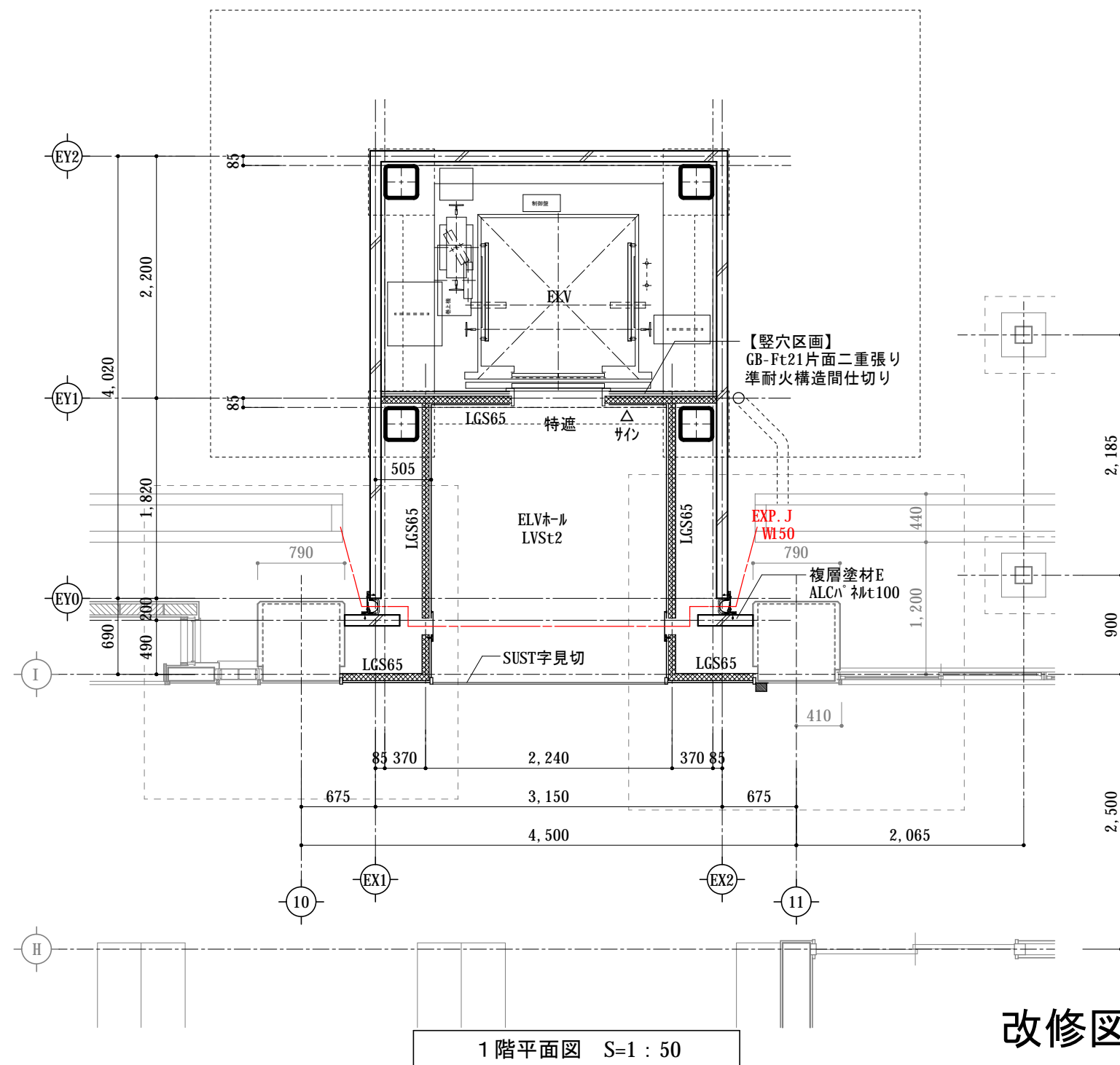
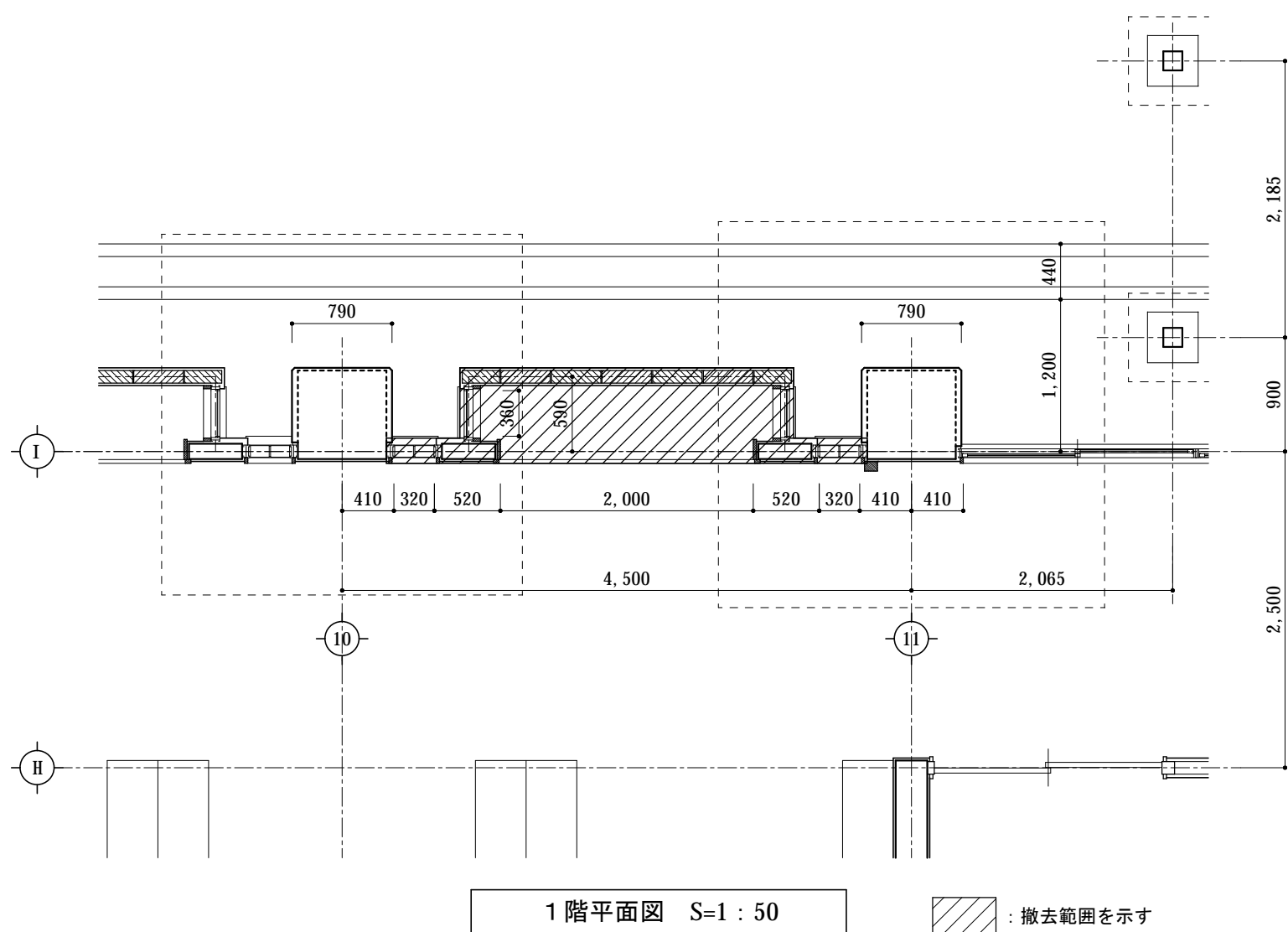
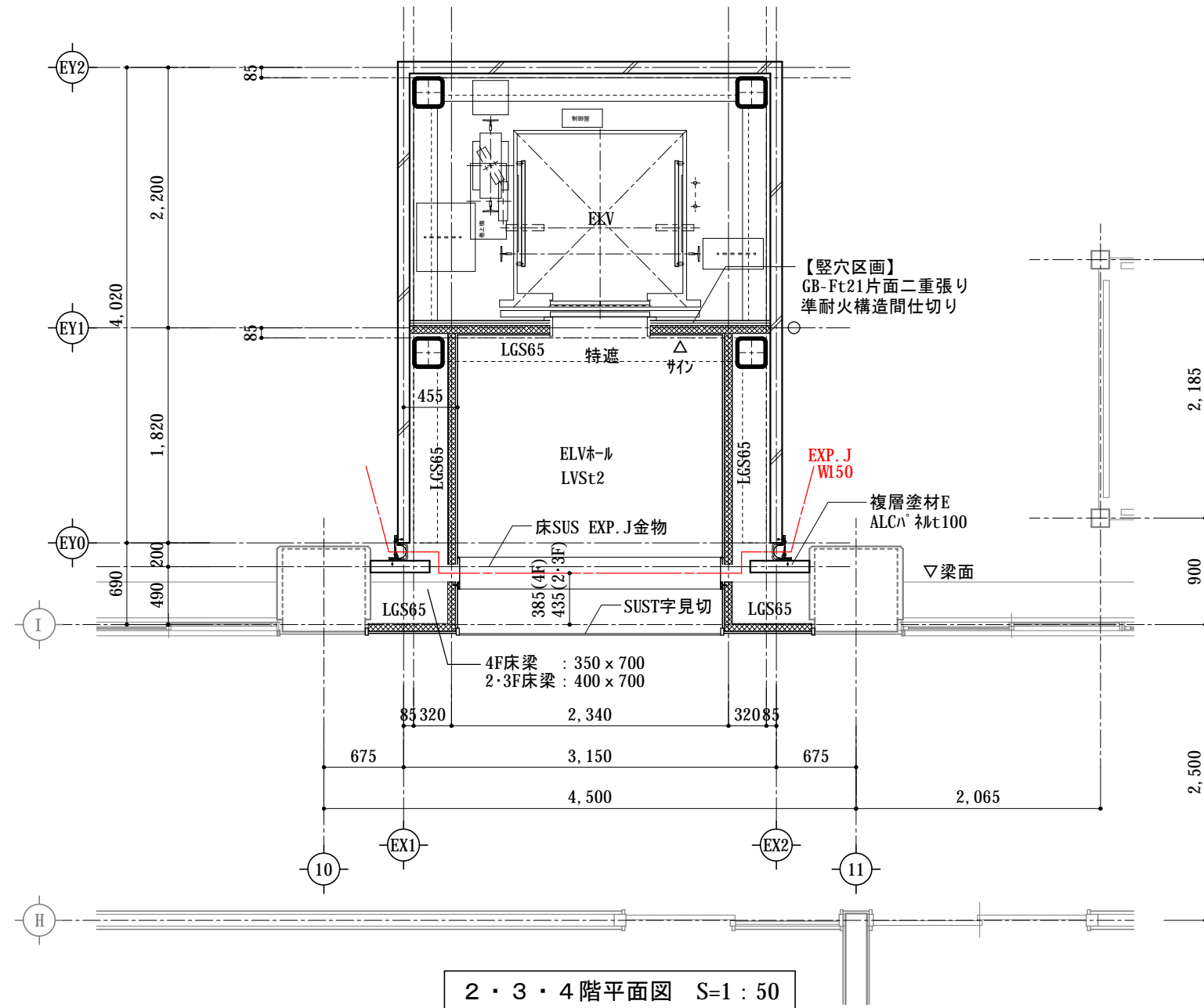
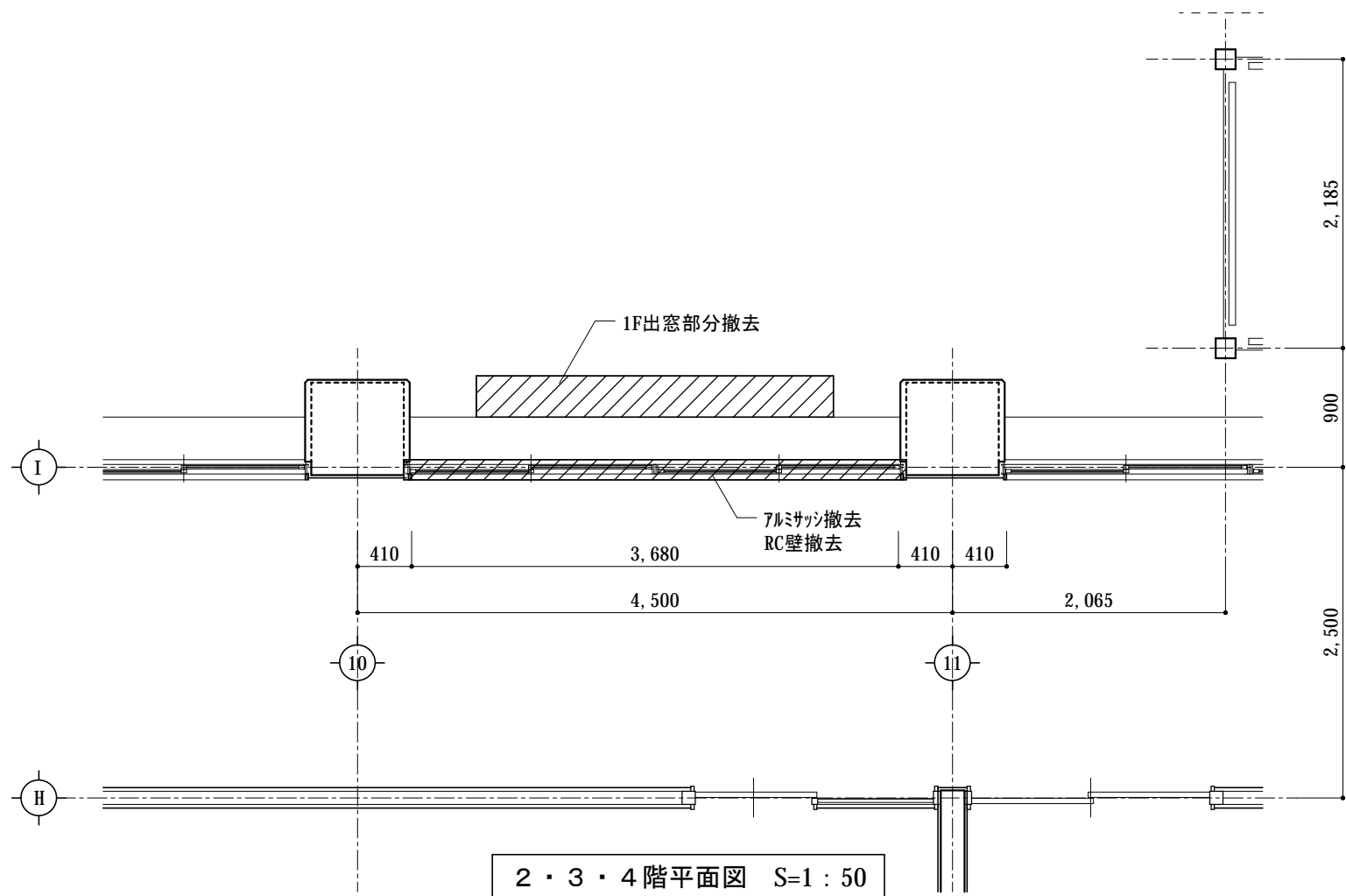
改修図

工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	矩計図-2		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-025 号
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

改修図

工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	矩計図-3		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-026 号
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

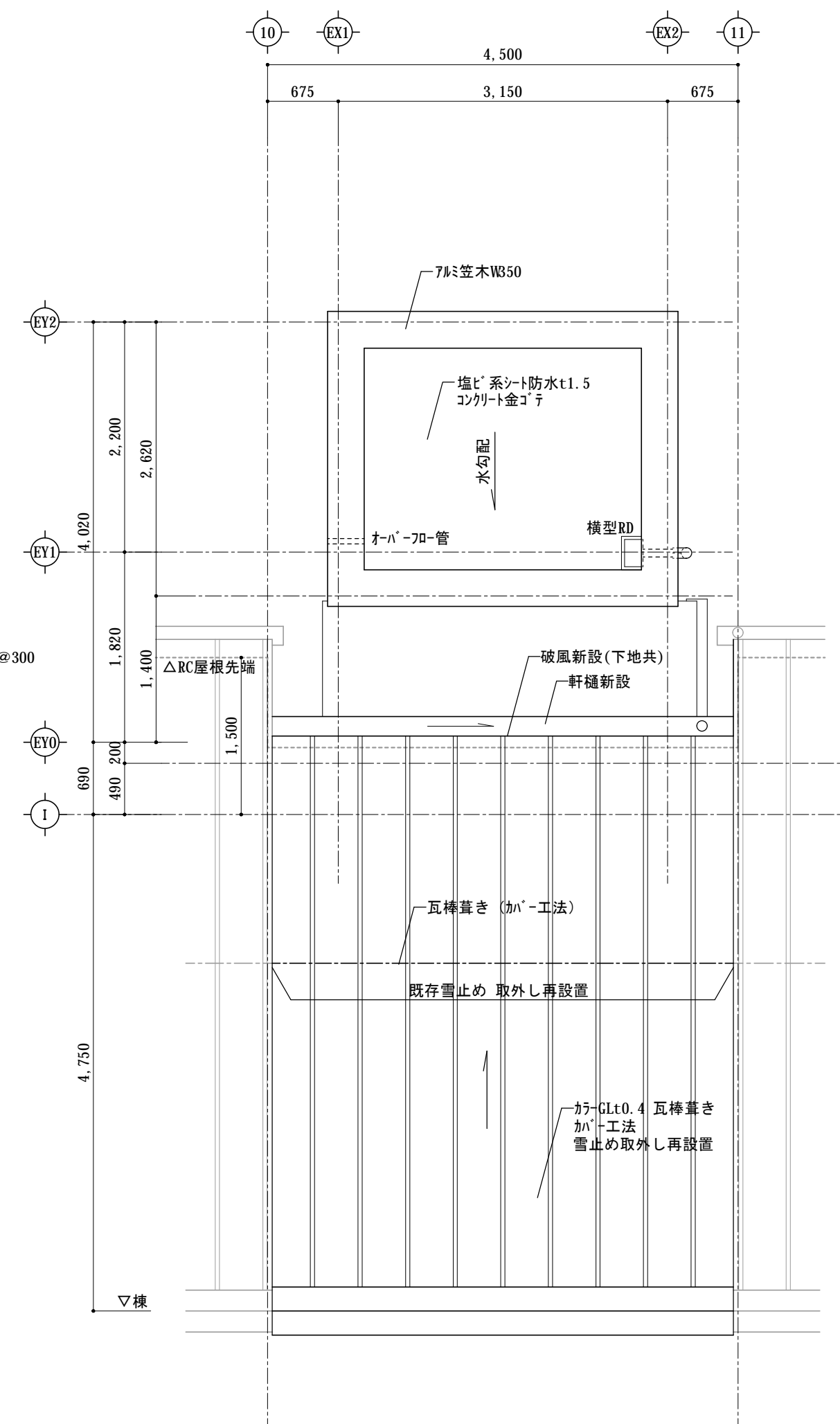
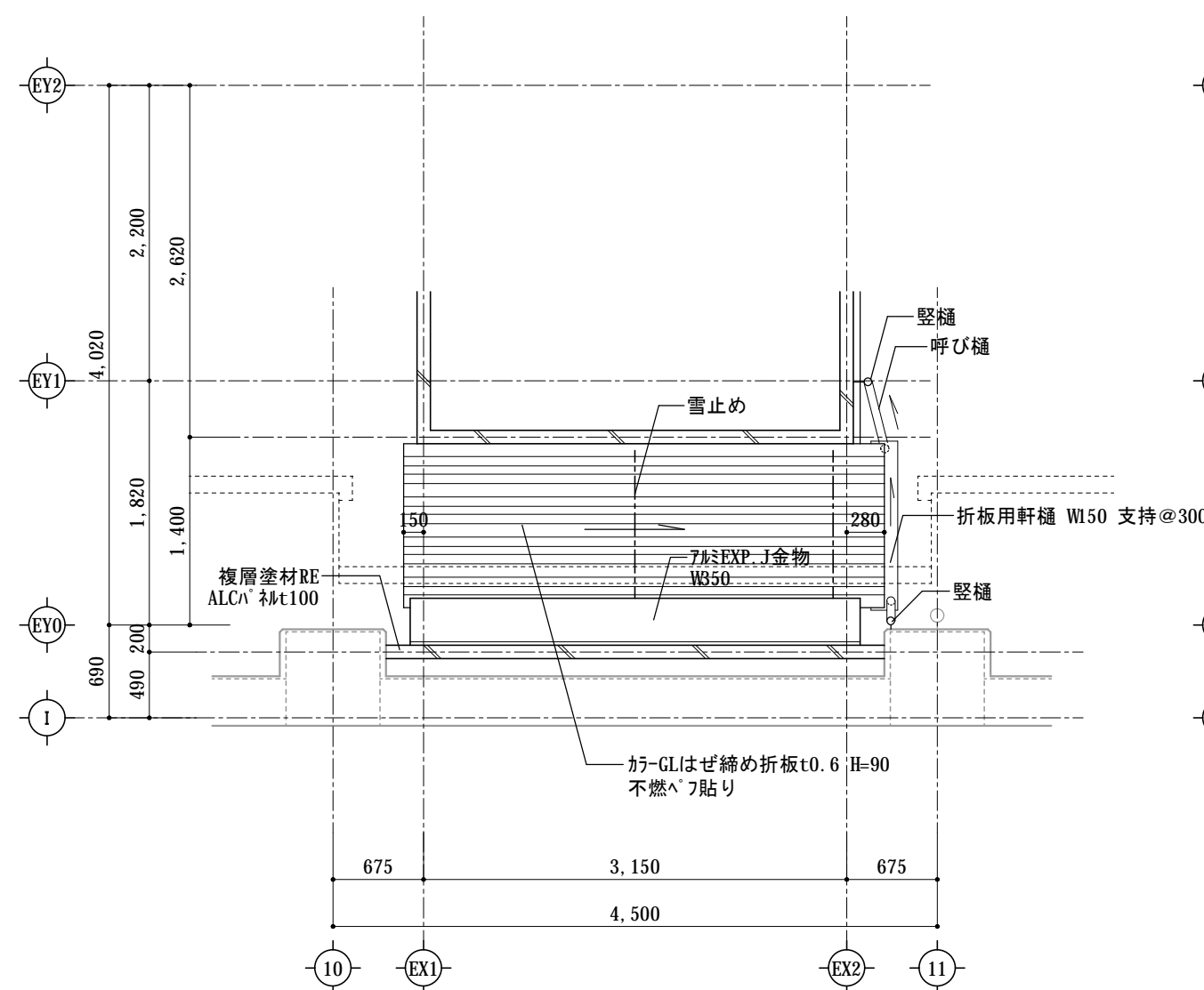
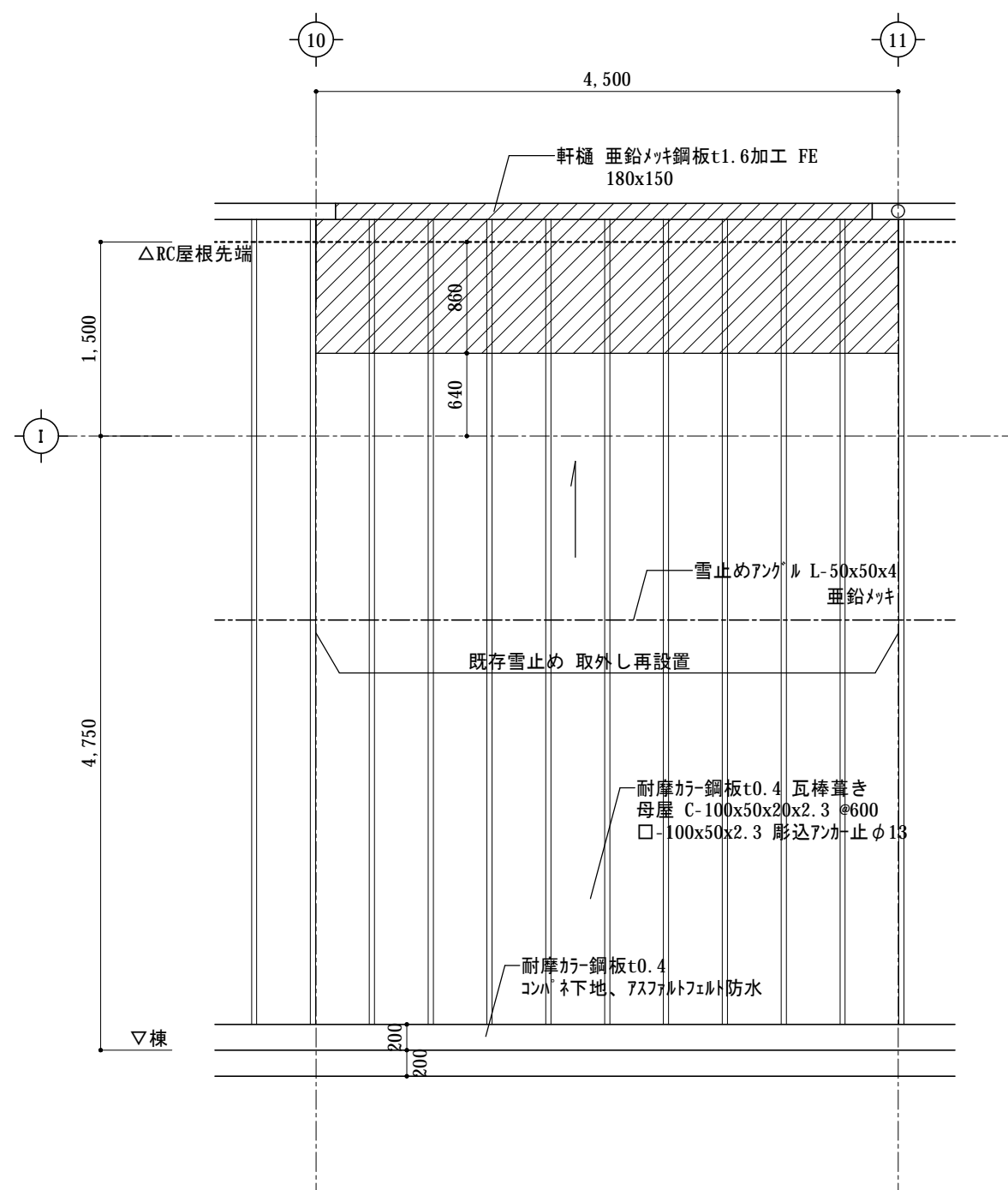




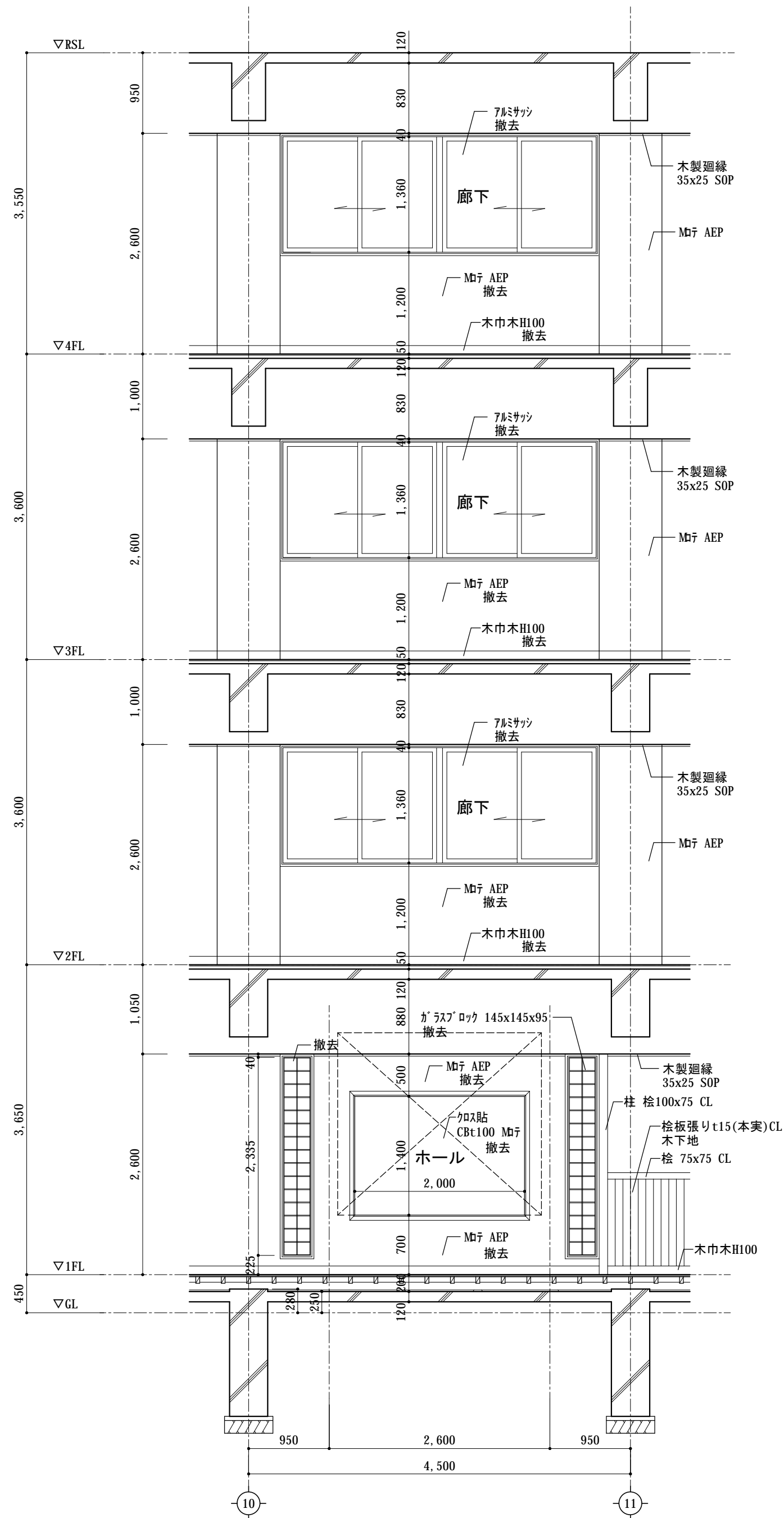
現況図

改修図

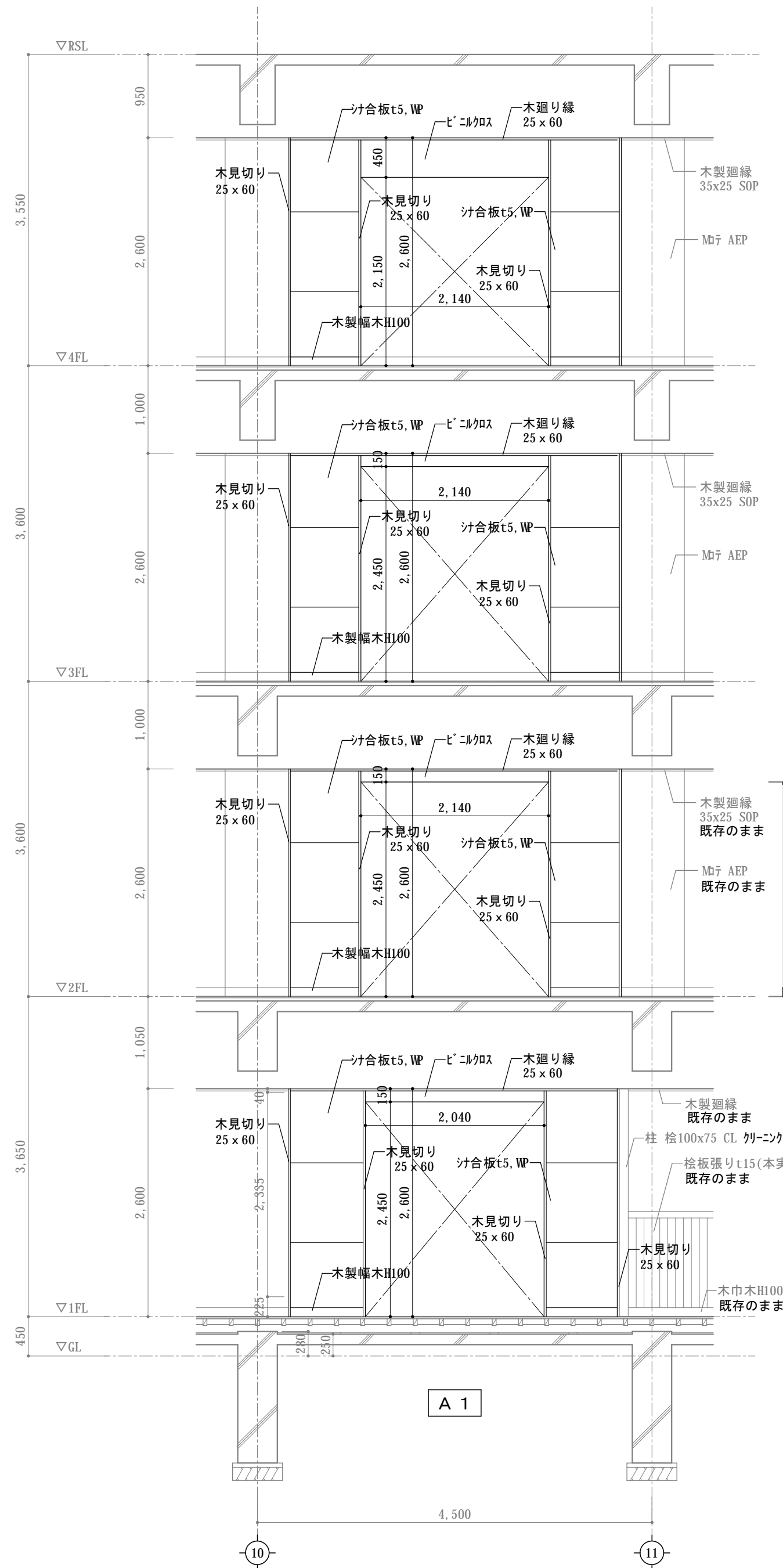
工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	各階平面詳細図		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-027 号
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



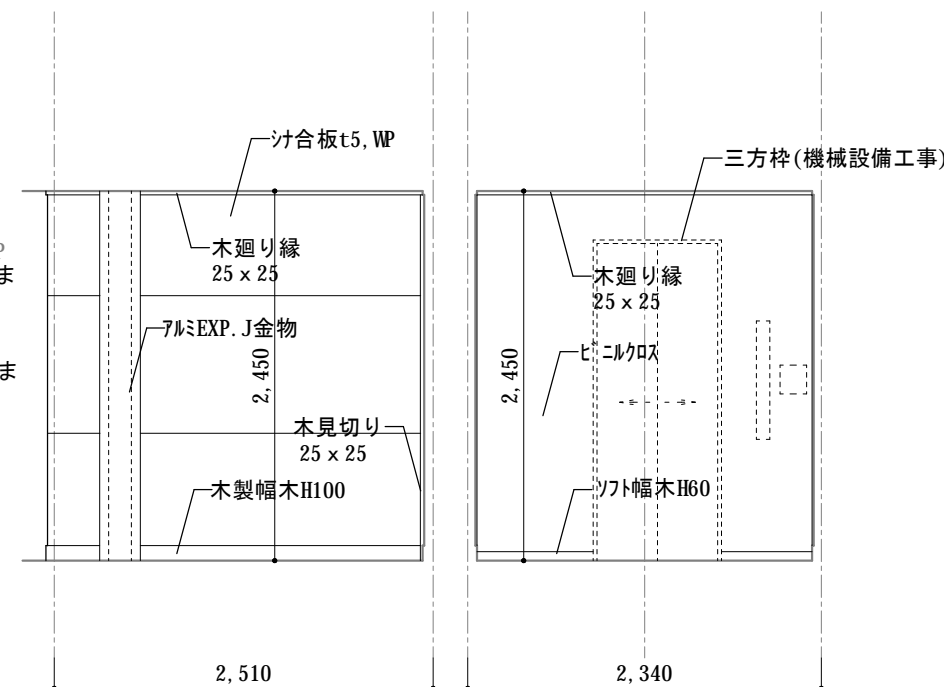
工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	屋根伏図		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-028 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



現況図

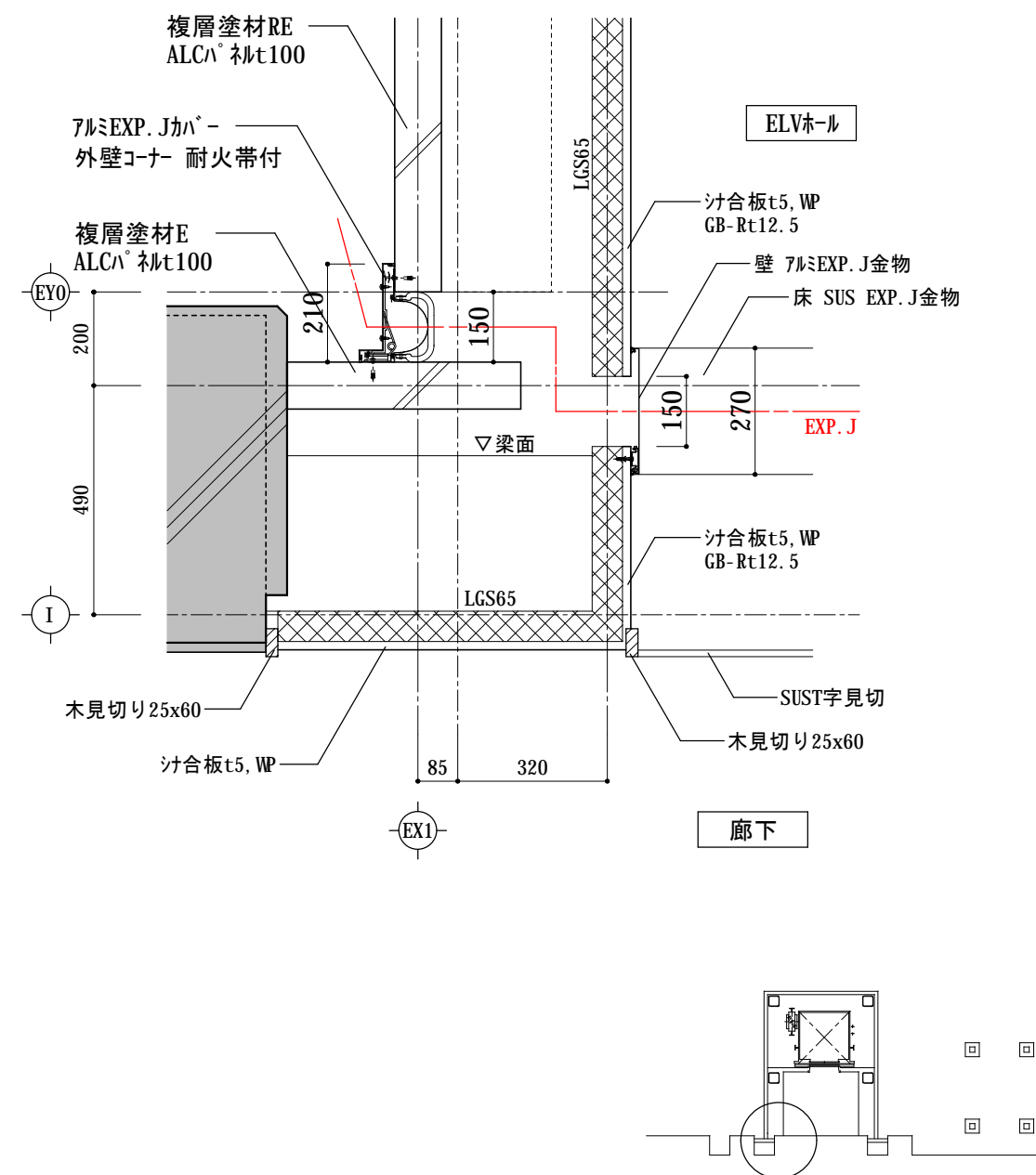


改修図

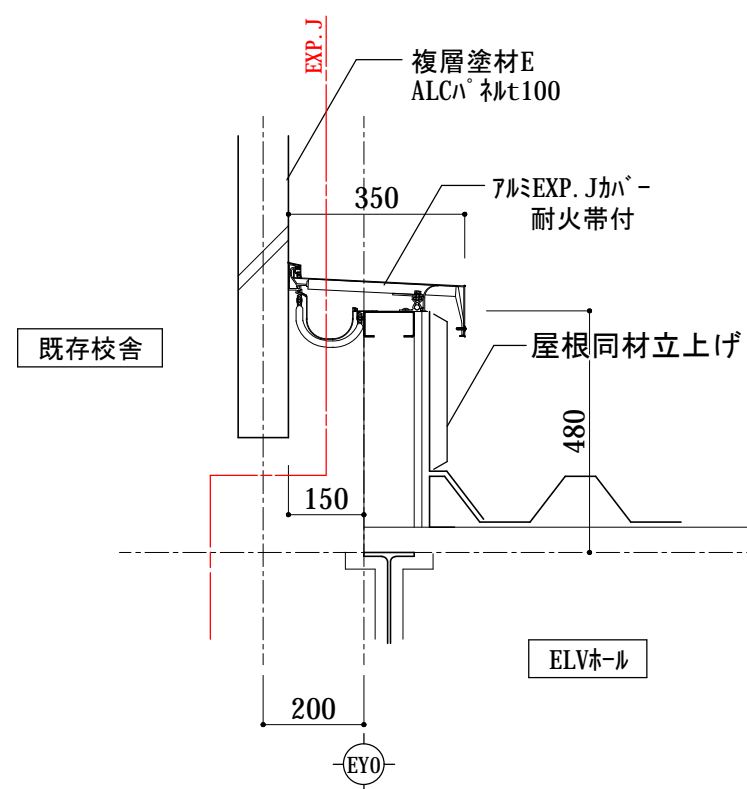


工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	展開図		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-029 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

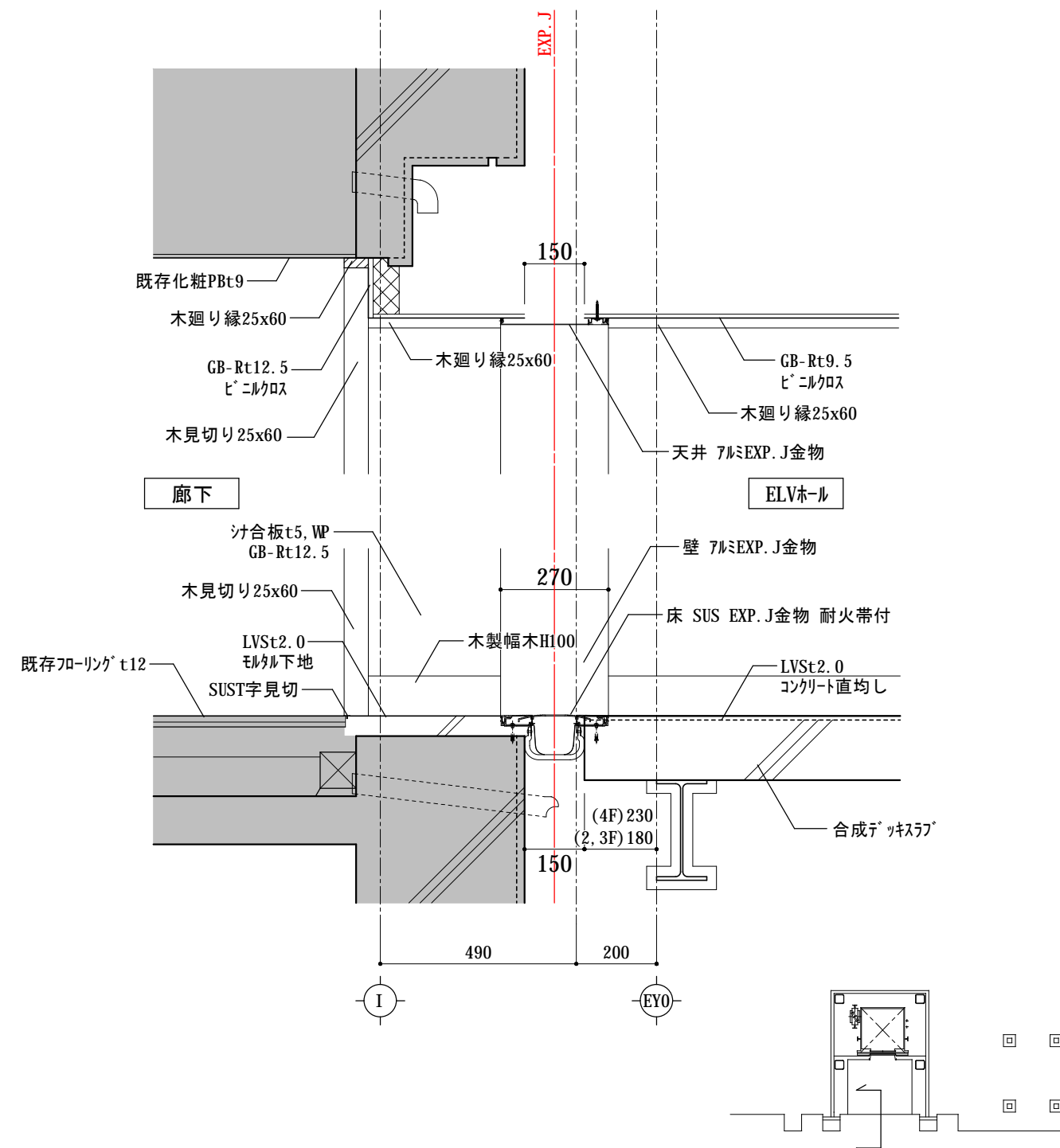
校舎一ELV棟 接続部廻り詳細図 1:15



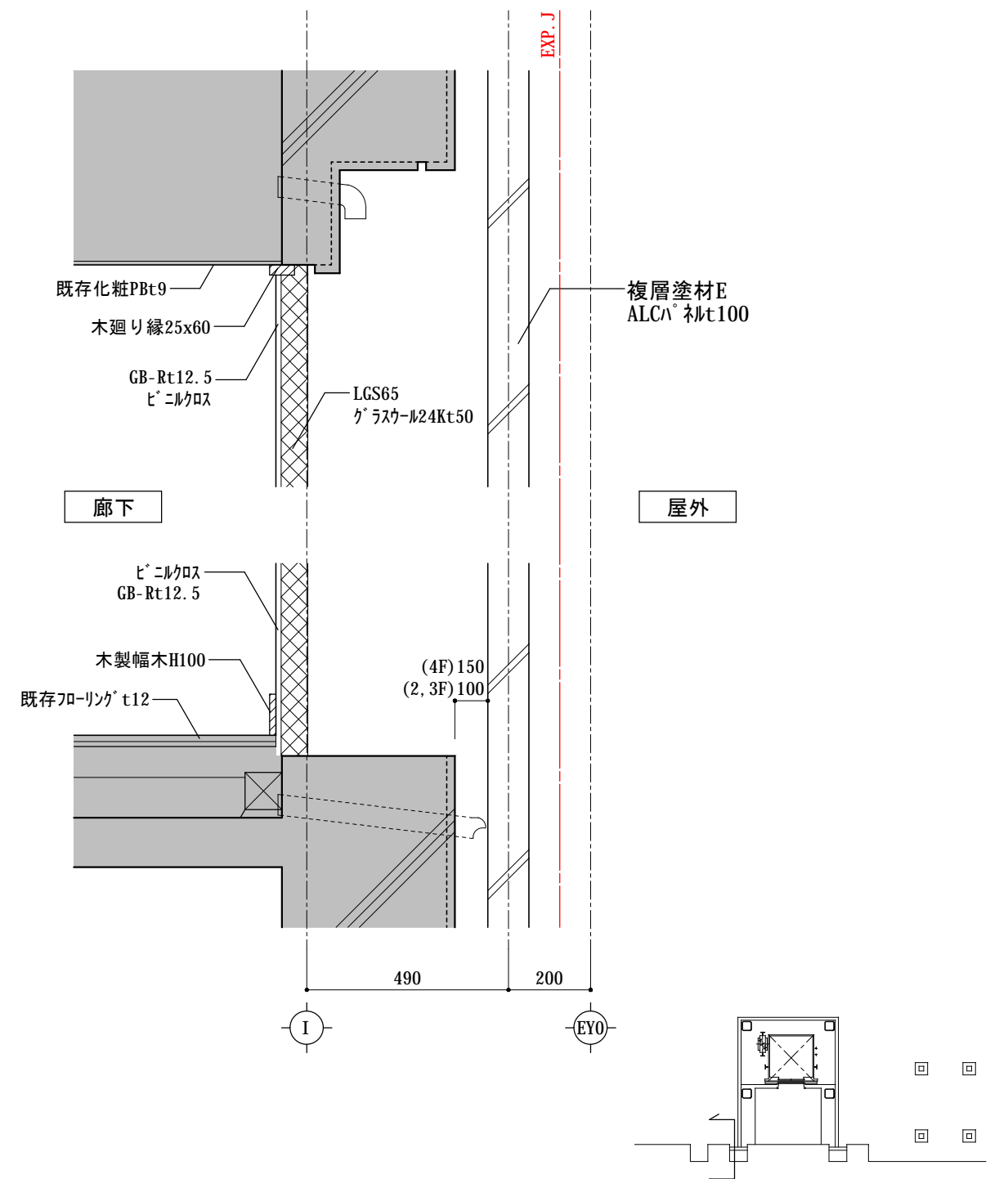
校舎—ELV棟 EXP. Jカバ— 1/15



校舎一ELV棟 接続部廻り詳細図 1:15



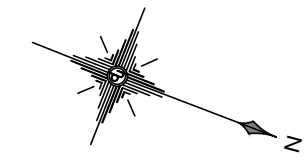
校舎一ELV棟 接続部廻り詳細図 1:15



改修図

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	部分詳細図		
縮 尺	1/15	番 号	49 枚の内 A-030 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		

高 山 市

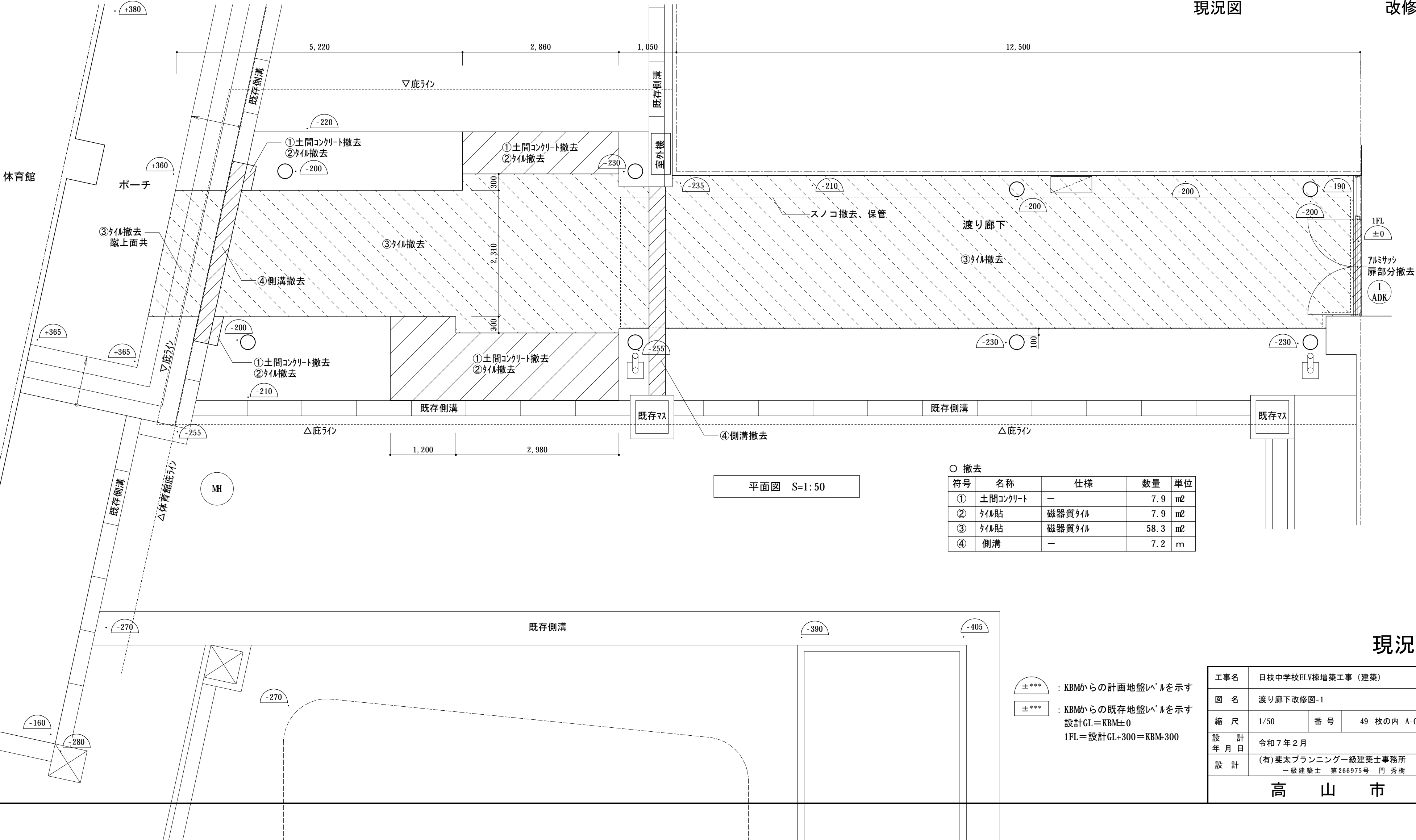


符号・名称	ADK-1	アルミ製 両開きドア (FIXランマ+袖付)
防火仕様	—	番号:
室名・数量	廊下	1ヶ所
姿図		
仕上・見込	シルバー	/ 70
ガラス	網入り型ガラス	
金物	握り玉、シリンダー錠、サムターン、ドアチェック ステンレス水切、附属金物一式	
備考	扉・下枠 撤去	

AD-1	アルミ製 両開きドア (カバー工法)
—	番号:
廊下	1ヶ所
シルバー	/ 70
網入り型ガラス6.8、飛散防止フィルム貼	
レバーハンドル、シリンダー錠、サムターン	
ドアチェック、フラット巻指、附属金物一式	

現況図

改修図



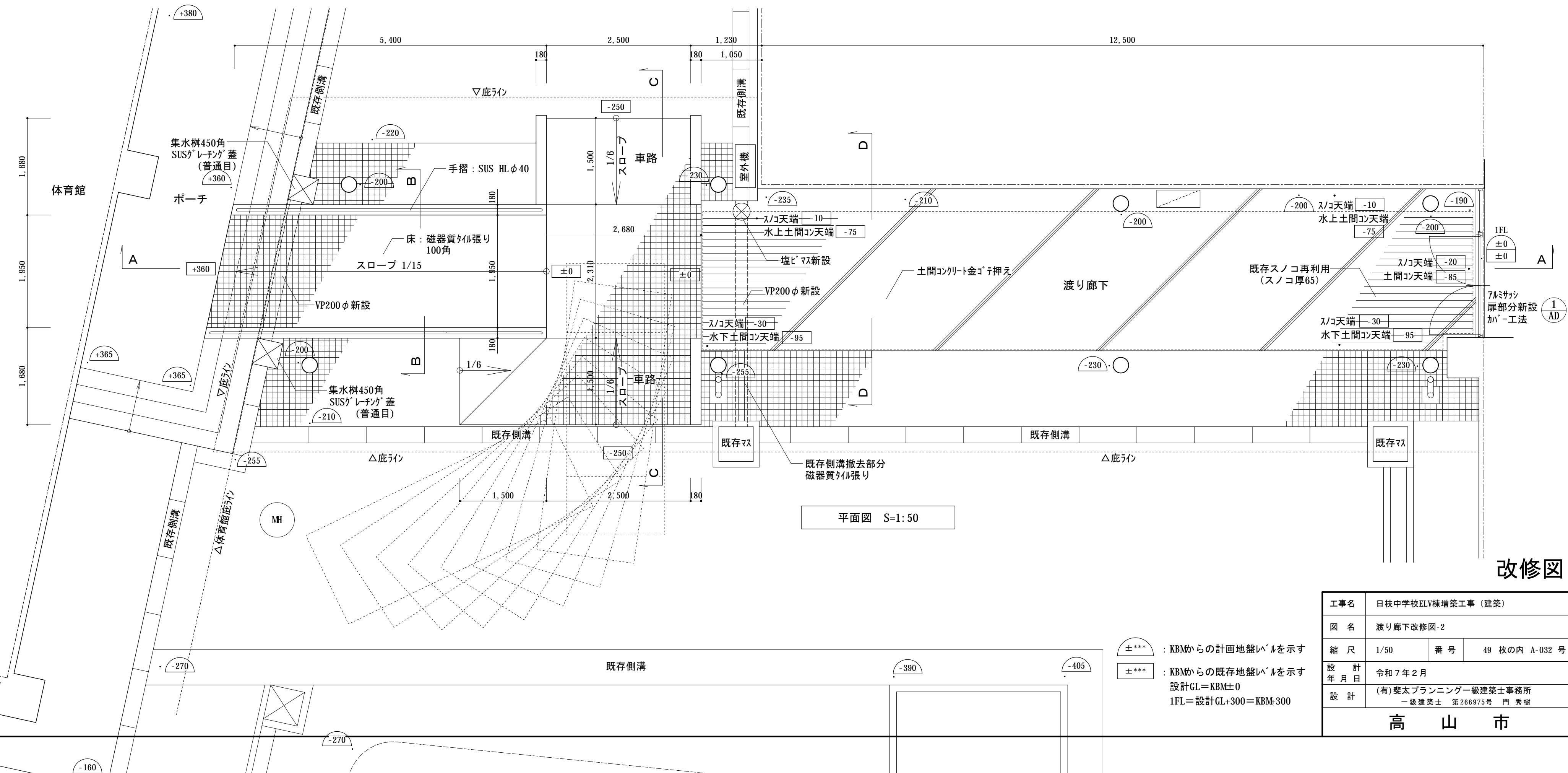
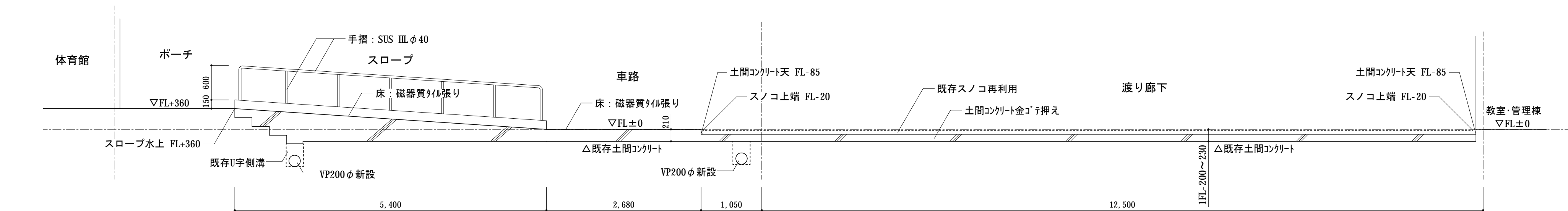
平面図 S=1: 50

○ 撤去				
符号	名称	仕様	数量	単位
①	土間コンクリート	—	7.9	m ²
②	タイル貼	磁器質タイル	7.9	m ²
③	タイル貼	磁器質タイル	58.3	m ²
④	側溝	—	7.2	m

±*** : KBMからの計画地盤レベルを示す
±*** : KBMからの既存地盤レベルを示す
設計GL=KBM±0
1FL=設計GL+300=KBM-300

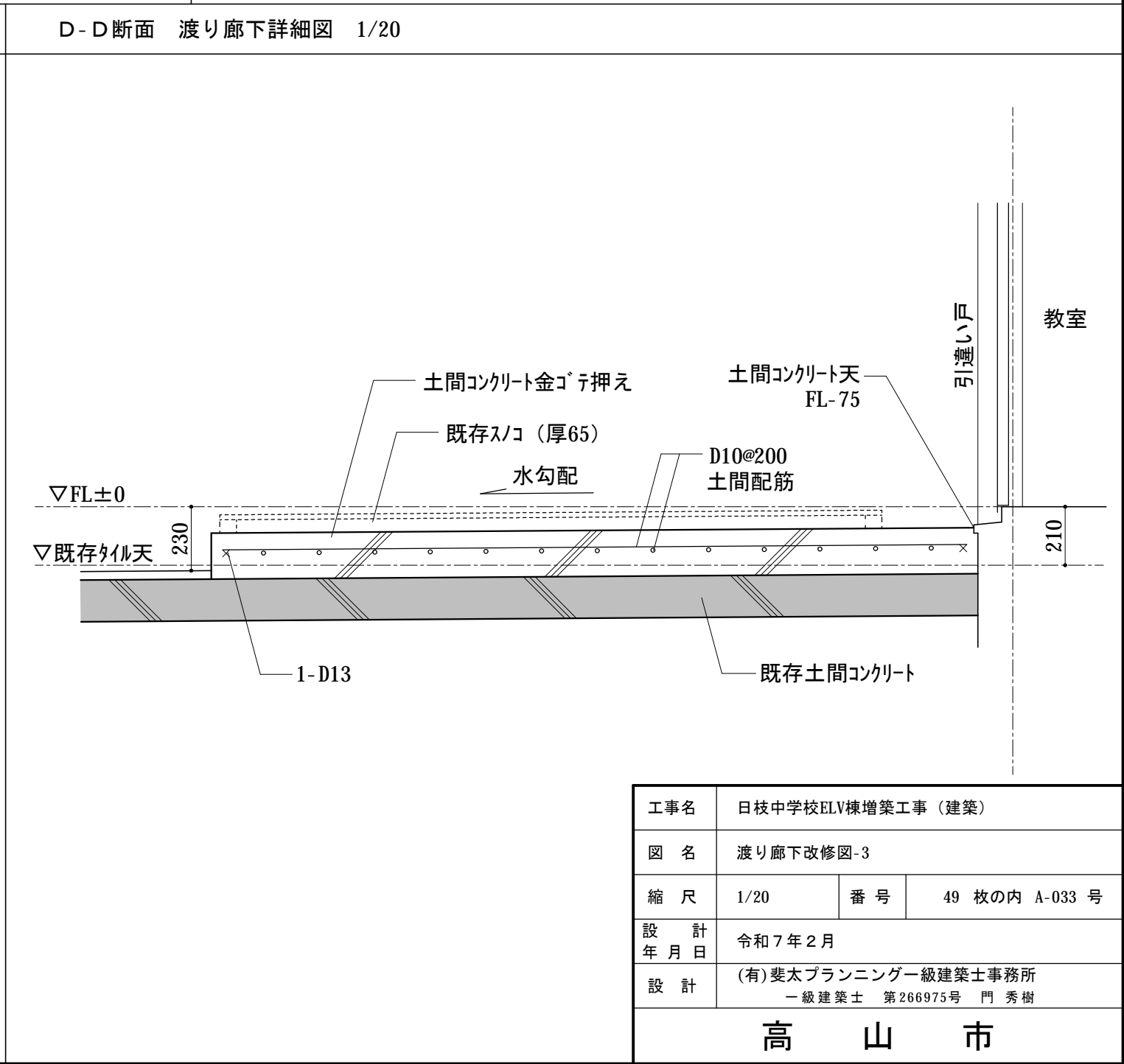
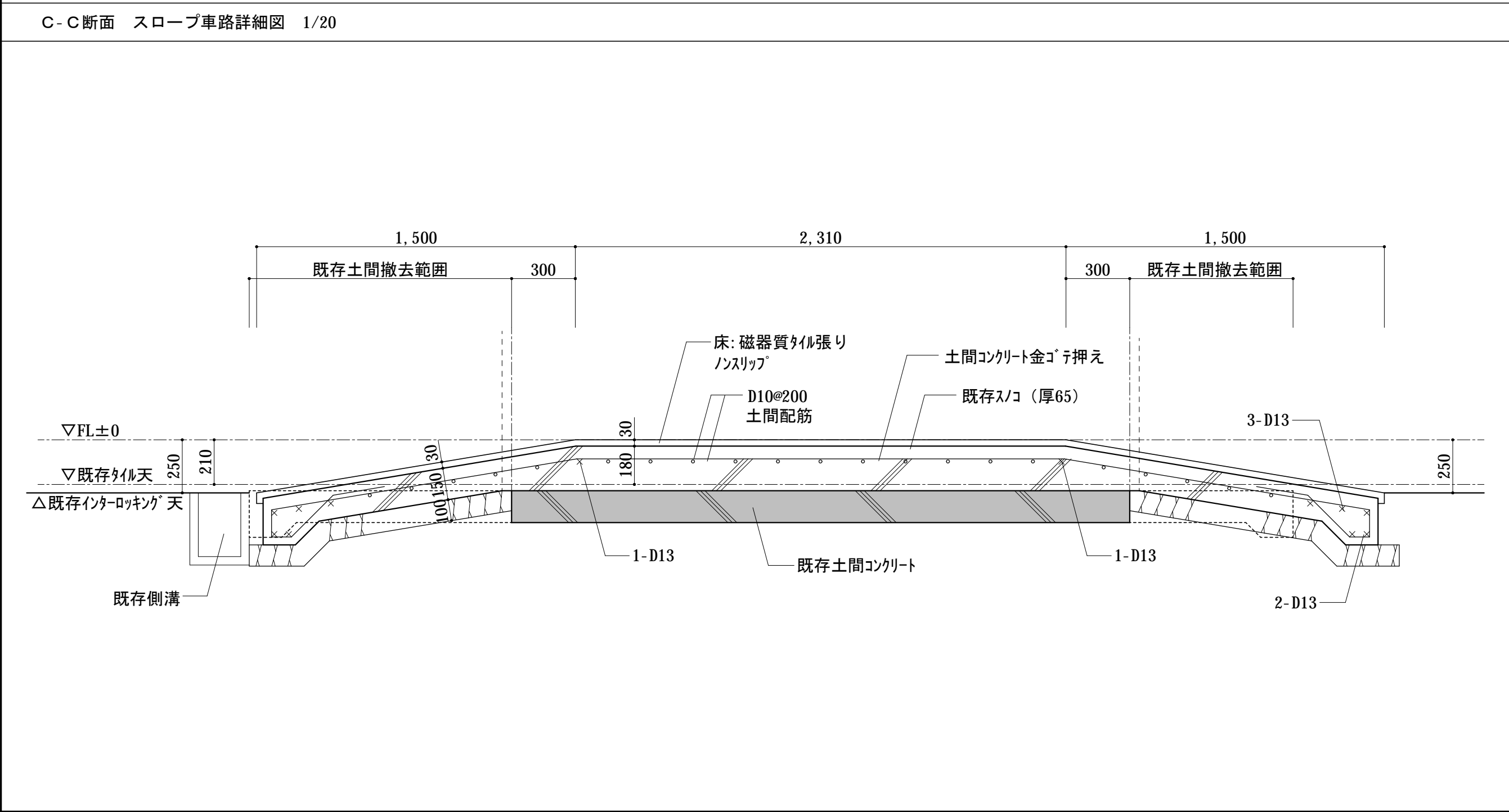
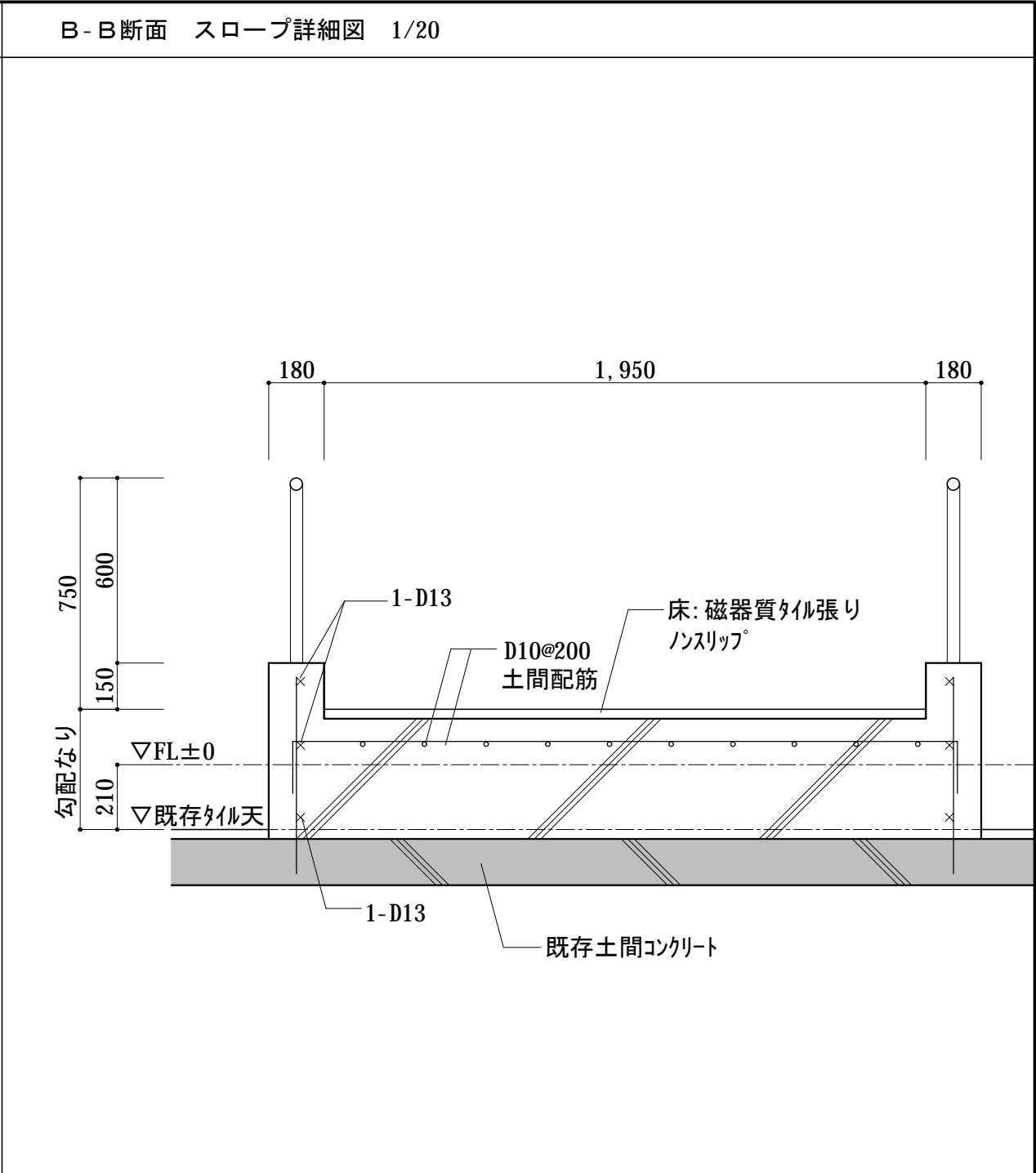
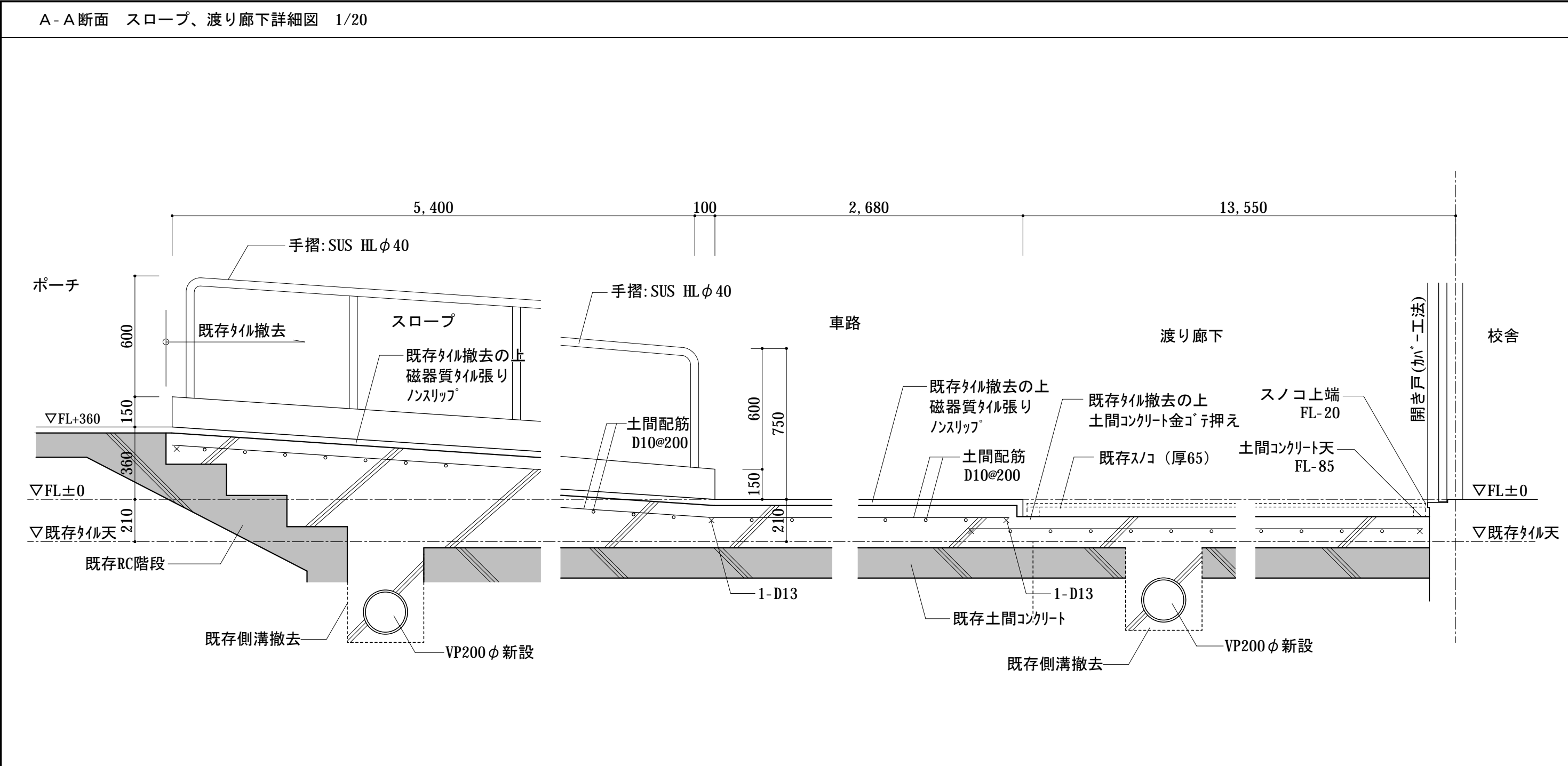
現況図

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	渡り廊下改修図-1		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-031 号
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

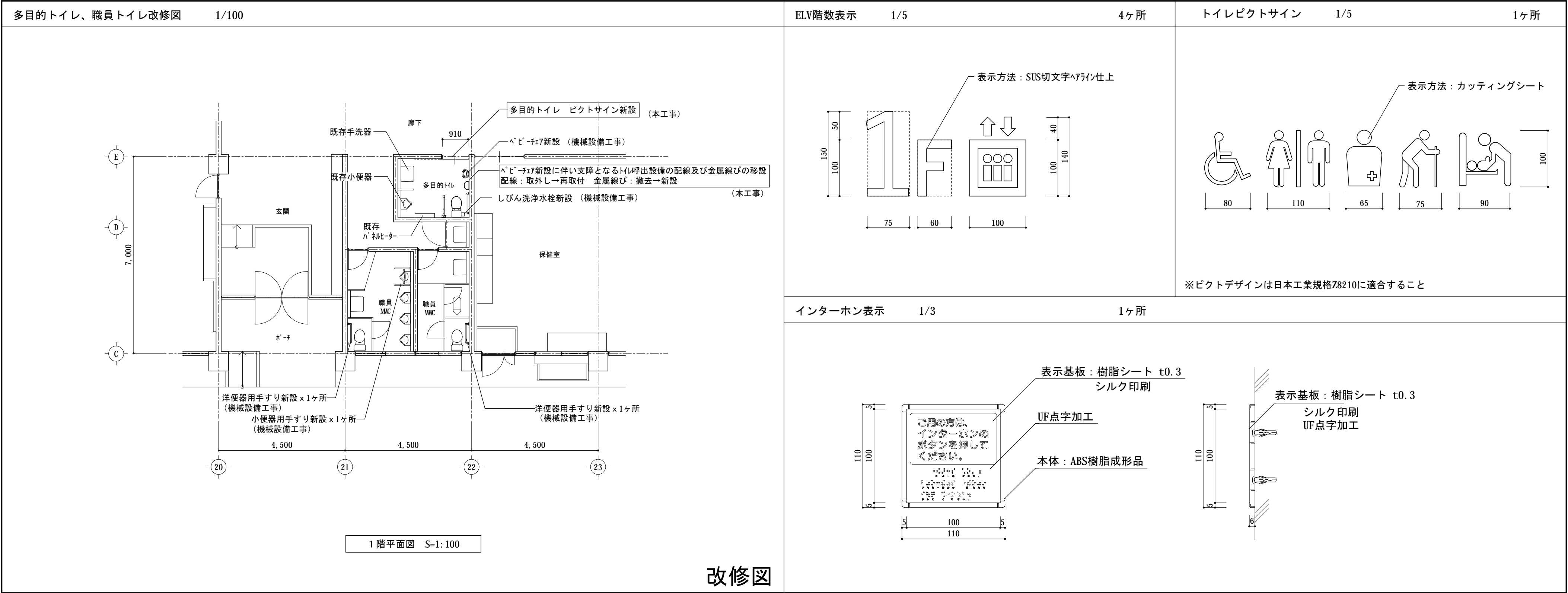


改修図

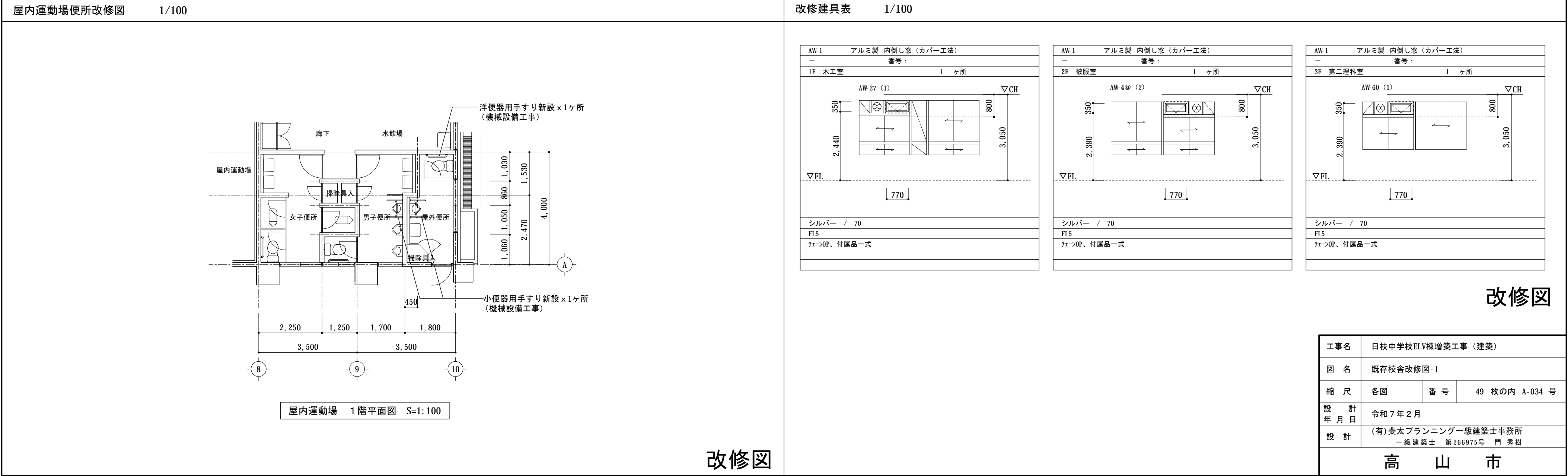
工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	渡り廊下改修図-2		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-032 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

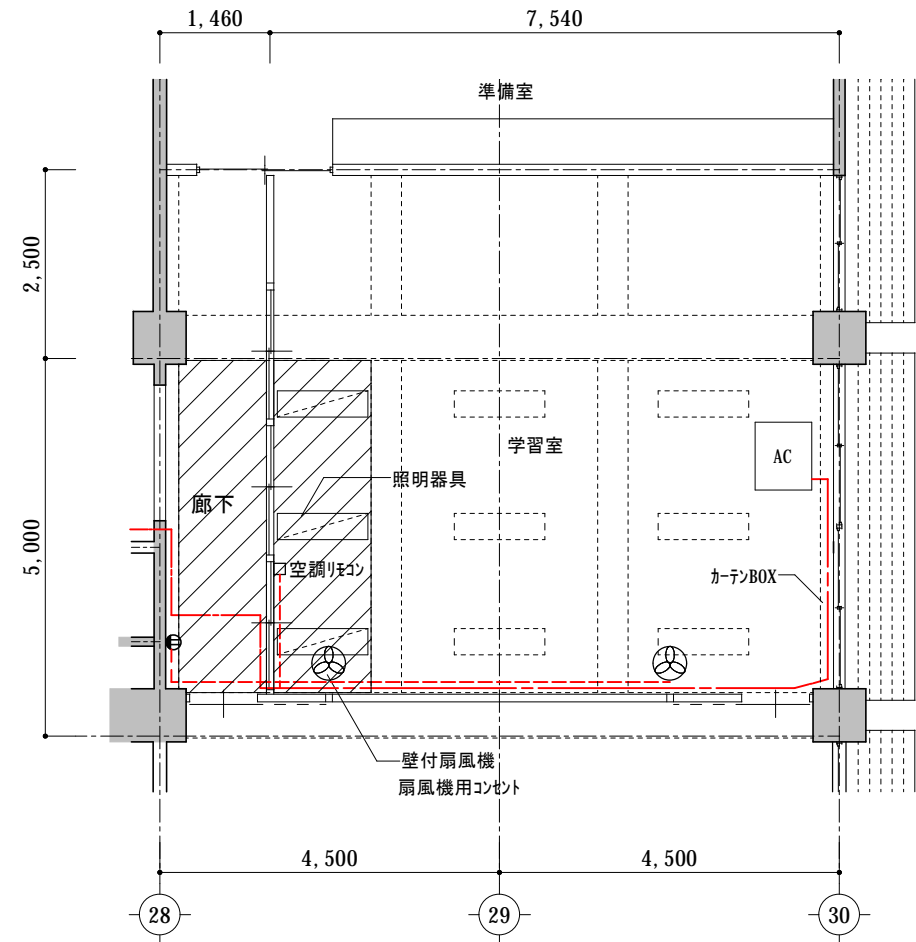


工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	渡り廊下改修図-3		
縮 尺	1/20	番 号	49 枚の内 A-033 号
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

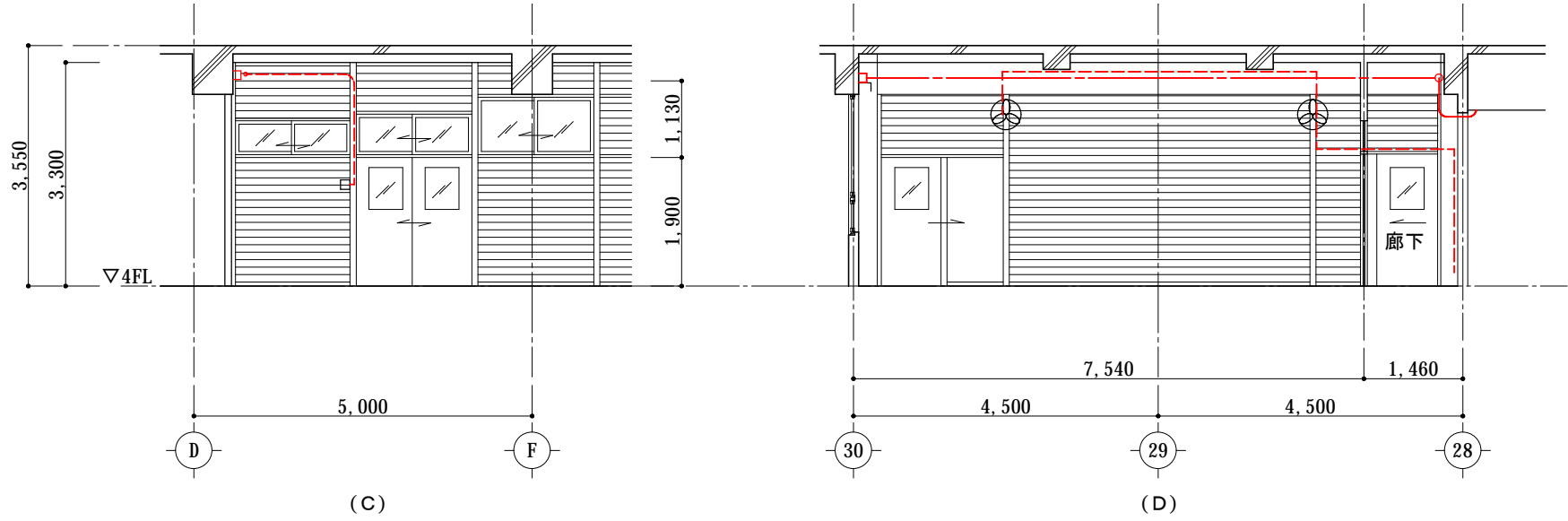


改修図

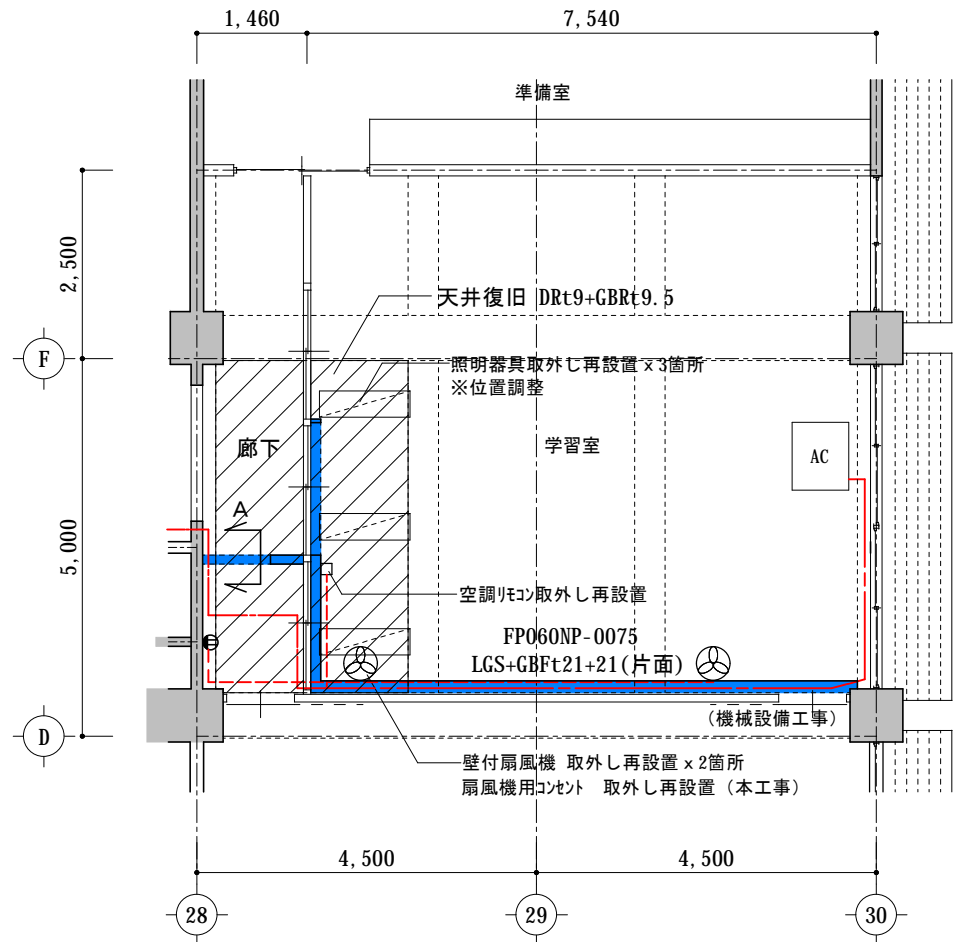




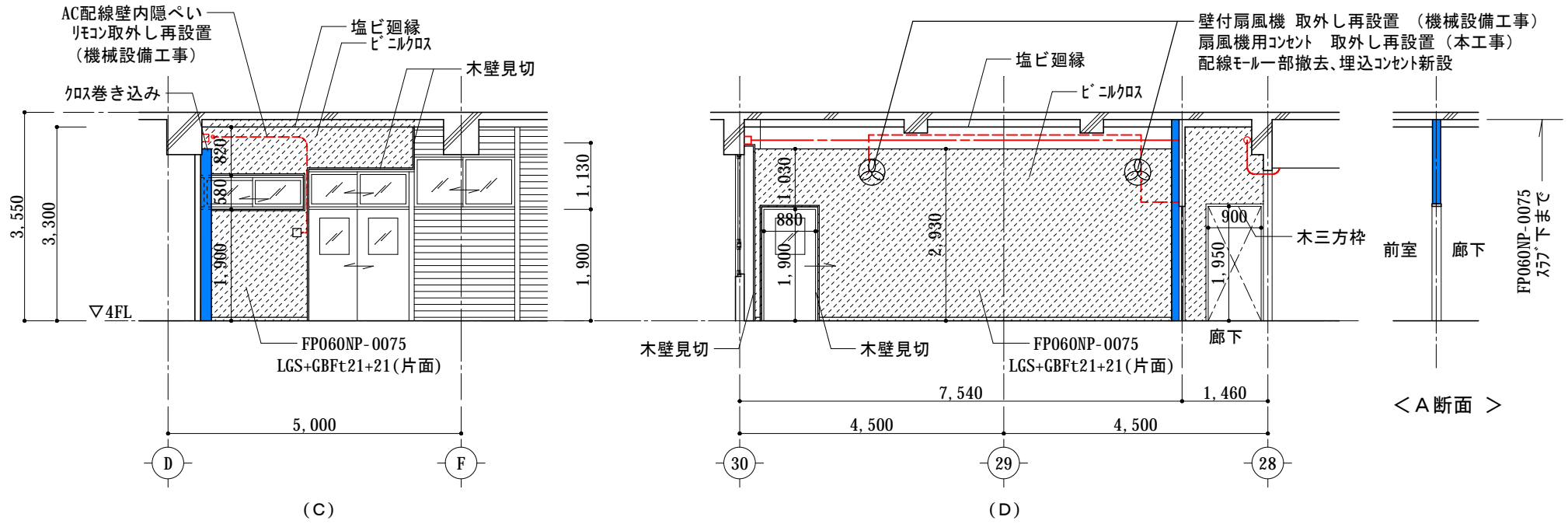
現況図



現況図



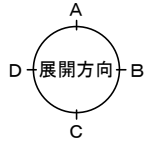
改修図



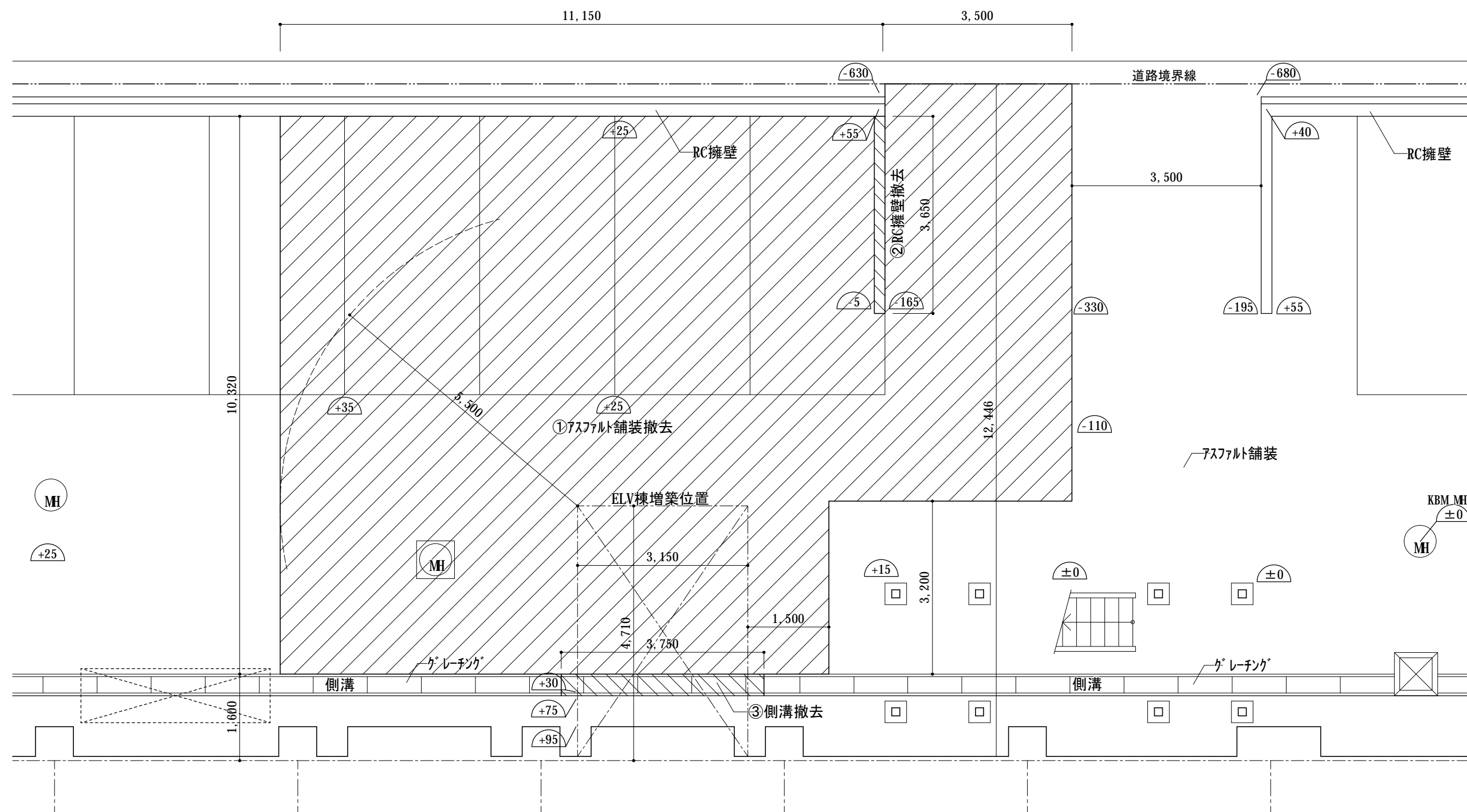
改修図

凡例

- 防火上主要な間仕切壁 (耐火構造)
- 天井撤去・復旧範囲 (LGS下地既存利用)
- 電気配線
- 空調配管 既存のまま※区画貫通処理は行う (機械設備工事)
- 壁付け扇風機 取外し再設置 2箇所 (機械設備工事)
- 扇風機用コンセント 取外し再設置 (本工事)
- 照明器具 取外し再設置 3箇所 (本工事)

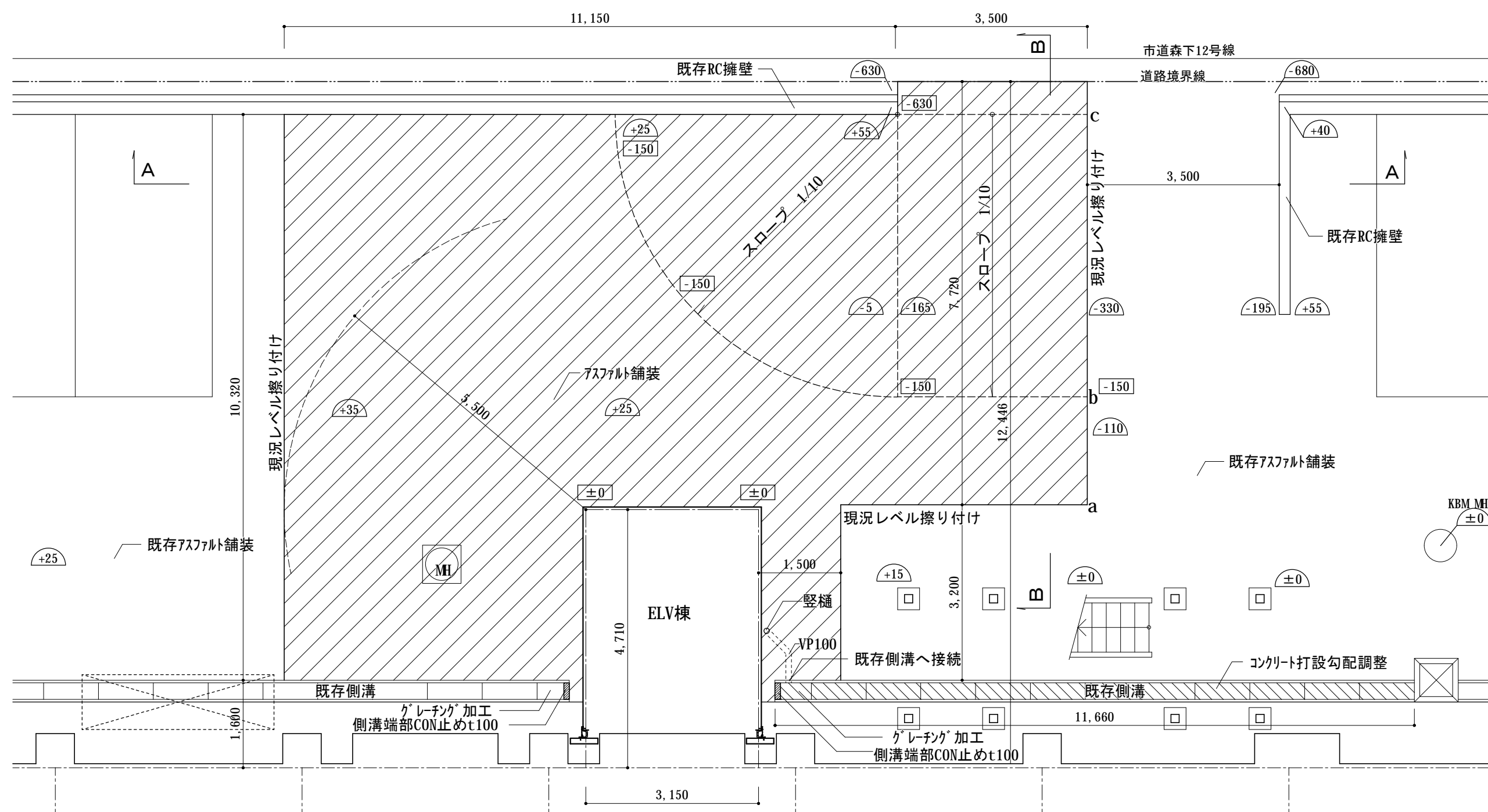




工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	既存校舎改修図-2		
縮 尺	各 図	番 号	49 枚の内 A-035 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



※外部仮設物撤去（別途工事）

現況図

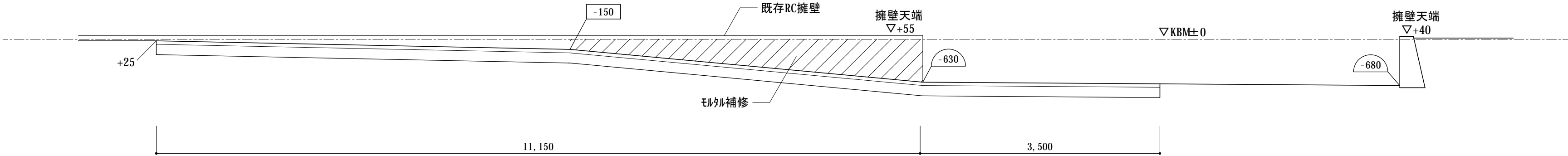



 : KBMからの計画地盤レベルを示す

 : KBMからの既存地盤レベルを示す
 設計GL=KBM±0
 1FL=設計GL+300=KBM+300

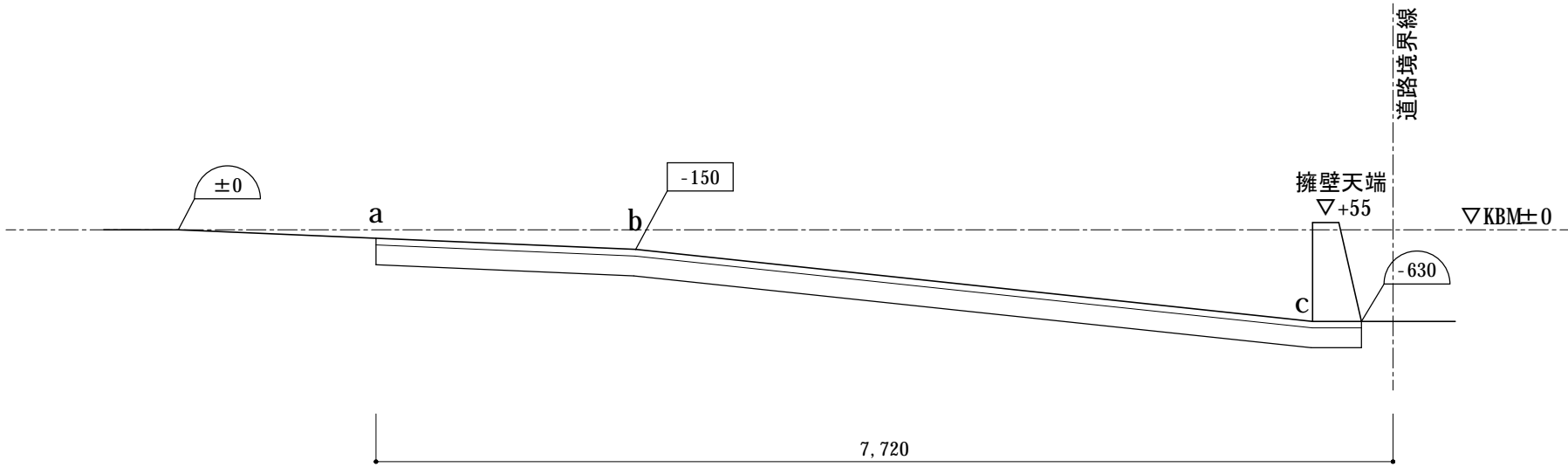
改修図

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	外構図		
縮 尺	1/80	番 号	49 枚の内 A-036 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有) 斐太プランニング 級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

駐輪場①撤去	駐輪場②撤去	自転車置き場C棟 外壁撤去(本工事)	物置撤去
 <p>11.3×1.8 = 20.34㎡ 単管組み、木製垂木、波トタン屋根 ※解体後単管は学校返却</p>	 <p>3.0×1.8 = 5.4㎡ 単管組み、木製垂木、波トタン屋根 ※解体後単管は学校返却</p>	  <p>外壁面積 42㎡ 木下地 トタン張り</p>	 <p>5.975×5.6 = 33.46㎡ 単管組み、木製垂木、波トタン屋根、木下地トタン壁 ※解体後単管は学校返却</p>



A - A 断面図 S=1/50

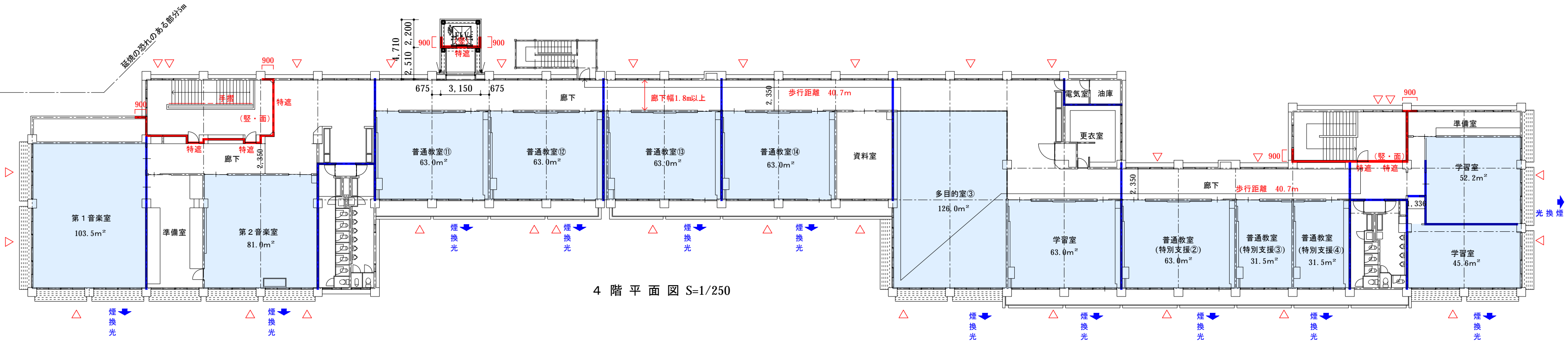


B - B 断面図 S=1/50

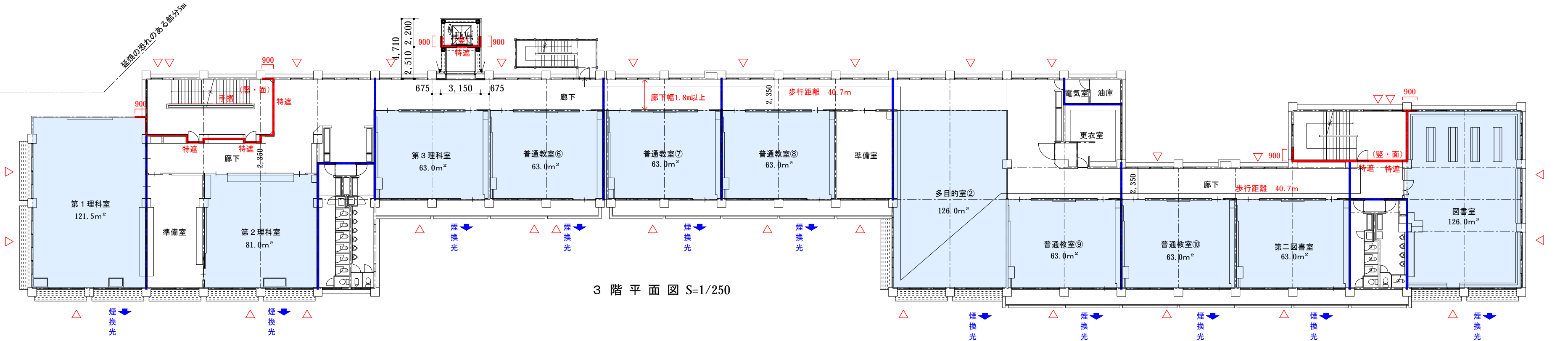
±*** : KBMからの計画地盤レベルを示す
±*** : KBMからの既存地盤レベルを示す
設計GL=KBM±0
1FL=設計GL+300=KBM+300

改修図

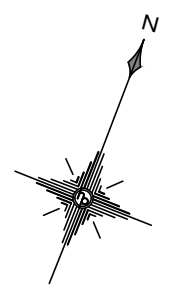
工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	外構詳細図		
縮 尺	1/50	番 号	49 枚の内 A-037 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



4 階 平 面 図 S=1/250



3 階 平 面 図 S=1/250



改修図

■防火区画凡例

- 防火区画（面積・堅穴） 耐火間仕切壁
- (面・堅) 既存RC造壁 t120以上 告示1399号1項二号イ（1時間耐火）
- 鉄骨下地 片面GB-Fc21二枚張り 1時間耐火 認定FP060NP-0497
- 防火上主要な間仕切壁 耐火間仕切壁
- 既存RC造壁 t120以上 告示1399号1項二号イ（1時間耐火）
- ※天井裏または小屋裏に達せしめる（各仕様共通）

■排煙の検討

- 令116条の2 窓その他の開口部を有しない居室の検討
- 自然排煙居室
- 告示1436-4-ニ(4) 排煙免除（居室）
- 100㎡以下 内装下地、仕上げ共不燃

■耐火リスト

<既存部分>

- 柱 RC造 1時間耐火 告示1399号
- 梁 RC造 1時間耐火 告示1399号
- 床 RC造 t70以上 1時間耐火 告示1399号
- 屋根 RC造 30分耐火 告示1399号
- 外壁 RC造 1時間耐火 告示1399号
- 階段 RC造 30分耐火 告示1399号
- 鉄造 30分耐火 告示1399号

<増築部分>

- 柱 鉄骨造 乾式ロックール吹付t25 1時間耐火 FP060CN-9460
- 梁 鉄骨造 乾式ロックール吹付t25 1時間耐火 FP060BM-9408
- 床 合成ﾌﾞｯｸｽﾗﾌﾞ t50+CON80 1時間耐火 認定FP060FL-9095、FP060FL-9101
- 屋根 RC造 30分耐火 告示1399号
- 金属板折板 t0.6以上+不燃ﾌﾞｯｸｽﾗﾌﾞ裏張り 30分耐火 認定FP030RF-9326
- 外壁 ALC t100 1時間耐火 H12建告1399号
- ※貫通処理、隙間等は、ﾓﾙﾄﾙ充填及び認定工法で適切に処理する。

■建具凡例

- 防 防火設備
- 防遮 防火設備（遮煙性能）
- 特 特定防火設備
- 特遮 特定防火設備（遮煙性能）
- ▽ 代替進入口
- 煙 116条の2 窓その他の開口部を有しない居室の検討
- 自然排煙
- 光 法28条1項 居室の採光
- 換 法28条2項 居室の換気 自然換気

既存校舎増築時

- 確認済証 昭和62年8月3日 飛建第449号
- 検査済証 昭和63年11月26日 飛建第449号
- 付帯施設増築時（体育器具倉庫、楽しう室、駐輪場2棟）
- 確認済証 昭和63年10月20日 飛建第717号
- 検査済証 昭和63年12月22日 飛建第717号

工 事 名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	法チェック図-2		
縮 尺	1/250	番 号	49 枚の内 A-039 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

法チェック

申請建物(既存校舎+ELV棟)

■物件名
日枝中学校ELV増築設計管理

■敷地条件
地名地番
都市計画区域
用途地域
防火地域等
建ぺい率
容積率
高度地区
日影規制
敷地面積
景観重点区域(高山市)
その他の地域地区

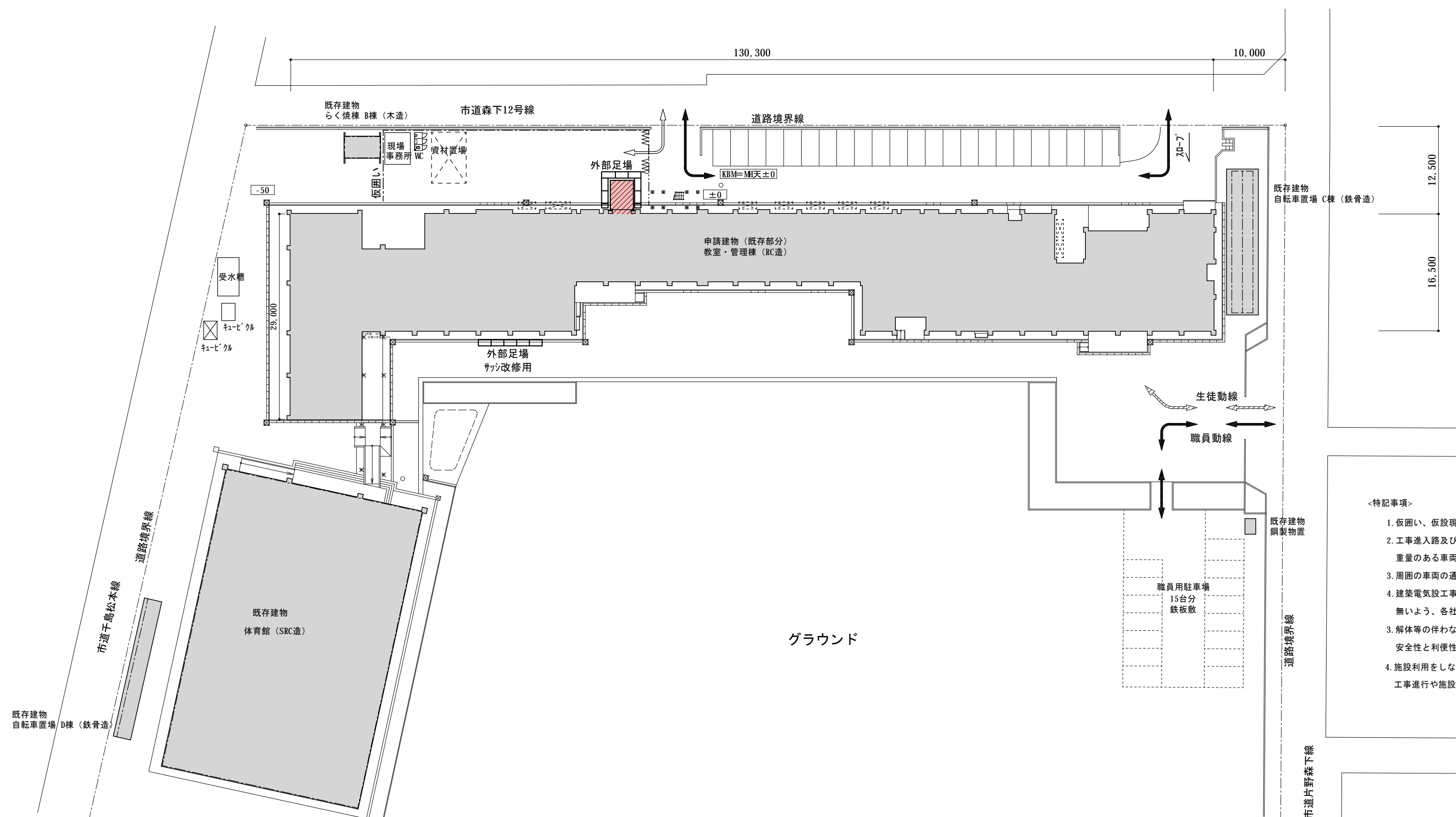
岐阜県高山市森下町1丁目200-1、219-1、212-1
区域区分非設定都市計画区域
第2種中高層住居専用地域
指定なし
60%
200%
-
4-2、5H 高さ4m
23907.00 ㎡
景観重点区域外
下水処理区域

■建物概要
主要用途
消防法上用途
構造
階数
建築面積
延べ面積

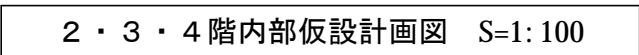
中学校
(特殊建築物)別表1(3)
(7)項中学校
鉄筋コンクリート造
4
3682.79 ㎡
7965.03 ㎡

■法適合条件（建築基準法、関係法令）					
条文		要否判定	判定根拠	備考	
■ 建築基準法					
法第27条1項	特定避難時間倒壊等防止建築物(耐火建築物)	要	別表1(1)～(4)の特建+階数3以上		
		要	延焼の恐れのある部分の開口部 防火設備	駐輪場主要構造部不燃	
法第28条1項	居室の採光	要	幼稚園、学校の教室 1/5 （小中高、義務教育、中等教育、こども園）		
法第28条2項	居室の換気	要	居室がある場合 自然換気 1/20		
	右記いずれか 右記いずれか	要	機械換気		
法第28条の2	シックハウス換気扇	不要	- 【増築】増築部分に居室無し、または増築部分が気密区分けされている		
法第43条1項	接道義務	要	敷地は道路に2m以上接道		
法第48条	用途地域による建築制限	要	用途地域	第2種中高層住居専用地域	
法第52条1項	容積率	要	前面道路12m未満 住居系 幅員×4/10	道路幅員6m程度 6×4/10≧200%	
法第53条1項	建蔽率	要	都市計画による建蔽率	60%+10%(角地)＝70%	
		適用	角地加算または2方向道路加算 1/10		
法第56条1項一号	道路斜線	要	住居系 幅員×1.25		
法第56条1項二号	隣地斜線	要	住居系 20m+水平距離×1.25		
法第56条1項三号	北側斜線	要	1中高、2中高 10m+水平距離×1.25		
法第56条の2	日影規制（高山市）	要	対象区域内建物10m以下	4-2. 5H（4m）	
令第21条	居室の天井高 2.1m以上	要	居室あり		
令第23条	階段	要	中学校、物販1500㎡超え W1400H180D260		
		要	居室200㎡超え W1200H200D240		
令第26条	階段に替わる傾斜路1/8以下	要			
法第35条の3、令第111条	採光無窓居室	要	採光に有効な開口部 1/20		
	右記いずれか 右記いずれか	要	- 避難上有効な外部開口 内接円1mまたはW750×1200		
	右記いずれか	要	無窓居室（111J）→区画する主要構造部を耐火構造または不燃材料で造る		
令第112条1項	防火区画 1500㎡面積区画	要	耐火、準耐火建築物 1500㎡区画（1時間準耐 床壁区画+開口部特防区画）		
令第112条10項	防火区画 竪穴区画	要	3階以上に居室有り + 耐火、イ準耐火 + 3層以上の階段等		
令第114条2	防火上主要な間仕切り	要	学校の教室-避難経路、教室-教室間の壁		
法35条、令第116条の2一号	無窓居室（採光無窓）	要	採光に有効な開口部 1/20以上		
	右記いずれか	要	非常用照明の設置（⇒令第126条の4確認、告示除外チェック）		
法35条、令第116条の2二号	無窓居室（排煙無窓）	要	排煙に有効な開口部（天井より80cm、操作H2m以下） 1/50以上		
	右記いずれか	要	排煙設備の設置（126条の2）		
	右記いずれか	要	告示適用：100㎡以下居室、下地仕上不燃（第1436-4-ニ(4)）		
令第119条	廊下幅 両側2.3、片側1.8	要	学校（小中高）の生徒用		
令第120条	直通階段	要	避難階以外の階がある場合		
	歩行距離 50m以下	要	別表(2)項、(4)項以外の居室の主要構造部準耐火以上または不燃		
令第121条	2直階段	要	5階以下に居室100㎡（※200㎡）超えの階 ※準耐火or不燃の場合		
		要	避難階の直上階居室200㎡（※400㎡）超えの階 ※準耐火or不燃の場合		
令第125条	屋外への出口	要	避難階の階段から屋外への歩行距離 120条の値以下		
		要	避難階の居室から屋外への歩行距離 120条の値の2倍以下		
令第126条の2	排煙設備	不要	- 【但し】二号：学校等 不要		
令第126条の4	非常用照明 居室+避難経路	不要	学校等→不要		
令第126条の6	非常用進入口、代替進入口	要	31m以下の3階以上		
令第128条	敷地内通路1.5m以上	要	特建、階数3以上、無窓居室有、延べ1000超え建物のいずれか	特建+階数3以上	
令第128条の3の2	内装制限 居室準不燃、廊下準不燃	要	- 50㎡超え居室 かつ 116条の2二号無窓居室（排煙無窓）		
令第128条の4	内装制限 無し	不要	- 学校等→不要		
■ 県条例					
第7条	6m接道	要	延べ面積1000㎡超		
第8条	4m接道	要	特建用途200㎡超え		
第23条	24条～27条の適用有無	要	学校、図書館、病院、児童福祉施設、集会場など		
第24条	スロープ W1.2、1/12	要			
第25条	屋外への1の出口90cm	要			
	各室からの1の出口80cm	要			
第26条	回り階段の禁止、手摺設置	要	各室から屋外への経路		
第27条	通路幅員W1.2以上	要	各室から屋外への経路		
■ 消防法					
(7)項中学校					
消防法防火対象物	誘導標識	要	全て		
	消火器	要	300㎡以上		
	自動火災報知設備	要	500㎡以上		
	消防通報する火報	要	1000㎡以上		
	屋内消火栓	要	耐火≧2100㎡以上、耐火≧450㎡の階		
	防火管理者の選任	要	50人以上		
	避難器具	要	階50人以上かつ1階、耐火2階以外の階	3、4階のみ該当	
■ 条例					
福まち条例（岐阜県）	対象用途・規模	要	学校 全て		
だれやさ条例（高山市）	対象用途・規模	要	学校、保育所等 全て		
■ 都市計画法	第60条 適合証明交付申請	要	都市計画区域内 敷地3000㎡以上で開発行為無し		
■ 建築物省エネ法	規制措置（適判）	要	10㎡超建物		
■ その他関係法令					
バリアフリー法		要	延べ2000㎡以上		

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	法チェック図-3		
縮 尺	－	番 号	49 枚の内 A-040 号
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



外部仮設計画図 S=1:500



■ 工事工程表

月	1月目	2月目	3月目	4月目	5月目	6月目	7月目	8月目
準備工・書類・検査								
仮設工事								
解体工事								
土工事・基礎工事								
鉄骨工事								
屋根外装工事								
内装工事								
外構工事								

参考図

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	仮設計計画図		
縮 尺	1/500, 1/100	番 号	49 枚の内 A-041 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		

高 山 市

鉄骨構造基準

1. 一般事項 (適用事項は○印で示す)

① 技術関連図書 (最新版)

1. 日本建築学会 建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事

2. 日本建築学会 鉄骨工事技術指針 工場製作編

3. 日本建築学会 鉄骨精度測定指針

4. 日本建築学会 高力ボルト接合設計施工指針

5. 日本建築学会 鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説

6. 日本建築学会 鋼構造設計規準

7. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 建築工事共通仕様書

8. 建設省住宅局建築指導課 SCS-H97 鉄骨構造標準接合部 H形鋼編

② 製作工場は、下記3項のいずれかで工事監理者の承認した工場とする

1	国土交通大臣認定工場	グレード	S	H	M	○R	J
2							
3	指定工場 (指定工場名)						

注) グレードの適用範囲

Jグレード 1. 鉄骨溶接構造の3階以下の建築物 (延べ面積500㎡以内、高さ13m以下かつ軒高10m以下のもの) である。

2. 400N級鋼で板厚16mm以下の鋼材。

Rグレード 1. 鉄骨溶接構造の5階以下の建築物 (延べ面積3000㎡以内、高さ20m以下のもの) 。

2. 400N及び490N級鋼で板厚25mm以下の鋼材。

Mグレード 1. 鉄骨溶接構造の400N及び490N級鋼で板厚40mm以下の鋼材。

Hグレード 1. 鉄骨溶接構造の400N、490及び520N級鋼で板厚60mm以下の鋼材。

Sグレード 1. 全ての鉄骨溶接構造。

③ 鉄骨工事着手前に提出する書類

1. 認定工場認定書写し (指定ゴム印のあるもの)

2. 工場製作要領書

3. 溶接工事作業計画書

④ 現場建方時に製作工場名表示看板を掲げる事 (建設省指発第347号)

⑤ 鉄骨工事完了後提出する書類

1. 鋼材規格証明書 (実物又は裏書きミルシート)

2. 高力ボルト規格証明書

3. 防錆塗料成分証明書

4. 鉄骨工事施工状況報告書の内、製作工場に求められる書類

5. 中間検査 (岐阜県告示480号) において製作工場が求められる書類 (特記による)

6. 社内検査報告書

2. 材料 (適用事項は○印で示す)

1. 鋼材の材質

材質	使用箇所	備考
・SS400	○ 形鋼 ○ 鋼板	
・SN400A	・ 形鋼 ・ 鋼板	(溶接を伴わない二次部材等)
・SN400B	・ 形鋼 ・ 鋼板	(突き合せ溶接を行なう部材)
・SN400C	・ 形鋼 ・ 鋼板	(板厚方向に突き合せ溶接をされる部材)
・SSC400	○ 形鋼	
・STK400	・ 鋼管	(間柱・耐風梁)
・STKR400	○ 冷間成形形鋼管	
・STK490	・ 鋼管	
・STKR490	・ 冷間成形形鋼管	
・SN490B	・ 特記した形鋼 鋼板 (t≦40)	(突き合せ溶接を行う部材)
・SN490C	○ 特記した形鋼 鋼板 (t≦40)	(板厚方向に突き合せ溶接をされる部材)
○BCR295	○ 冷間成形形鋼管	(柱)
・BCP235		
・BCP325	・ 冷間成形形鋼管	

2. ボルト

○ 高力ボルト ・ F10T ○ S10T 認定品 ○ M16 ○ M20 ・ M22

○ 中ボルト ϕ 特記による

○ アンカーボルト ϕ 特記による

・ 頭付スタッド ϕ 特記による

3. 防錆塗料は下記の通りとする。

塗料種類	1種	2種	塗り回数
K-5674	○		工場 2回
			現場タッチアップ 1回
			(監理者の指示に依る)

3. 検査 (適用事項は■印で示す)

1. 工事監理者が行う検査項目

□ 目視検査 ■ 組立・開先検査 ■ 製品検査 ■ 建方検査 □

2. 溶接及び接合部を検査し工事監理者に報告すること工事監理者が行う検査項目

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数		備考
		社内	第三者	
■ 突合せ溶接部	超音波探傷検査	100%	30%	監理者の指示による
■ 隅肉溶接部	外観 (目視) 検査	100%	30%	
□	マクロ試験・その他	個	個	

第三者検査機関名

□

□

□

□

□

監理者の指示による

現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

工作標準

1. 切断 (JASS6)

1. 鋼材の切断面はいちじるしい切欠きを生じない様にする。ノッチの深さは1mm以下とする。

2. せん断切断する場合の鋼材の板厚は、13mm以下とする。

3. 切断面のバリは取り除く。

2. 開先加工 (JASS6)

1. 開先の加工は切削加工機又は自動ガス切断機により行うことを原則とする。

2. 開先加工面は、あらか200μmRy以下、ノッチ深さは2mm以下とする。

3. 開先加工及びスカラップ加工は特記による。

□ ノンスカラップ ■ スカラップ

3. 孔あけ加工 (JASS6)

1. 高力ボルト用孔の孔あけ加工は、ドリルあけとする。接合面をブラスト処理する場合は、ブラスト前に孔あけ加工する。

2. ボルト・アンカーボルト・鉄筋貫通孔はドリルあけを原則とするが、板厚13mm以下の時は、せん断孔としてもよい。但し、切断面にバリなどが生じた場合は、グラインダーなどにより修正する。

3. アンカーボルト孔・セバ孔・設備貫通孔等で、径30mm以上はガス孔としてもよい。

4. 孔径は下記とする。

種類	孔径 d	公称軸径 d1
高力ボルト	d1+2.0	d1<27
	d1+3.0	d1≧27
ボルト	d1+0.5	—
アンカーボルト	d1+5.0	—

4. 摩擦面の処理 (JASS6)

すべり係数が0.45以上確保できる下記の通りとする。

1. 自然発生 ——— ディスクグラインター等で黒皮などを、スプライスプレートの全面の範囲について除去した後、自然放置して発生させた赤さび状態を確保する。

2. ブラスト処理 ——— ショットブラスト等で50μmRy以上のあらかを確保する。

5. 溶接 (JASS6)

1. 組立溶接・本溶接ともJIS Z 3801又はJIS Z 3841有資格者が行なう。

2. 溶接に使用する材料は母材の材質に適合したものを使用する。

3. 開先のある溶接の両端には、健全な溶接の全断面が確保できるようにエンドタブを用いる。但し、工事監理者の承認があればその他適切な方法を用いることができる。

4. 気温-5℃を下回る場合は、溶接を行ってはならない。気温が-5℃から5℃においては、溶接部より100mmの範囲の母材部分を適切に加熱すれば溶接することができる。

5. 突合せ継手およびT継手の余盛高さ

完全溶込み溶接の突合せ継手の余盛高さは0mm以上とし、T継手の余盛高さは突合せ母材の厚さの1/4とし、材の厚さが40mmを超える場合は10mmとする。このときの許容差はJASS6-付則6「鉄骨精度検査基準」による。余盛は応力集中を避けるため滑らかに仕上げ、過大であったりビード表面形状に不整があってはならない。

6. 溶接材料と入熱、バス間温度の組合せは、下記鋼材の種類400N及び490N級鋼の項による。但し、490N級鋼のSTKR・BCPの場合は、YGW-18、19で入熱30KJ/cm以下、バス間温度250℃以下とし、400N級鋼のSTKR・BCR及びBCPの場合は、YGW-11、15で入熱30KJ/cm以下、バス間温度250℃以下とする。

鋼材の種類と溶接材料

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211 3212	40以下	350以下
	YGW-11、15		
	YCW-11、15		
	JIS Z 3214		
	YGA-50W、50P		
490N級鋼	JIS Z 3212	40以下	350以下
	YCW-11、15		
	YCW-18、19		
	JIS Z 3214		
	YGA-50W、50P		

7. 構造耐力上主要な部分の溶接部は、割れ、内部欠陥等の構造耐力上支障のある欠陥がないものとする。

8. 突合せ継手の食い違いは、板厚が15mm以下では1.5mm以下、15mmを超える場合は、板厚の1/10以下かつ3mm以下とする。

9. 柱仕口部における梁フランジは、通しダイアフラムの場合は、ダイアフラムの板厚の範囲に収まること。内ダイアフラムの場合のダイアフラムと梁フランジのずれ量は、はりのフランジ厚btfが柱のフランジ厚ctf以下の時はbtfの1/4かつ5mm以下、btfがctfを超える時にはbtfの1/5かつ4mm以下とする。

10. 0.3mmを超えるアンダーカットはあってはならない。但し、アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの10%以下であり、かつ、その断面が鋭角的でない場合は、アンダーカットの深さを1mm以下とすることができる。

溶接基準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:ルート面 S:サイズ (単位mm)

(1) すみ肉溶接

側面溶接

片側溶接

t≦16			
t	8以下	9~10	11~13
s	6	7	10

●但し片側溶接の場合はS=tとする

●tはt1、t2の小さな方とする

余盛は(1+0.1S)mm以下とする

(2) 突合せ溶接 (平継手 T形継手)

裏はつり後溶接

0.5≦f≦3 (ただし、t≧15のとき4mmとする)

t	6<t
溶接姿勢	F・V

0.5≦f≦3 (ただし、t≧15のとき4mmとする) S=t/4

MC		GC、NGC				
t	θ	G	t1	θ	G	t1
6≦t<12	45°	6	9	35°	6	9
12≦t<19	35°	6	9	35°	9	9
19≦t	35°	6	9	35°	9	9

溶接姿勢 F・V

●補強すみ肉溶接を付加する

裏はつり後溶接

θ=45°

S=t/4	
t	6<t<16
溶接姿勢	F・V

●両側に補強すみ肉溶接を付加する

裏はつり後溶接

θ=45°

S=t/4	
t	t≧16
溶接姿勢	F・V

●両側に補強すみ肉溶接を付加する

角型鋼管柱継手 (現場溶接)

注) 現場溶接は原則として超音波探傷検査を100%行なう

平面図

角型鋼管現場継手

角型鋼管柱継手 (現場溶接)

注) 現場溶接は原則として超音波探傷検査を100%行なう

貫通孔補強

■検討および使用の決定

貫通孔無しで構造計算を行った結果から得られる貫通孔部分の存在応力が、Oリング工法を用いた貫通孔部分の耐力を上回らないことを確認する必要があるの、Oリングの使用の決定は構造設計者により行う。

■適用範囲

(注記5)

適用範囲のはり	貫通孔の規定
断面形状	H形断面
せい (D)	24mm以上
	120mm以下
鋼種 (注記6)	SS400
	SN400、SN490
	SM400、SM490
ウェブ幅比	FAランク
	Fランク

注記1: はりに軸力が作用する場合は適用外とする。

注記2: はりせい方向に連続して取付た貫通孔は適用外とする。

注記3: はりの鋼種について、SN400Aは適用外とする。

注記4: L3の規定により、偏心量や貫通孔の大きさが制限される場合があるので注意する。

注記5: はり端部端面近くは応力が大きくなり、詳細な検討が必要となる場合があるので注意する。

注記6: リブプレート等のはりウェブに取り付く部材とOリング外縁までのあきは70mm以下とする。

工事名

日枝中学校ELV棟増築工事 (建築)

図名

鉄骨構造基準

縮尺

番号

49枚の内 S-001号

設計年月日

令和7年2月

設計

(有) 斐太プランニング一級建築士事務所

一級建築士 第266975号 門 秀樹

高山市

1級建築士 第361824号

構造1級建築士 第10905号

大野博之

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本基準図に優先して適用する。

(2) 記号は下記による。

d: 鉄筋の直径 (異形鉄筋では呼び名に用いた数値) D: 部材の成 R: 直径
@: 間隔 r: 半径 CL: 中心線 lo: 部材間の内法寸法 ho: 部材間の内法高さ
S.T: あばら筋 HOOP: 帯筋 S.HOOP: 補強帯筋 φ: 直径

(3) 鉄筋の表示

表示記号	○	×	◇	●	○	⊙	⊗	○
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋のフック (a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

a. 柱の四隅にある主筋 (重ね継手の部分、最上階の柱頭部分)
※ 右図 ●印の主筋

b. 梁主筋で、梁の出隅及び下端の両側に
ある重ね継手の部分 (基礎梁は除く)
※ 右図 ●印の主筋

c. 煙突の鉄筋 (壁の一部になる場合を含む)

d. 杭基礎のベース筋

e. 帯筋、あばら筋及び幅止筋

(2) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°は、T形及びL形梁のあばら筋にのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上	8d以上	
折曲げ内法寸法Rは、D16以下 (SD295A) は3d以上、D19以上 (SD345) は4d以上				

(3) 鉄筋中間部の折曲げの形状 (折曲げ角度 90°以下)

図	使用箇所	鉄筋径d	鉄筋の種類	折曲げ内法R
	帯筋 a. あばら筋 スパイラル筋	D16以下	SD295A	3d以上
		D19以上	SD345	4d以上
	b. その他	D16以下	SD295A	4d以上
		D19以上 D25以下 D29以上	SD345	6d以上 8d以上

(4) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ		L₂・L₃以外の定着及び重ね継手の長さ (L₁)
		一般 (L₂)	下筋筋 (L₃) (注)	
SD295A SD345	18以下	40d 又は 30dフック付	小梁 25d 又は 15dフック付	スラブ 10d かつ 15cm以上
	21以上	40d 又は 30dフック付		
	36以下	40d 又は 30dフック付		
	30以上	30d 又は 20dフック付		
36以下	30d 又は 20dフック付			

(注) 基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く

定着・継手特記事項

- 特記が無ければ、柱及び梁の主筋はガス圧接とし、その他は重ね継手とする。
- 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さには含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設ける事を原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手は、細い方の鉄筋の継手長さとする
- 鉄筋径の差が5mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状

隣り合う継手の位置
圧接継手

重ね継手 (下図のいずれかとする)

H = 1.4d 以上
L = 1.1d 以上
編みは d/5 以下

≥400

L₁ 0.5L₁

L₁ ≥0.5L₁

(5) かぶり厚さ

部 位	設計かぶり厚さ (mm)		最小かぶり厚さ (mm)
	設計基準強度の範囲 (N/mm²)	一般 (L₂)	
土に接しない部分	床・屋根スラブ・非耐力壁	40 (30)	30 (20)
	柱・梁・耐力壁	屋外 50 (40)	40 (30)
土に接する部分	擁壁・耐圧スラブ	50	40
	柱・梁・床スラブ・耐力壁 (α)	50	40
煙突等 高熱を受ける部分	基礎・擁壁・耐圧スラブ (α)	70	60
		60	60

1. () 内は、耐久性上有効である仕上 (モルタル等。仕上吹付・塗装を除く) がある場合

2. (α) が軽量コンクリートの場合は、係員との相談による

3. ひび割れ誘発目地部等、鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所は、最小かぶり厚さを確保する

4. 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを決定する

5. 直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さは含まない

(6) 鉄筋のあき

- 隣り合う鉄筋の平均径 (呼び名に用いた数値) の1.5倍以上
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍かつ、25mm以上

3. 基礎

(1) 直接基礎

(2) 杭基礎

① A形

② B形

(3) 基礎接合部の補強

0 < D ≤ 500

500 < D ≤ 1,000

3-D13

D10-@250 (縦横)

3-D13

L₂

D

150

≥ L₂

150

≥ L₂

梁幅

梁幅

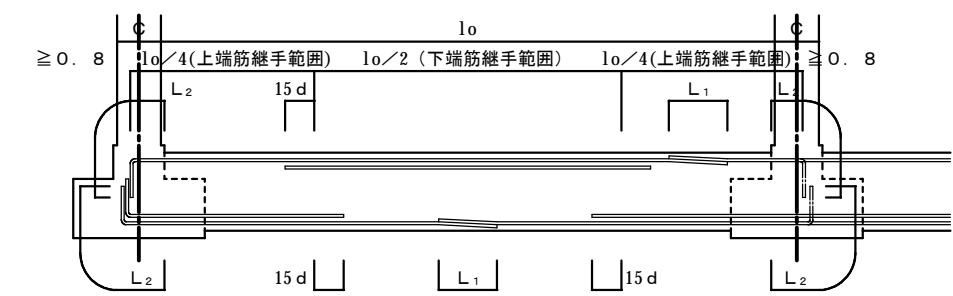
4. 地中梁

(1) 梁主筋の基礎内定着

(2) 独立基礎の主筋の定着・継手 (梁にスラブが付かない場合)

(3) 独立基礎の主筋の定着・継手 (梁にスラブが付く場合)

(4) 連続基礎、べた基礎の主筋の定着・継手 (梁にスラブが付く場合)



5. 柱

(1) 柱主筋の継手

(2) 柱主筋の定着

(3) 帯筋

① H形

② W-I形

③ SP形 (スパイラル筋)

④ 丸形

1. 帯筋は、梁面より割り付ける。

2. W形で現場溶接する場合は、鉄筋の組立前に行う。

3. フック及び継手の位置は、交互とする。

4. フックのはかり方は上図による。

5. 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。

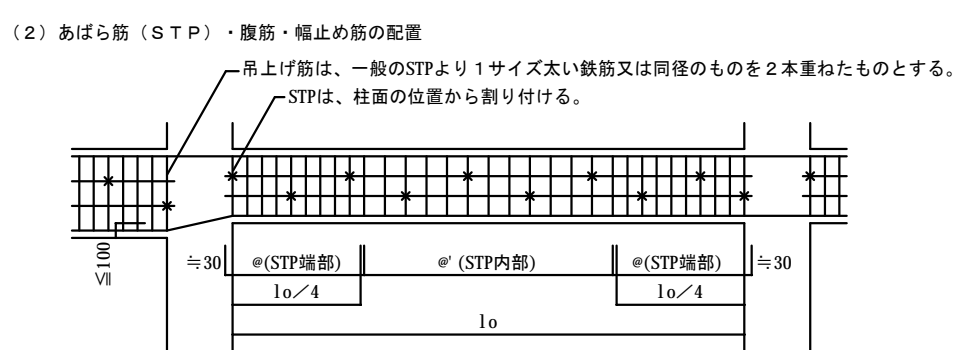
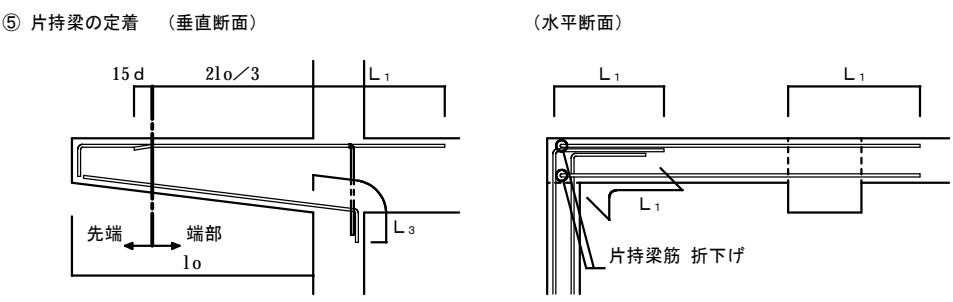
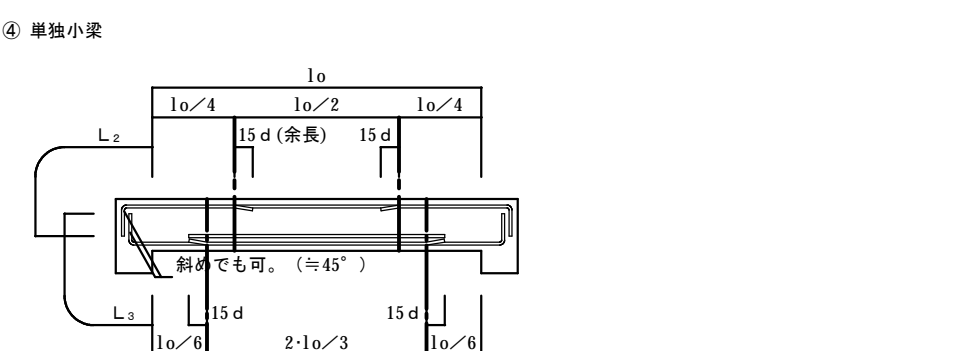
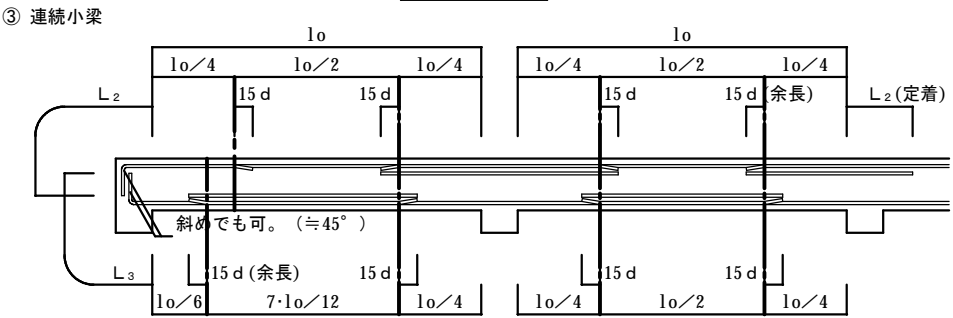
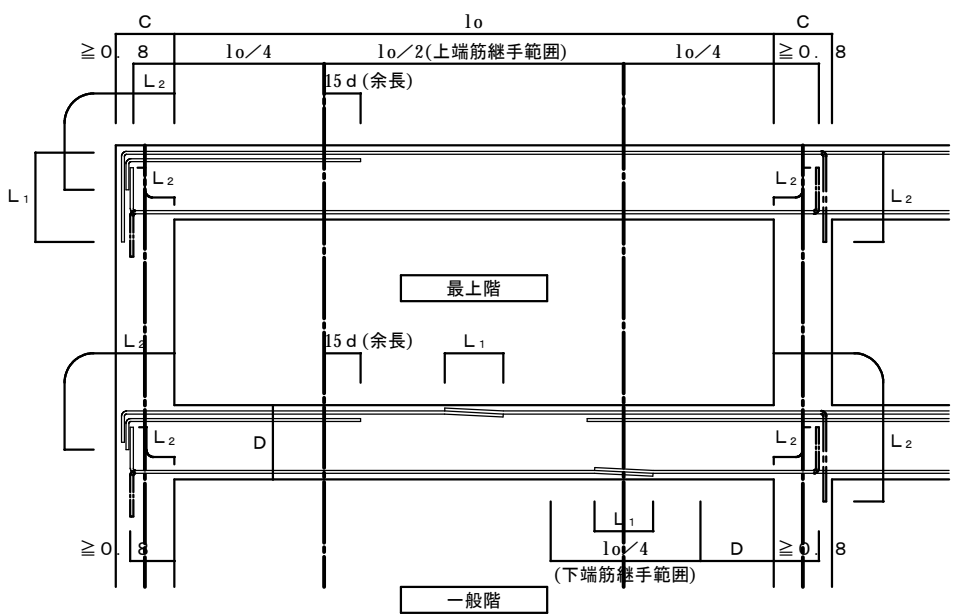
6. SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の流巻きを行う。

6. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着・継手

① 梁主筋の柱内定着

② 大梁 (ハンチの無い場合)



1. 原則として、①のフック先曲げとする。

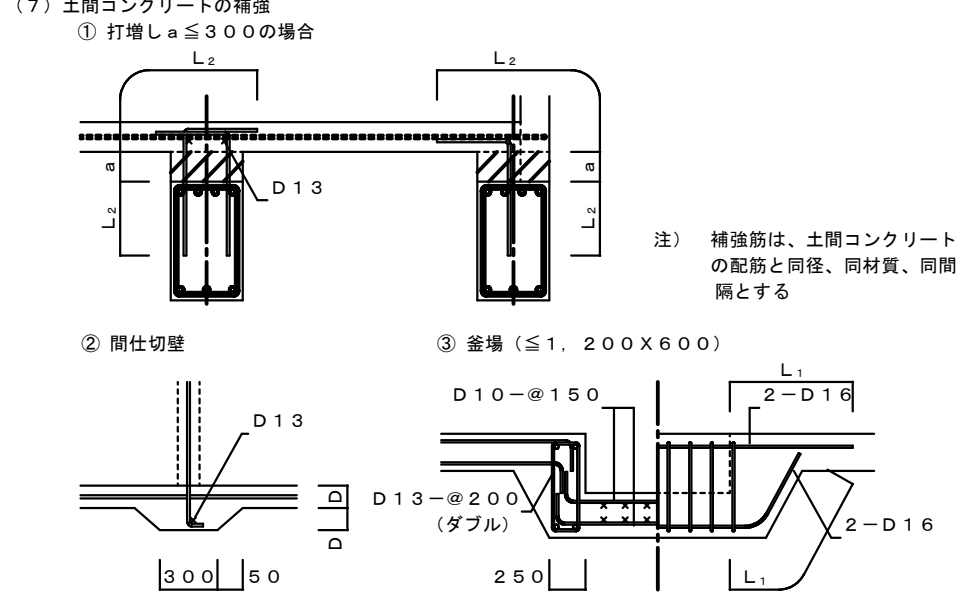
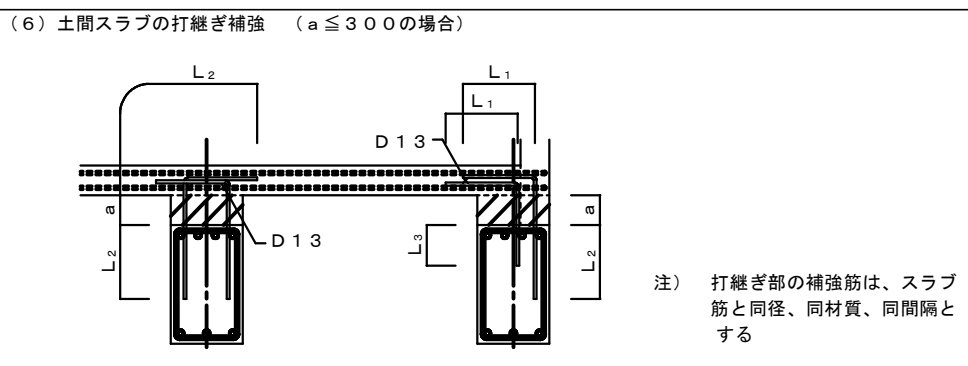
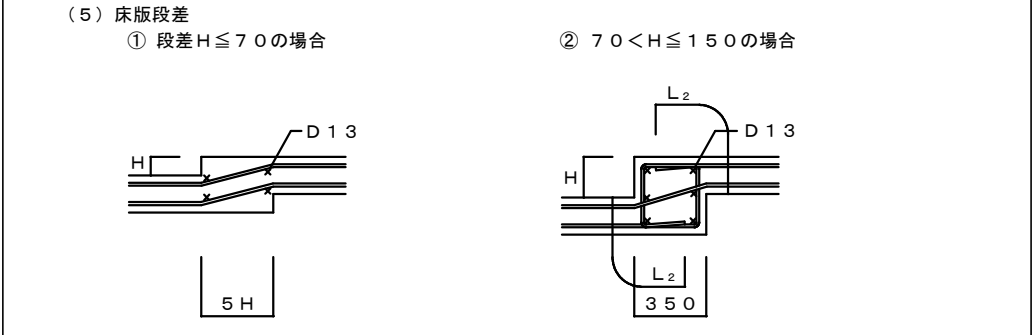
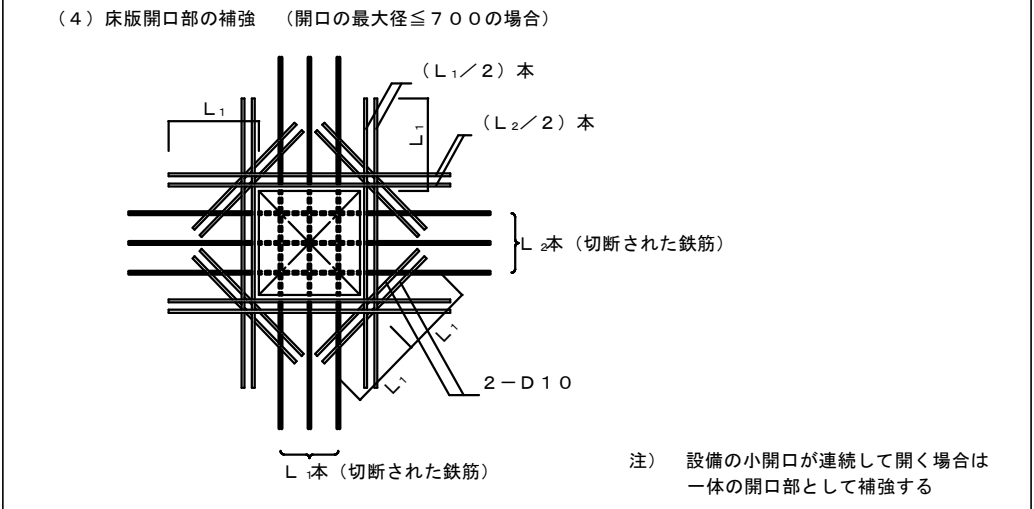
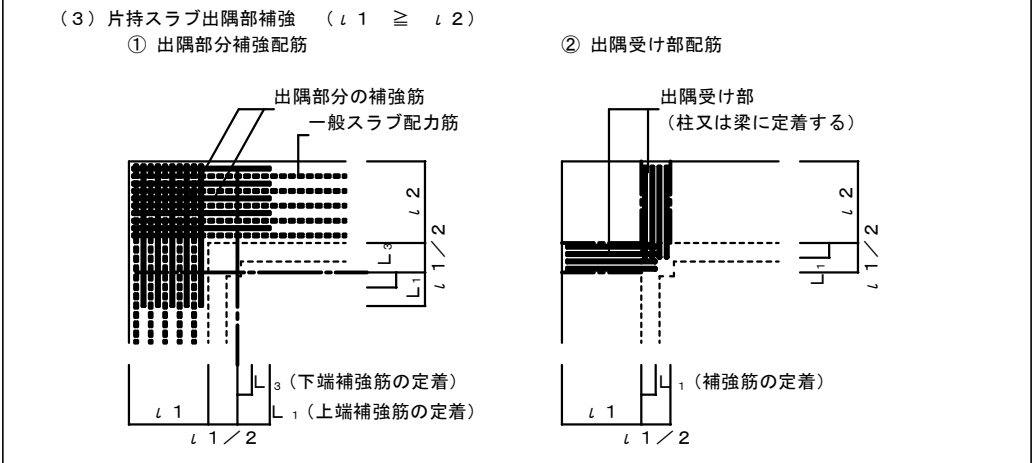
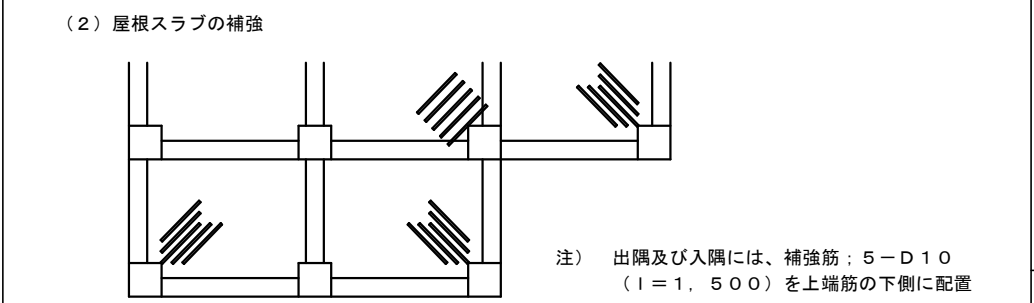
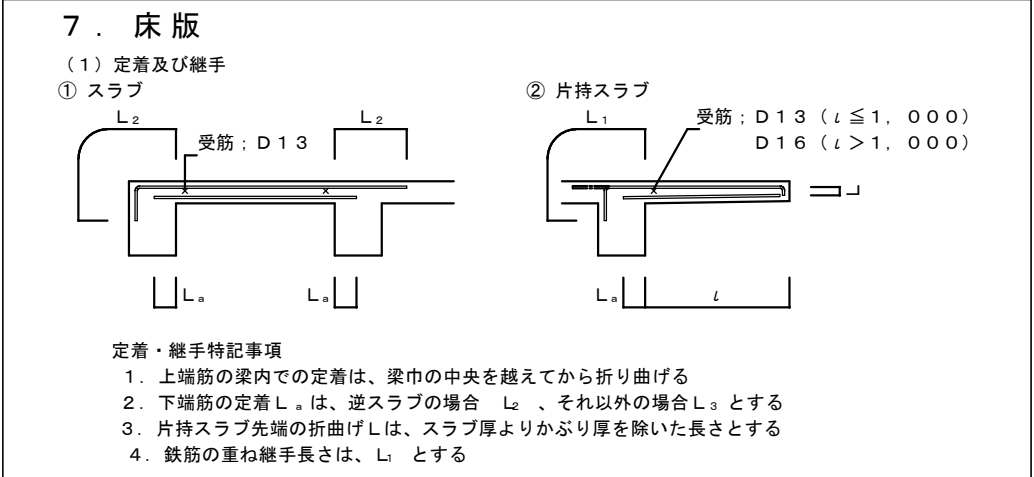
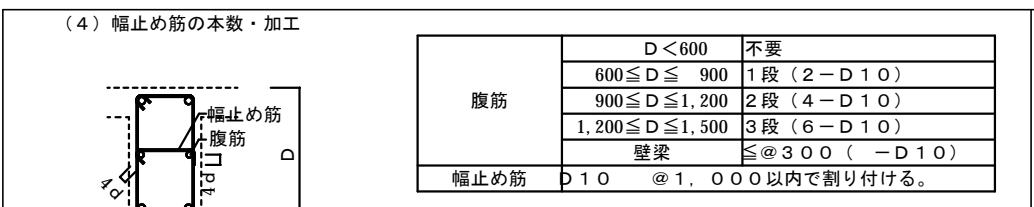
フックの位置は交互とする。

2. L型梁の場合は②又は③、T型梁の場合は②~④とする事ができる。

②のフックは、L型梁ではスラブの付く側、T型梁では交互とする。

③のフックは、スラブの付く側を90°折曲げとする。

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	RC標準図1		
縮 尺		番 号	49 枚の内 S-002
設 計 年 月 日	令和7年2月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			



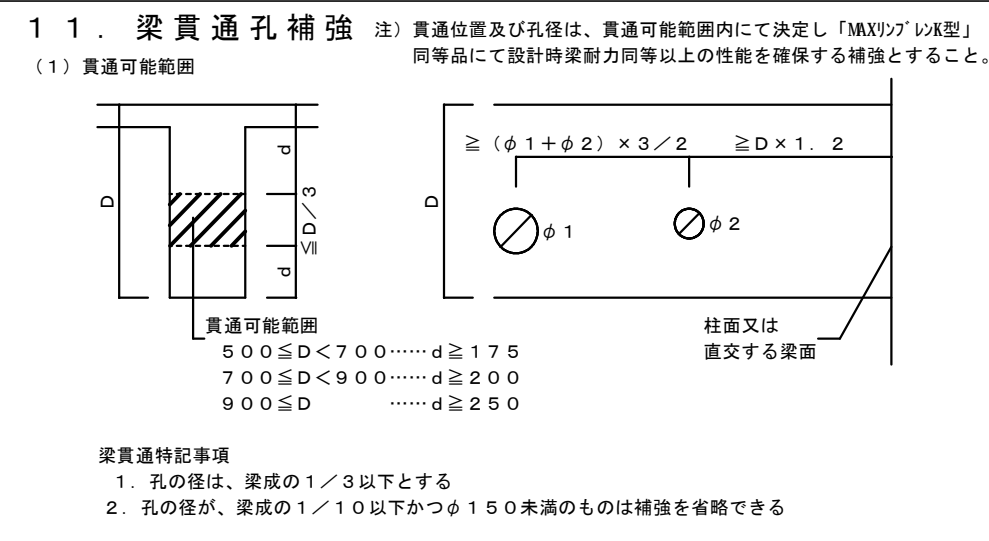
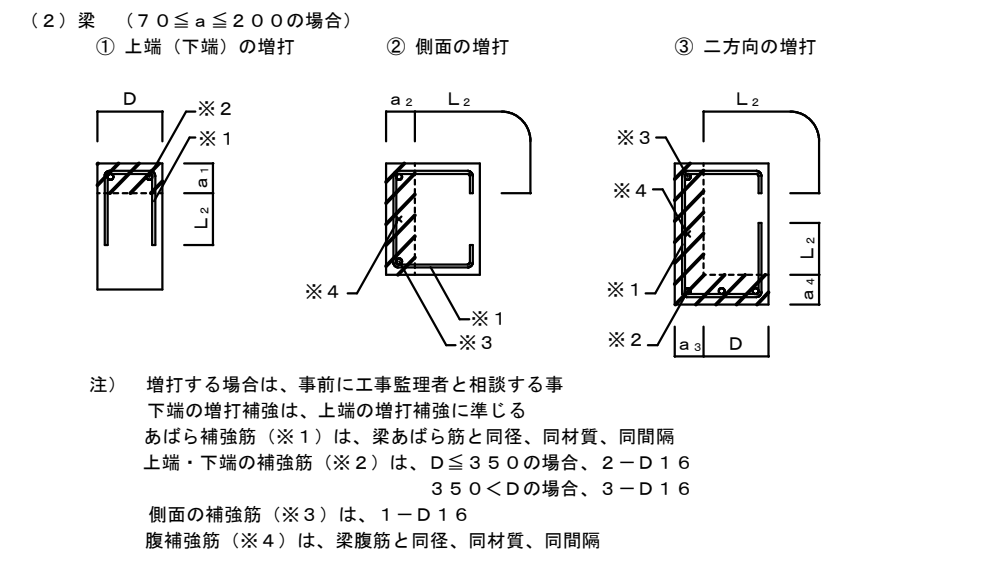
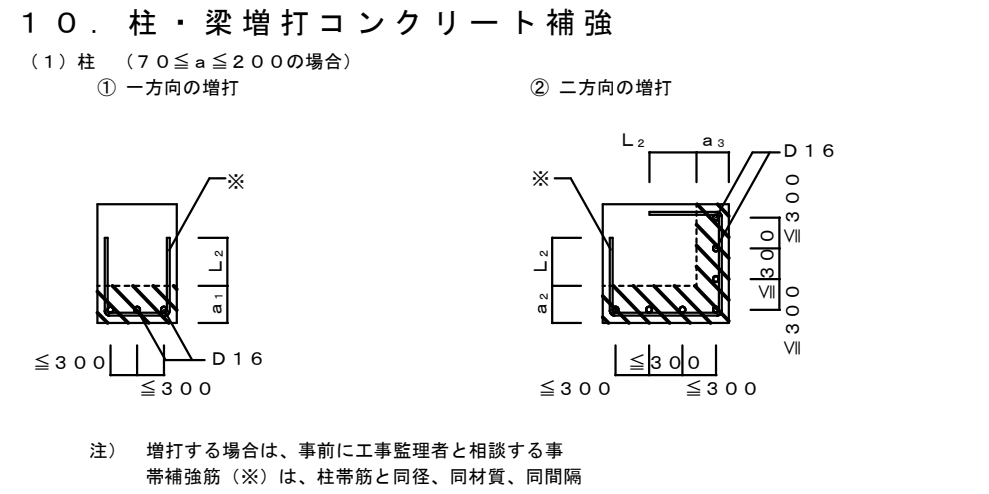
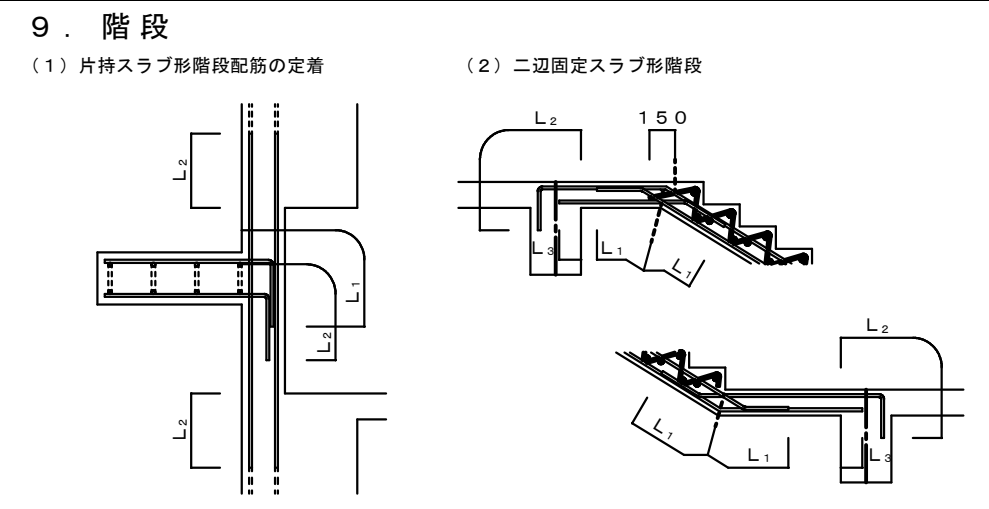
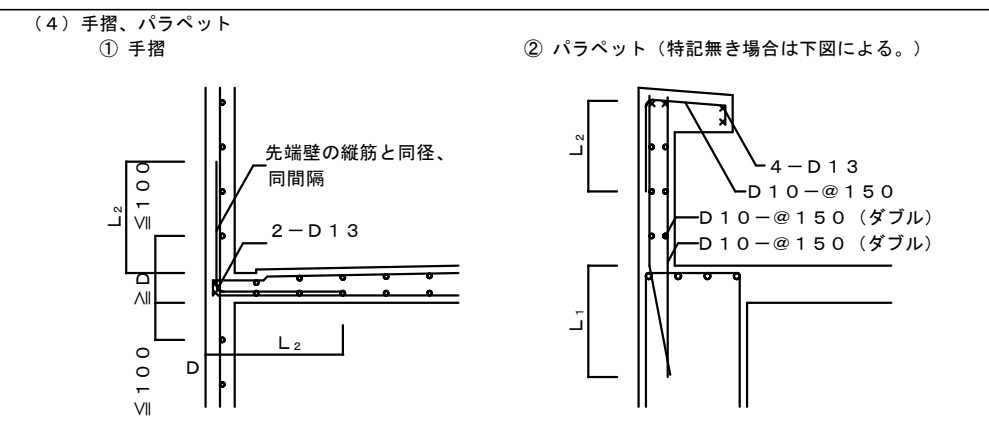
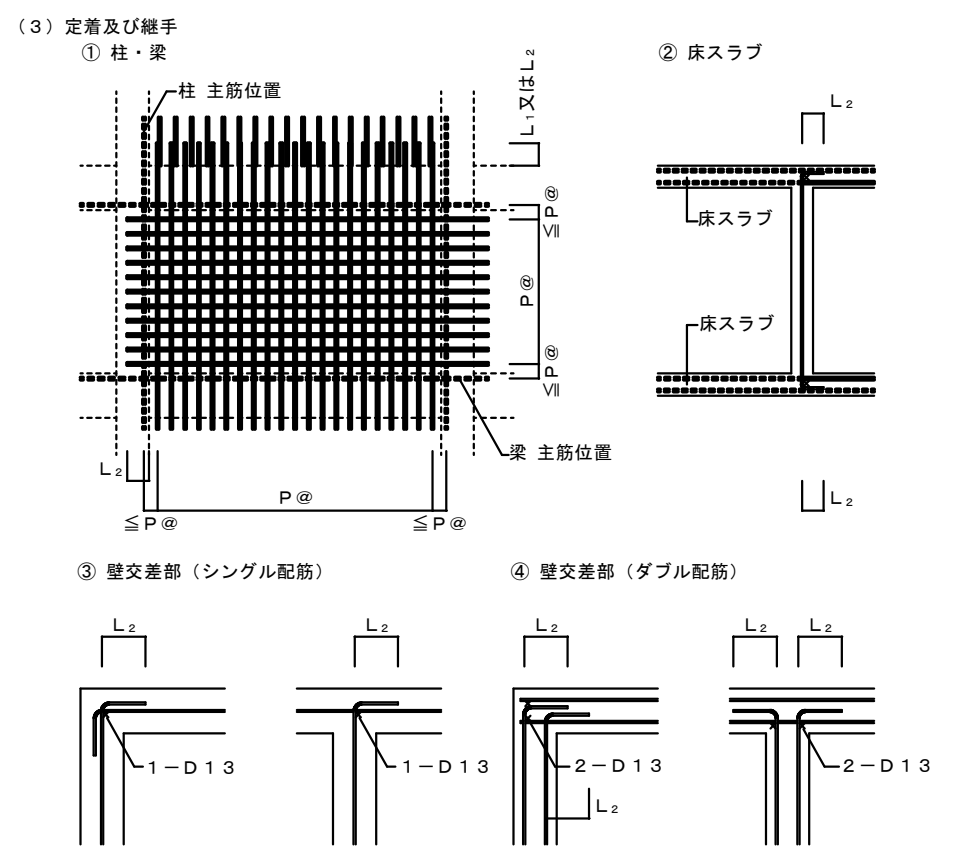
8. 壁

(1) 壁配筋は、特記無き場合は下表による。

種別	壁厚	縦筋及び横筋	開口部補強筋 (縦横)	開口部補強筋 (斜め)
W10	100	D10-@250シングル	2-D13	1-D13
W12	120	D10-@200シングル		
W15A	150	D10-@150シングル		
W15B	150	D10-@100シングル		
W18A	180	D10-@200ダブル	4-D13	2-D13
W18B	180	D10-@150ダブル		
W20A	200	D10-@200ダブル		
W20B	200	D10-@150ダブル		

(2) 片持スラブ階段を受ける壁配筋は、特記無き場合は下表による。

種別	壁厚	縦筋	横筋	備考
KW1	180	D13-@200ダブル	D10-@200ダブル	注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。
KW2	200	D13-@150ダブル	D10-@200ダブル	



コンクリート材料

レディーミクストコンクリート (J A S S 5 の規定に基づくものとする。)

コンクリート強度

構造図特記による。

コンクリート圧縮強度試験については、告示昭56建告 第1102号による。

耐久設計基準強度 F_d は、 J A S S 5 (2009) による。

F_d □一般 (18N/mm²) ■標準 (24N/mm²) □長期 (30N/mm²) □超長期 (36N/mm²)

※ コンクリート 強度の温度補正は打込みから28日までの予想平均気温により補正すること。

0 (N/mm²) から 6 (N/mm²)

型式及び支柱の除去

告示昭46建告 第110号による。

第1

せき板及び支柱の存置期間は、建築物の部分、セメントの種類及び荷重の状態並びに気温又は養生温度に応じて次の各号に定めるところによらなければならない。

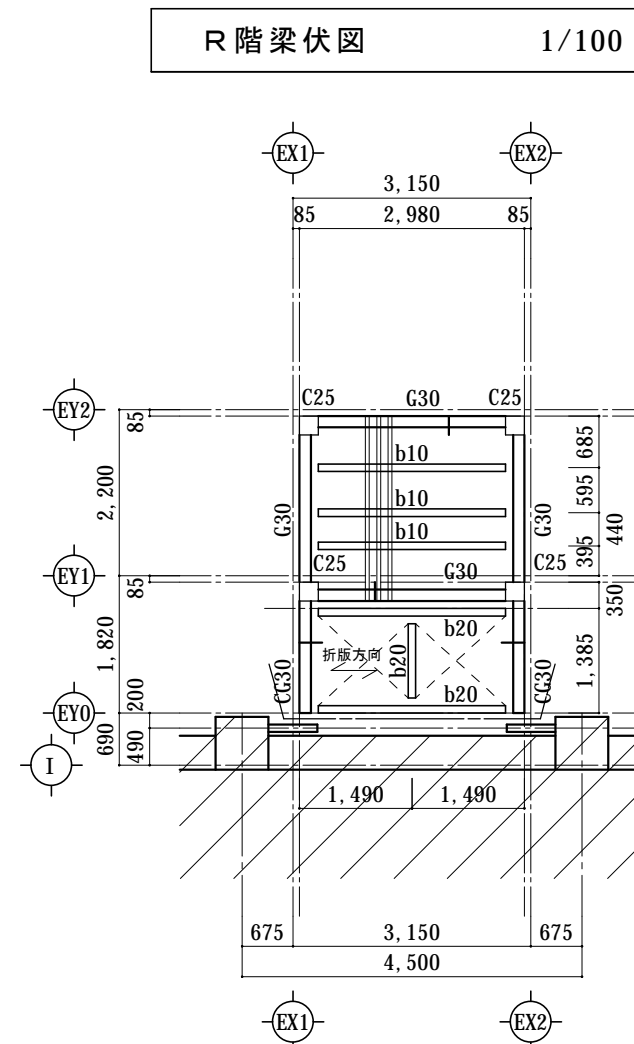
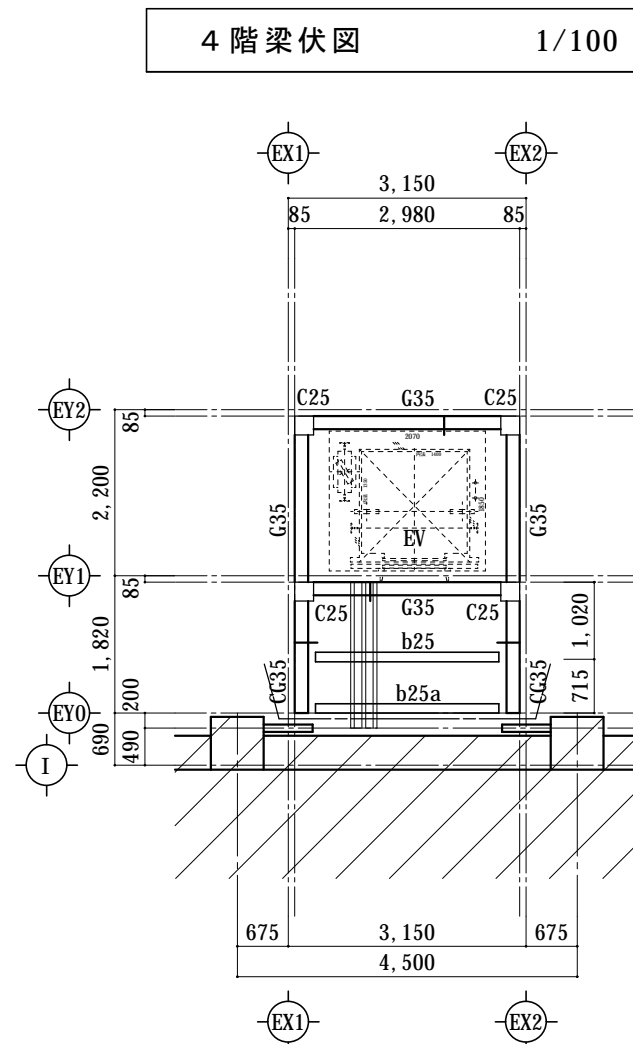
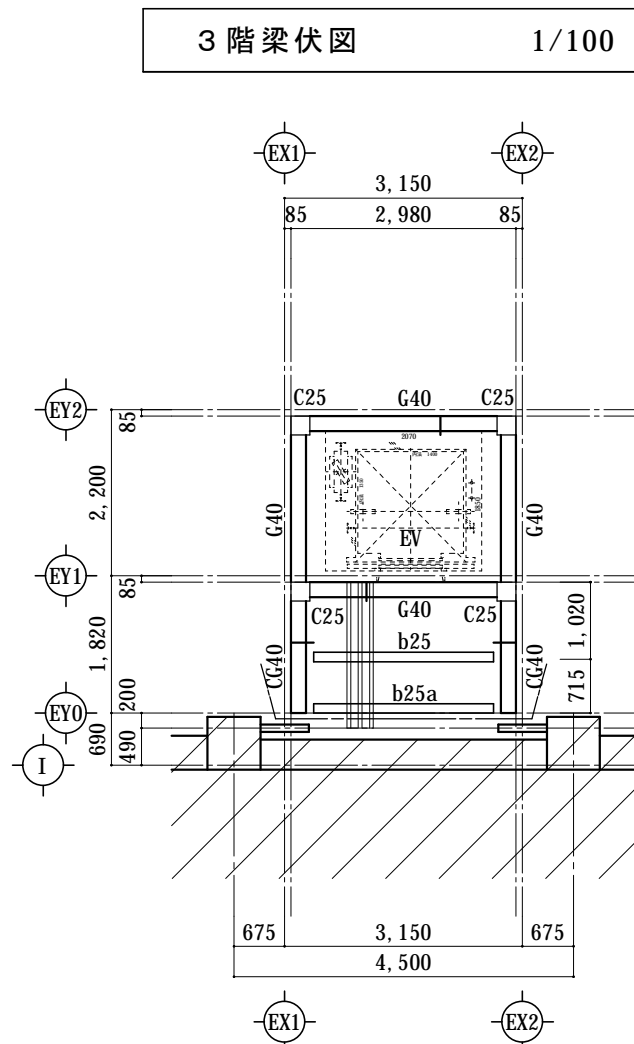
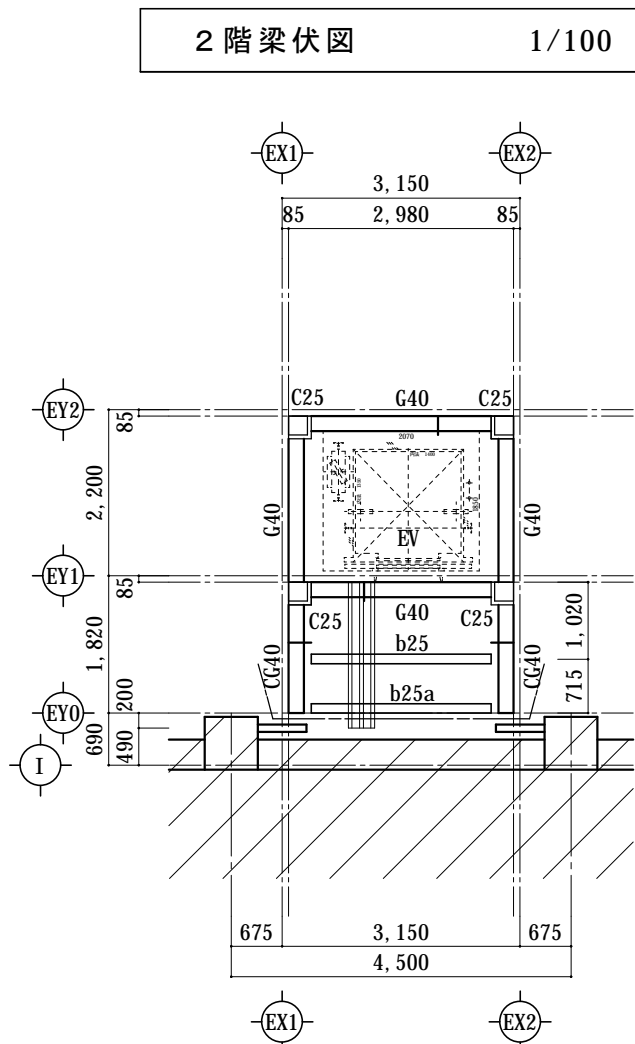
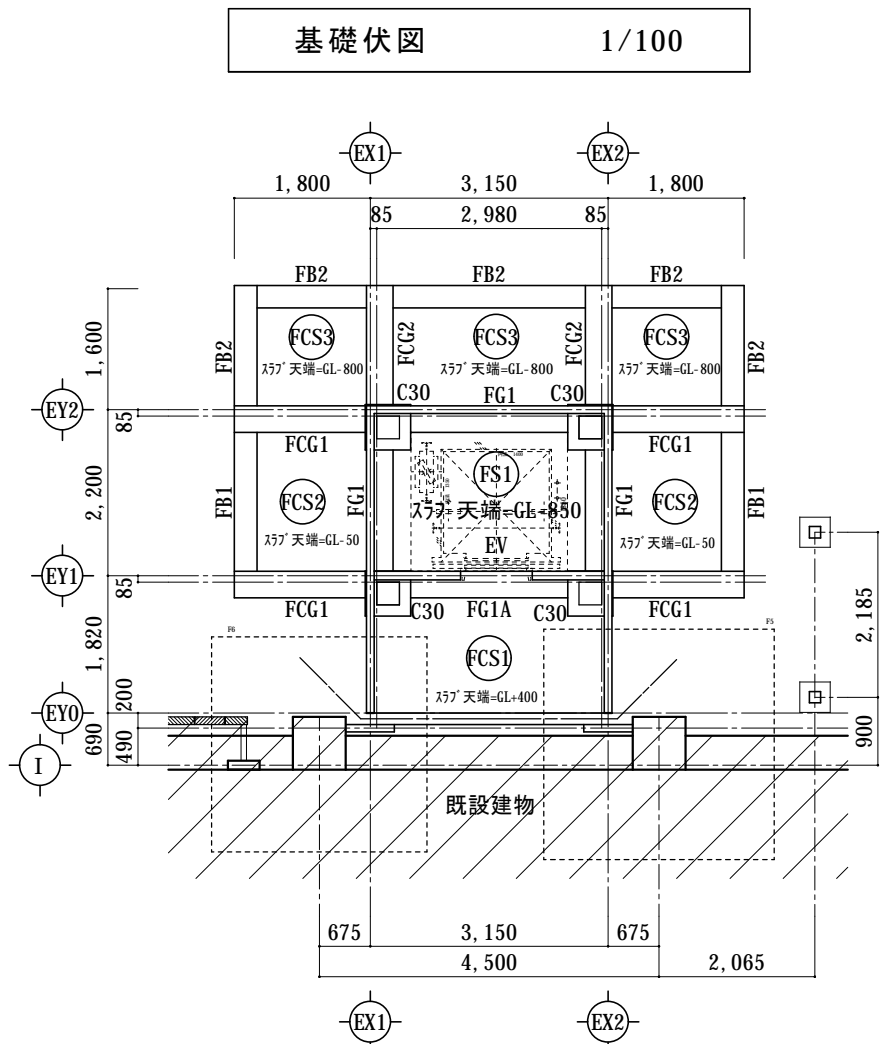
一

せき板は、別表(ろ)欄に掲げる存置日数以上経過するまで又はコンクリートの強度が同表(は)欄に掲げるコンクリートの圧縮強度以上になるまで取り外さないこと。

二

支柱は、別表(ろ)欄に掲げる存置日数以上経過するまで取り外さないこと。ただし、コンクリートの強度が・圧縮強度試験の結果、別表(は)欄に掲げるコンクリートの圧縮強度以上又は1cm²につき120kg (軽量骨材を使用する場合においては、90kg) 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力によって著しい変形又は亀裂が生じないことが構造計算により確かめられた場合においては、この限りでない。

せき板又は支柱の区分	建築物の区分	セメントの種類	(ロ)			コンクリートの圧縮強度
			存置日数	存置期間中の平均気温		
			摄氏15℃以上	摄氏15℃未満 摄氏5℃以上	摄氏5℃未満	
せき板	基礎、梁、柱及び壁	早強ポセメント	2	3	5	50kg/cm ²
		普通ポセメント 高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント	3	5	8	
		高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント	5	7	10	
スラブ下及び梁下		早強ポセメント	4	6	10	コンクリート設計基準強度の50%
		普通ポセメント 高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント	6	10	16	
		高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント	8	12	18	
支柱	スラブ下	早強ポセメント	8	12	15	コンクリート設計基準強度の85%
		普通ポセメント 高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント	17	25	28	
		高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント	28	28	28	
	梁下	早強ポセメント				コンクリート設計基準強度の100%
		普通ポセメント 高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント	28	28	28	
		高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント				



床版リスト

符 号	スラブ厚	位置	主 筋 方 向		副 筋 方 向	
			端 部	中 央	端 部	中 央
FS1	750	上 端	D19@150	←	D19@150	←
		下 端	D19@150	←	D19@150	←
FCS1	1000	上 端	D19@150	←	D19@150	←
		下 端	D19@150	←	D19@150	←
FCS2	1550	上 端	D19@150	←	D19@150	←
		下 端	D19@150	←	D19@150	←
FCS3	800	上 端	D19@150	←	D19@150	←
		下 端	D19@150	←	D19@150	←

特 記

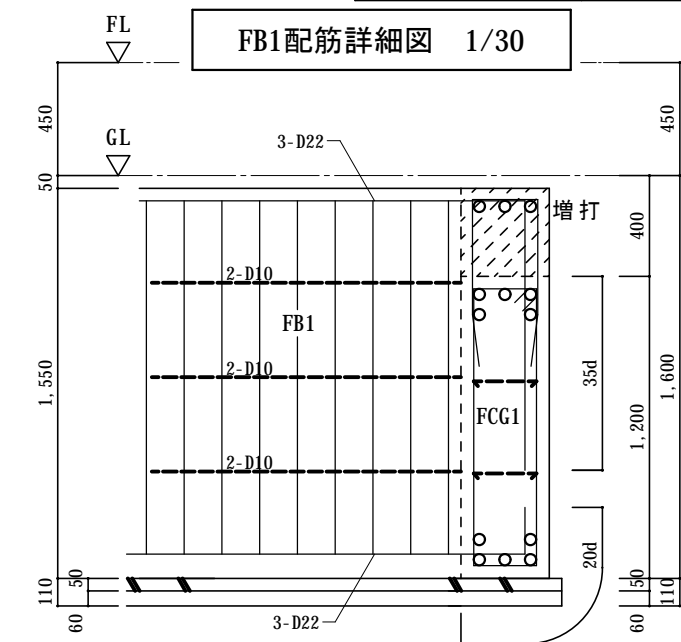
使用材料			
コンクリート	Fc=24N (捨てコン: Fc=18N)	柱 脚	SN490C JIS-G 3136
鉄 筋	SD295 (D16以下) JIS-G 3112	スリット材	SN490C JIS-G 3136
	SD345 (D19以上) JIS-G 3112	設計地耐力	300 kN/m ² (長期)
鉄 骨	柱 (200角以上) BCR295	凡 例	
	柱 (150角以下) STKR400 JIS-G 3466		
	梁 SN400A	=	
	その他 SS400 JIS-G 3101 S10T		

柱脚詳細図 1/30

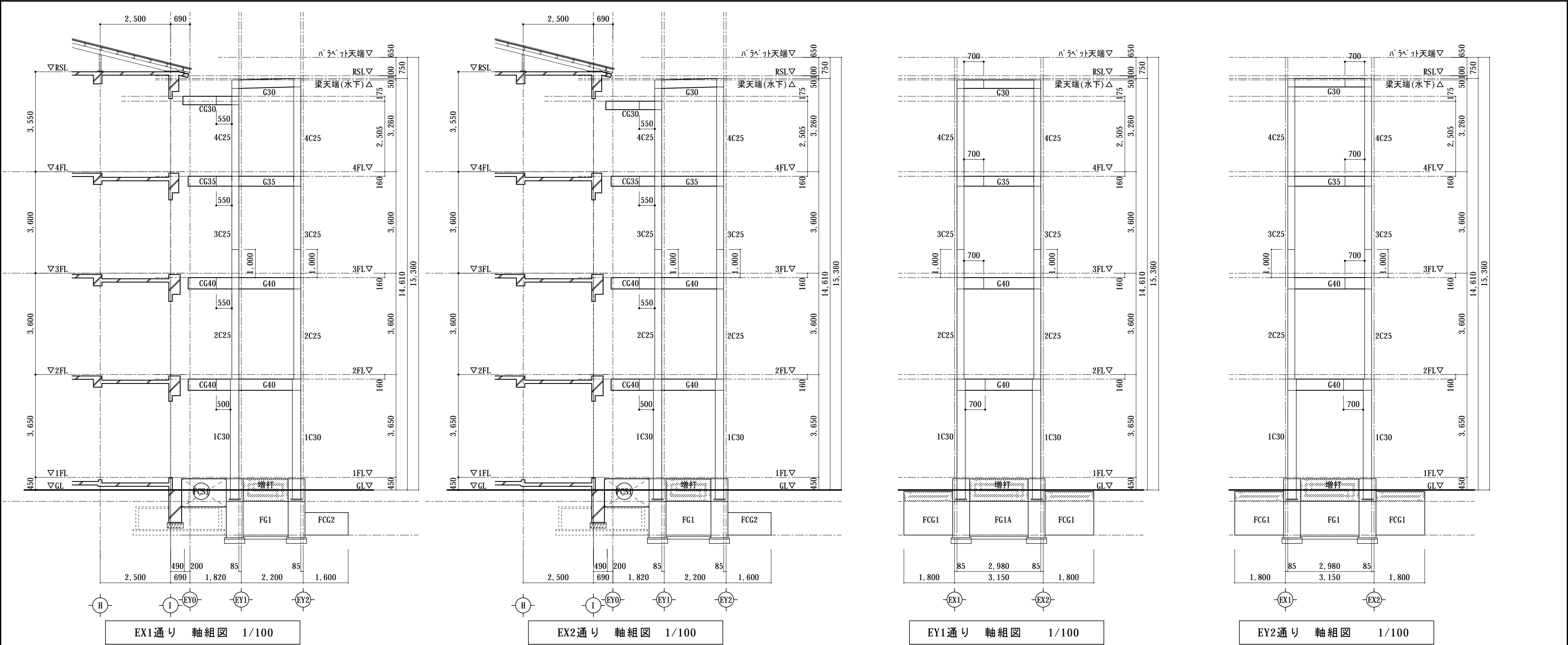
符号	1C30	
柱 脚		
BASE	PL-400x400x32 (SN490)	
A. BOLT	4-MB3 (ABR400)、L=660	
根 巻		
	B x D	
	主 筋	
	Hoop	
TOP HOOP	600x600	
	12-D22	
TOP HOOP	□-D13@100	
	2-D13	

地中梁リスト 1/30

符号	FG1 FG1A	FCG1	FCG2	FB1	FB2
断面	※. FG1Aの腹筋は柱型に40d定着すること				
上端筋	3/2-D22	3/2-D22	3/2-D22	3-D22	3-D22
下端筋	3/2-D22	3/2-D22	3/2-D22	3-D22	3-D22
スターラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@200
腹筋	4-D10	4-D10	2-D10	6-D10	2-D10



1級建築士 第361824号 構造1級建築士 第10905号 大野博之	
工事名	日枝中学校ELV棟増築工事 (建築)
図 名	各階伏図、RC部材リスト
縮 尺	1/100、1/30 番号 49 枚の内 S-005 号
設 計 年 月 日	令和7年2月
設 計	(有) 斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹
高 山 市	



柱 リ ス ト

符号	部 材	備 考
4C25	□-250x250x9 (BCR295)	λ=47.187
3C25	□-250x250x12 (BCR295)	λ=49.398
2C25	□-250x250x12 (BCR295)	λ=49.398
1C30	□-300x300x12 (BCR295)	柱脚リスト参照 λ=53.898

梁 リ ス ト

符号	部 材	備 考
G40	H-400x200x8x13 (SN400B)	大梁継手リスト参照
G35	H-350x175x7x11 (SN400B)	大梁継手リスト参照
G30	H-300x150x6.5x9 (SN400B)	大梁継手リスト参照
CG40	H-400x200x8x13 (SN400B)	大梁継手リスト参照
CG35	H-350x175x7x11 (SN400B)	大梁継手リスト参照
CG30	H-300x150x6.5x9 (SN400B)	大梁継手リスト参照

符号	部 材	備 考
b20	H-200x100x5.5x8 (SN400A)	小梁仕ロリスト参照
b25	H-250x125x6x9 (SN400A)	小梁仕ロリスト参照
b25a	H-250x125x6x9 (SN400A)	小梁仕ロリスト参照
b10	H-100x100x6x8 (SN400A)	鉄骨詳細図 EVﾌﾟﾗｹｯﾄ4 参照

符号	部 材	備 考
水平ﾌﾟﾚｰｽ	1-M16	GPL-9 1-M16HTB (JIS A 5541 タンﾊﾞｯｸﾙ付き) GPL溶接長:80mm以上
QLデッキ	標準図による	

小梁仕ロリスト 1/30

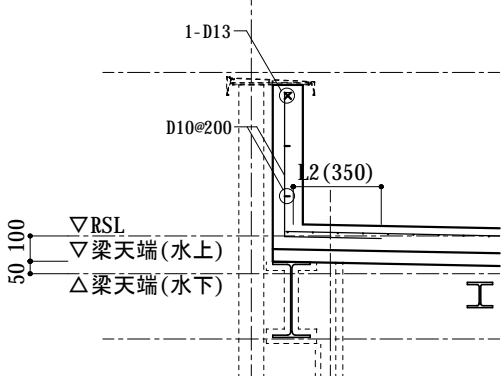
サイズ	H-250x125x6x9	H-200x100x5.5x8
形 状		
H.T.B	4-M20 (S10T)	2-M20 (S10T)
G.PL	GPL-9	GPL-9

大梁継手リスト 1/30

註記 : 大梁継手はSCSS-H97Iに準ずる。

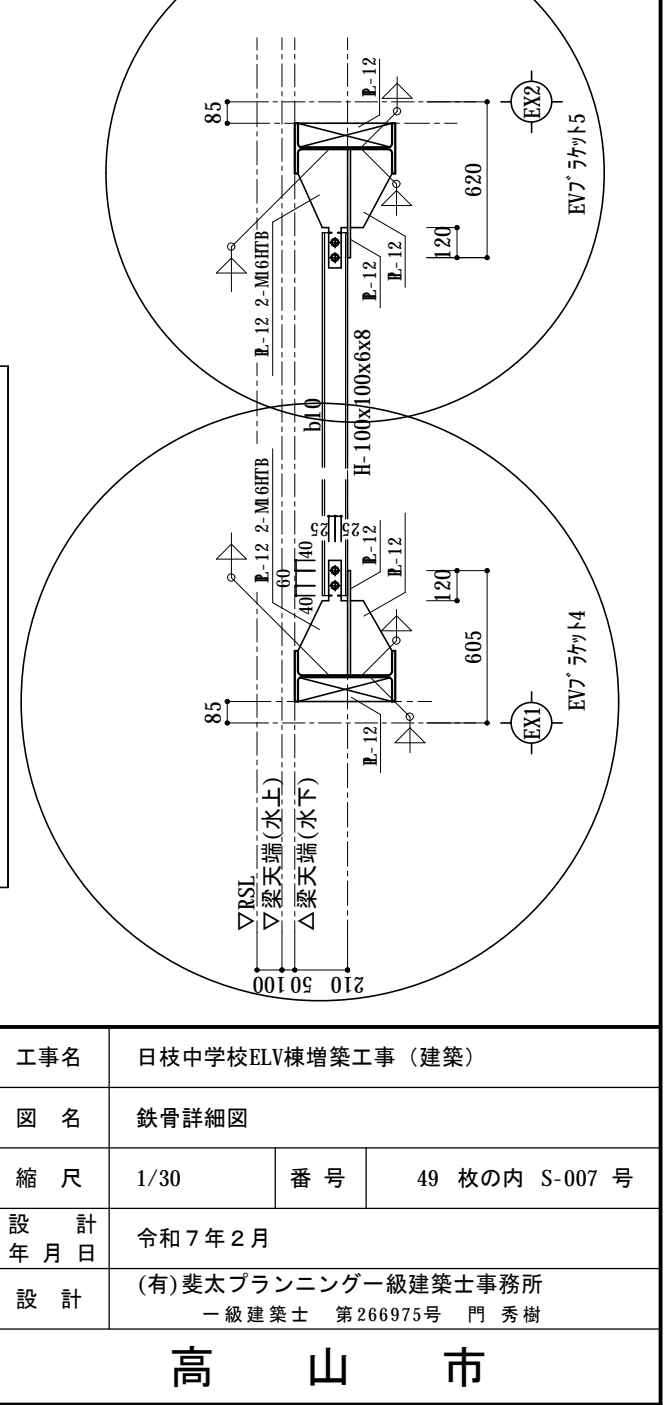
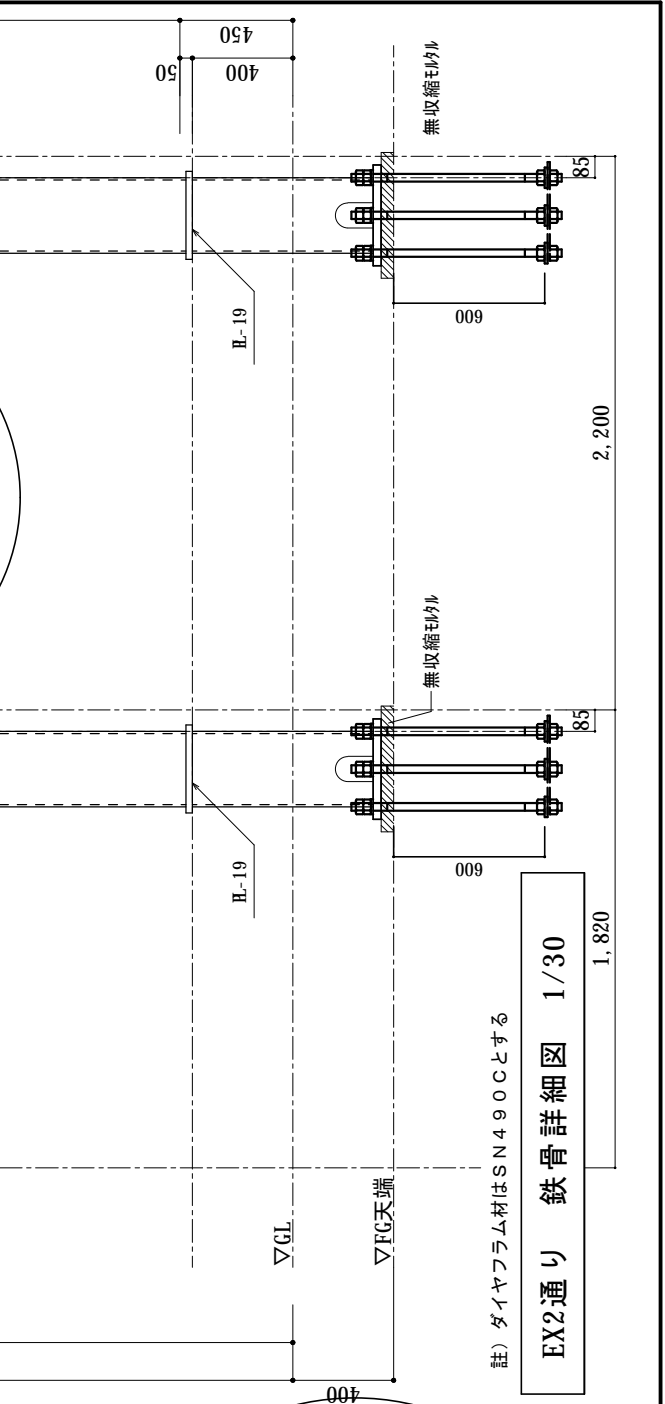
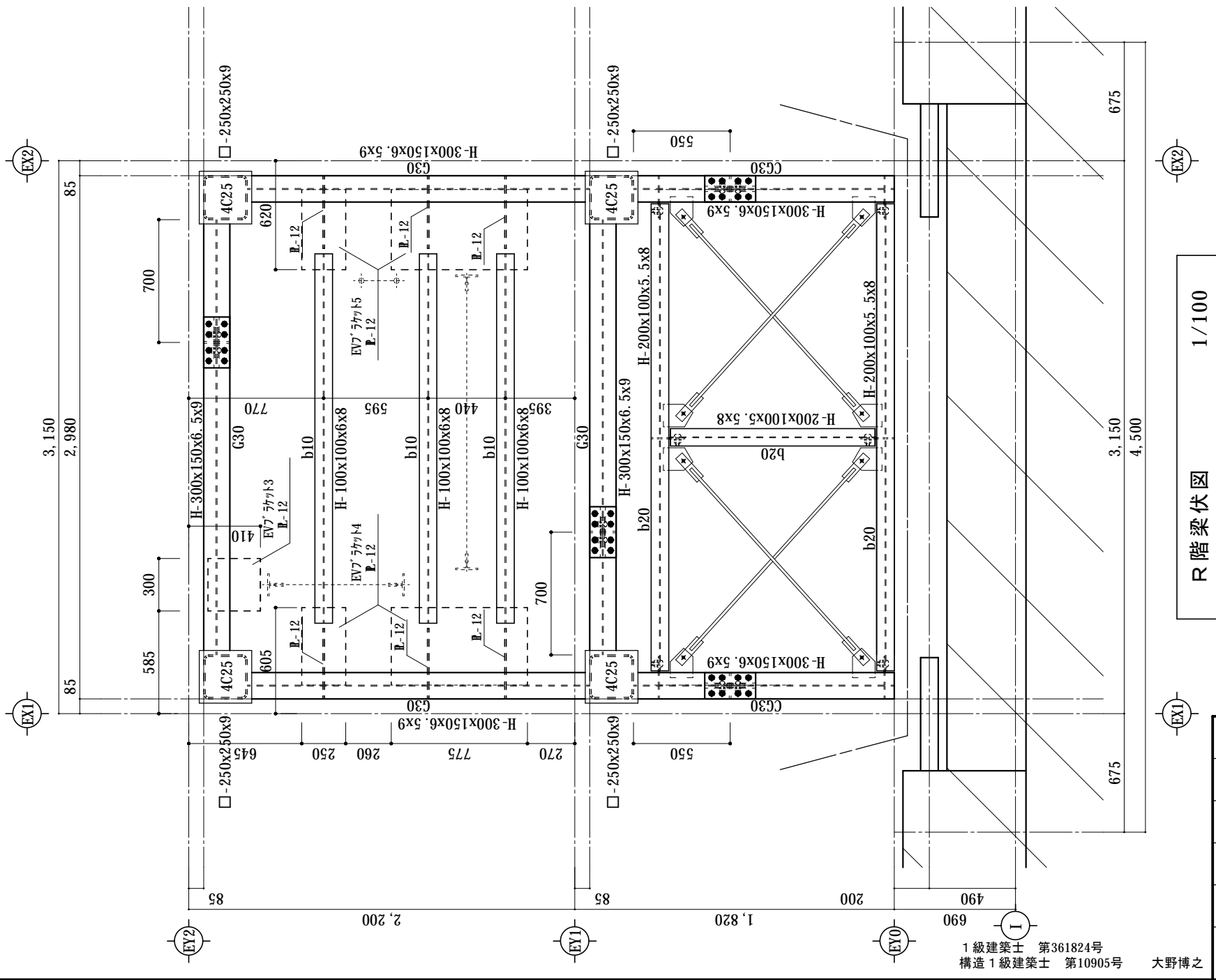
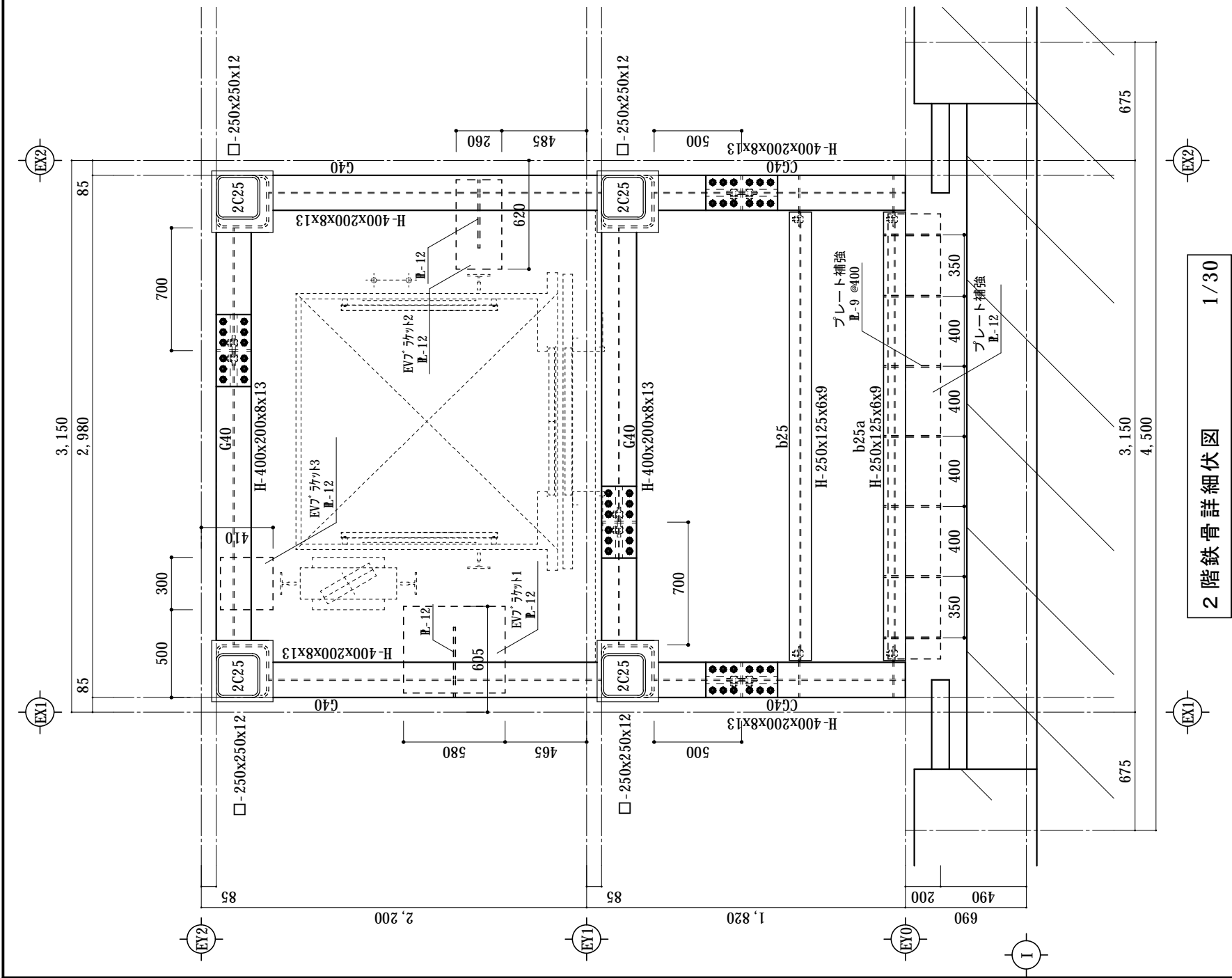
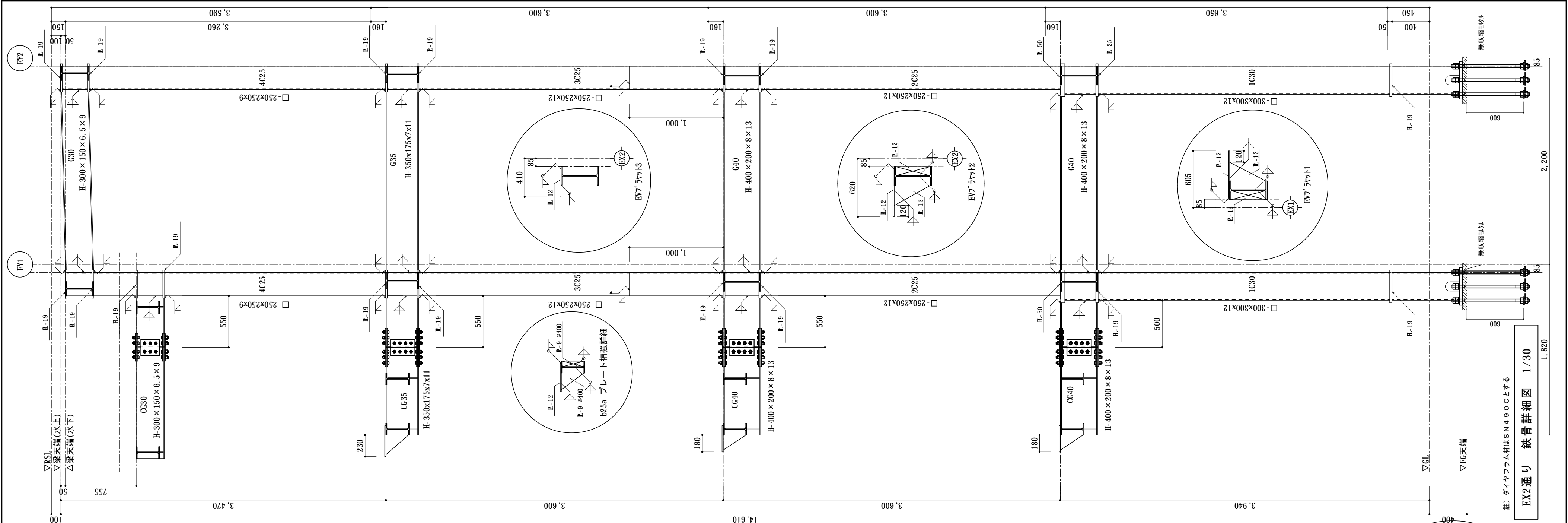
サイズ	H-300×150×6.5×9	H-350x175x7x11	H-400×200×8×13
姿図			
ﾌﾗﾝｼﾞ 外添板	PL-290×150×9 (2枚)	PL-410×175×9 (2枚)	PL-410×200×9 (2枚)
内添板	PL-290×60×9 (4枚)	PL-410×70×9 (4枚)	PL-410×80×9 (4枚)
ｳｪﾌﾞ 添板	PL-200×170×6 (2枚)	PL-260×170×6 (2枚)	PL-260×170×9 (2枚)
	ボルトM6 (16本)	ボルトM6 (24本)	ボルトM20 (24本)
	ボルトM6 (6本)	ボルトM6 (8本)	ボルトM20 (8本)

ﾊﾞﾗﾊﾞｯﾄ断面詳細図 1/30



1級建築士 第361824号
構造1級建築士 第10905号 大野博之

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	軸組図、S部材リスト		
縮 尺	1/100、1/30	番 号	49 枚の内 S-006 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

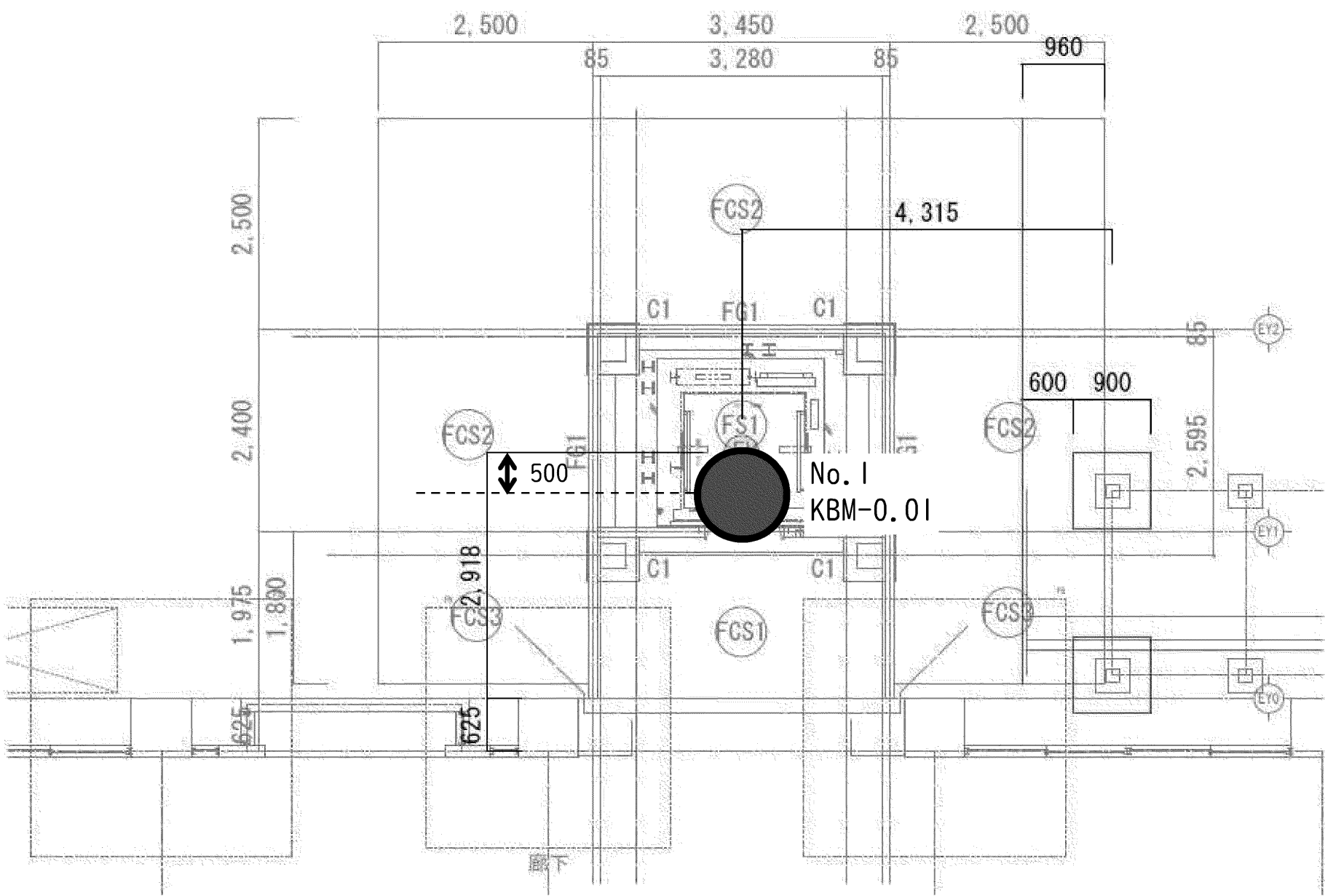


工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	鉄骨詳細図		
縮 尺	1/30	番号	49 枚の内 S-007 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有) 斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		

高 山 市

1級建築士 第361824号
構造1級建築士 第10601号 大野博之

調査地点位置図



ボーリング柱状図

調査名 日枝中学校ELV棟増築工事

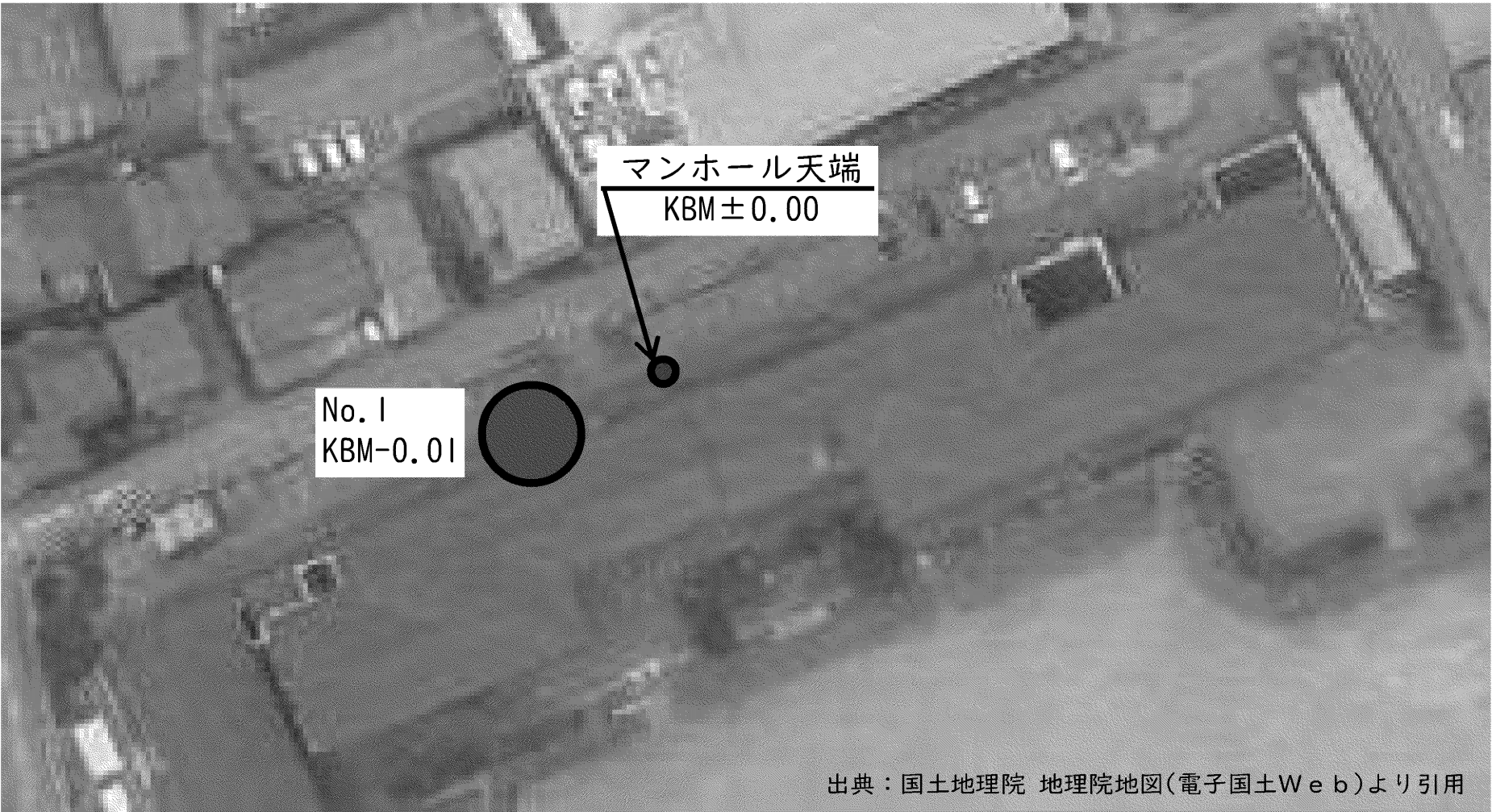
ボーリングNo 1

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置		岐阜県高山市森下町1丁目地内							北緯		36° 7' 53.70"					
発注機関	高山市				調査期間		令和6年11月6日～6年11月7日					東経		137° 15' 32.00"					
調査業者名	有限会社妻太プランニング 電話(0577-35-2585)		主任技師		長沼洋行		現代理人		堀政文		コ鑑定者		堀政文		ボーリング責任者		長沼洋行		
孔口標高	KBM -0.01m	角	180° 上 90° 下 0°		方	北0° 270° 西180° 東90° 南		地盤勾配	鉛直90° 水平0°		使用機種	試験機		TOHO D0-D		ハンマー落下用具		半自動落下	
総掘進長	5.07m	度	0°		向					エンジン		YANMAR NFD-9		ポンプ		TOHO BG3C			

標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色相対比	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入試験				原位試験	試験名および結果	深さ	試験番号	採取方法	室内試験	掘進
										深さ	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量	N値							
(m)	(m)	(m)	(m)	図分	調度	度	度	事	(m)	10 20 30	10 20 30	(cm)		(m)		(m)			(m)	(日)
-0.16	0.15	0.15		アスファルト舗装	黒灰			アスファルト及び砕石	11/7	1.15	12	11	18	41						
-0.61	0.45	0.60		粘土混じり砂礫(盛土)	灰			φ20～40mm程度の角礫主体。縮まり強い。含水小位。	11/7	1.45	13	13	10	36						
-1.21	0.60	1.20		砂(盛土)	褐灰			僅かに細礫混じる。縮まり緩い。含水小位。	11/7	2.00	13	13	10	36						
				玉石混じり砂礫	灰・黄褐			φ10～30mm程度の角礫主体。玉石は硬質。φ50～100mm程度を中心として、コア長1=10cm程度が所々混入。縮まり強い。含水小位。2.3m以深、玉石量が増加。	11/7	2.30				36						
-3.31	2.10	3.30							11/7	3.00				60						
									11/7	4.00	36	24	5	60						
-5.08	1.77	5.07		風化岩	淡青灰・褐			風化が進んだ状態。掘削により砂～細礫状に崩れる。縮まり非常に強い。	11/7	4.15	60	7		120						
									11/7	5.00				257						
									11/7	5.07										



出典：国土地理院 地理院地図(電子国土Web)より引用

工事名	日枝中学校ELV棟増築工事（建築）		
図 名	ボーリング位置図、柱状図		
縮 尺		番 号	49 枚の内 S-008 号
設 計 年 月 日	令和 7 年 2 月		
設 計	(有)斐太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹		
高 山 市			

【仕様書】

電気設備工事仕様書

I. 工事概要

1. 工事名称

日枝中学校EＬV棟増築工事（建築）

2. 工事場所

高山市 森下町1丁目 200-1

3. 建物概要

建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	消防法施行令別表第一	備考
校舎	煉	RC	4	.	7項（ ）
	煉				
	煉				
	煉				
	煉				

4. 工事項目

（○ 印内に番号記入のもの及び ◎ 印のみ適用する）

建物名称	校舎					屋外 その他
工事項目	煉	煉	煉	煉	煉	
① 高压受変電設備						○
○ 幹線設備						
② 動力設備	○					
③ 電灯設備						
○ 照明設備	○					
○ コンセント設備	○					
④ 放送設備						
○ 校内放送設備	○					
⑤ 電話設備						
○ 電話配線設備	○					
⑥ インターホン設備						
○ EＬVインターホン設備	○					
⑦ 防災設備						
○ 自動火災報知設備	○					
⑧ 構内配電線路（強電）						○
○ 構内配電線路（弱電）						

5. 別途工事

・建築工事 ・機械設備工事

II. 工事仕様

1. 共通仕様（◎ 印のみ適用する）

特記仕様及び図面に記載なき事項は、全て下記仕様による。

○ 工事請負契約書

○ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編） 最新版（国土交通大臣官庁官庁官繕部監修）

○ 公共建築設備工事標準図（電気設備工事編） 最新版（国土交通大臣官庁官庁官繕部監修）

○ 公共建築改修工事標準仕様書 最新版（国土交通大臣官庁官庁官繕部監修）

・ 公共住宅建設工事共通仕様書 最新版（公共住宅事業者等連絡協議会監修）

○ 内線規程 最新版（電気技術基準調査委員会編集）

○ 放送機器、通信機器、その他弱電機器等の仕様は、各機材メーカー標準と読み替える。

2. 特記仕様（項目は番号に ○ 印記入のもの、選択式の特記事項は ◎ 印のみ適用する）

項目	特記事項
① 適用範囲（1）	この特記仕様書、図面及び現場説明書（質疑応答を含む）に記載されていない事項は全て国土交通大臣官庁官庁官繕部監修の公共建築工事標準仕様書（最新版）、公共建築改修工事標準仕様書（最新版）による。設計図書等間に相違がある場合の優先順位は下記の通りとする。 1）質疑応答書 2）現場説明書 3）工事仕様書 4）標準特記仕様書（添付された場合に限る） 5）図面 6）公共建築改修工事標準仕様書 7）公共建築工事標準仕様書
② 適用範囲（2）	
③ 法規等の事項	本工事に関係する法律、政令、省令、告示、条令、各地方公共団体の内規基準、指針、指導等に準拠する。 受注者は、公共建築工事標準仕様書に基づき施工するものとする。
④ 提出書類	高山市ホームページ上に示された書類とし、監督員協議によりその一部を省略することができる。
⑤ 事故報告	工事施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督員に通報するとともに、事故発生報告書を監督員に提出する。
⑥ 質疑	本工事の設計図書に関する質疑は、工事着手前に確かめておかねばならない。設計図書に記載がなくとも、外観上、構造上、当然必要と認められるものは、監督員の指示に従い施工しなければならない。
⑦ 設計変更	建築主の希望、その他より設計変更が生じる時は、原則として当該工事の見積書を予め提出し、承認を受けた後変更工事に着手する。尚この場合の見積単価については契約時のものとする。但し、本工事施工において工術上必要な微細なる工事変更については、監督員の指示に従い受注者の工事費負担により施工する。
⑧ 軽微な変更等	現場の納まり、取り合い等の関係による協議の中で、形状、寸法等の軽微な変更は、監督員の指示による。なお、この場合の請負金額の変更は行わない
⑨ 実施状況の提出について	受注者は、工事施工において自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目について工事完了

⑩ 立会検査

⑪ 材料試験

⑫ 既存との取合い

⑬ 撤去工事

⑭ 再利用機器

⑮ 発生材の処理

⑯ 産業廃棄物の適正処理

⑰ 新築時廃棄物

⑱ 再生資材の利用

⑲ 残土処分

⑳ はつり

㉑ あと施工アンカー引抜き試験

㉒ 配線器具

㉓ フラッシュプレート

㉔ 別途工事

㉕ 工事方法

時までに所定の様式により提出することが出来る。

下記の項目については、監督員の立会検査を受け、検査立合記録書に監督員の了承を得るものとする。

○各種製品検査 ○各種仕上検査 ○工事中間検査及び竣工検査

本工事に使用する材料の内、監督員より指示あるものに関してはその成績表を提出するか、又は監督員の承認する試験所で試験を行い、承認を受けなくてはならない。尚試験に要する費用は全て受注者の負担とする。

本工事施工に伴う既存設備の軽微な加工、改造は、本工事とする。

撤去及び取壊し工事は、事前に既存設備の概要を把握し、他に影響が及ばないよう充分検討した上で着工する。

撤去した後再利用する機器は、清掃及び絶縁測定の上、良品のみ使用する。但し、機器品質の良否判定は、監督員の指示に従う。

引渡しを要するものは監督員の指定する場所に整理しリストを作成の上施設管理者へ引渡す。又引渡しを要しないものは全て場外に搬出し下記の産業廃棄物適正処理の項及び関係法令等に従い適正に処理する。

受注者は、産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、監督員の指示に従い産業廃棄物関連書類の提出並び確認及び処理施設の現地確認並びに建設廃棄物処理状況の管理を行い、産業廃棄物が最終処分に至るまで適正に処理されている事を確認しなければならない。 廃棄物マニフェストを提出する。

処理については「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「岐阜県廃棄物の適正処理に関する条例」「岐阜県建設廃棄物適正処理の三原則」の規定を遵守し適正に処理する。

混合物の処理については管理型最終処分場に持ち込むものとする。

下記の資材については再生資材を使用する。

資材名	規格	使用場所
再生加熱アスファルト混合物	プラント再生舗装技術指針（日本道路協会）	構内アスファルト
再生クラッシャーラン		アスファルト舗装下

・ ＊構外搬出適切処理

片道の運搬距離（ ）k m

・ 構内指示の場所にたい積する。

○ 構内指示の場所に敷きならす。

・ 構内盛土に利用。

はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督員に報告を行うこと。 既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、図面に特記のない場合はダイヤモンドカッターによる。

○ あと施工アンカーの引抜き試験は1ロット毎に行い成績表を提出するものとする。

配線器具は、下記を標準とする。

○大角形連用型 ・ワイドハンドル型 ・

プレートは、下記を標準とする。

・樹脂製（洋風モダン） ○ 新金属製

○ EＬV工事（機械設備工事）

○ 建築基準法及び消防法で定められた非常用電源回路には、赤色で用途を明記する。

○ 配管工事のみで電線を入線しない場合は、導入線（1.2m／m ビニル被覆鉄線）を挿入する。

○ 鋼製電線管の露出部分の塗装箇所は、監督員の指示による。（エッチングプライマー下処理の後、指定色OP2回塗り）

○ 位置ボックスは、原則としてアウトレットボックスとする。

○ 建物内での、配管の1区間が30m以上となる場合は、途中でプルボックス又はジョイントボックスを設ける。

○ F P 板（スチロフォーム等）打込みの部分に取付ける位置ボックスには、保温及び結露防止処置を施す。（外壁部のみ）

○ ジョイントボックス等、配線器具を未装着しない位置ボックスに取付けるプレートには、用途を明記する。

○ 接地工事は下記による。

接地の種類	記号	接地抵抗値
○ 第D種	Ed	100Ω以下

○ 接地極の付近には接地極埋設標を設け、種別、埋設位置、深さ、埋設年月日、接地抵抗測定値を明記する。

○ 防火区画貫通部の耐火処置の仕様は下記とする。
（イ）建築基準法 告示 第3183号に準拠
（ロ）（財）日本建築センター（BCJ）防災評定品の使用

建築竣工引渡し後、原則として5年以内（特に指定のある工種を除く）において、工事不良の発生じたと認められる損害等については、受注者の費用負担にて迅速丁寧に改修しなければならない。ただし工事不良が故意又は重大な過失により生じた場合は10年間とする。

建築竣工引渡し後1年が経過した時点において係員立合のもとで1年検査を行い、工事不良の発生じたと認められる損害等についても、係員の指示に従い改修しなければならない。尚、その費用については受注者の負担とする。

本工事の施工中における受発注者間の情報共有は、電子メールを利用す

㉙ 工事書類の簡素化について

㉚ ディーゼルエンジン車両の適正燃料の使用について

㉛ 施工調査

㉜ 工事着手前協議

㉝ 既設工事注記事項

㉞ 工事中の既設設備

㉟ そ の 他

ること。運用にあたっては、「電子メールを活用した情報共有における運用指針」による他、工事着手前協議時に監督員と協議の上、決定するものとする。

実地にあたっては「工事書類簡素化要領」（技191号平成22年6月30日改正）に基づいて実施すること。

1）ディーゼルエンジンを動力とする車両にはJIS規格の軽油を使用すること。

2）ディーゼルエンジンを動力とする車両の燃料検査があった場合には協力すること。

○ 事前調査（ ◎ 本工事 ・ 別途 ）

○ 調査項目（ ◎ 既存資料調査 ◎ 既設配線ルート ）

○ 調査範囲（ ・ 図示 ◎ 工事範囲 ）

○ 調査方法（ ・ 図示 ◎ 目視 ）

1）本工事の受注者は、契約後1～2週間以内に設計書内容等について、監督員と工事着手前協議を行うこと。

2）協議に当たっては、別に定める「施工打ち合わせ記録簿」に協議事項を記入し、打ち合わせに持参すること。なお、協議日の設定については、受注者側が事前に監督員と連絡をとり設定しておくこと。

3）協議に当たって、発注者側は監督員及び係長又は課長、受注者側は現場代理人及び主任技術者が出席するものとする。

4）協議時、「施工打ち合わせ記録簿」の回答（その他）欄は監督員が記入し、最後に確認を行い監督員・係長又は課長の確認印を押押し、写しを現場代理人（主任技術者）が受け取ること。

○ 本設計図書は、既存建物の新築時に於ける設計図に基づいて作成されている。従って新築時の納まり、取合い等による変更、又は竣工後に行われた増改築及び設備の増設等により、既存の状態と既存図面との間に差異が生じ、本設計図書によることが困難な場合は、監督員と打合せの上、その指示に従う。

○ 撤去工事に於いて、事前に工事前施工調査を行い既設設備の状況を把握した上で施工するものとする。

・ 図記明記無き場合でも建築工事又は機械設備工事に於いて、天井張替え、壁張替え及び機器取り外し→再取付等に伴う既設電気設備機器の取外し→再取付、配線の再接続等は本工事とする。

○ 図面明記無き場合でも改修工事に於いて不要となる機器は監督員と協議の上、原則撤去処分とする。

・ 不要となる隠蔽部既設配管を利用し、新設配線を施工出来る部分については積極的に利用とする。

○ 図面上、配管及び線び施工表記の部分も調査の上、ケーブル隠蔽施工が可能な場合はケーブル隠蔽施工とする。

○ 上記、2項目に於いて金額の増減は無いものとする。

○ 工事範囲外の部屋は工事期間内でも使用する為、機器及び配線撤去の際には事前に施工前調査で既設配線ルート等の調査を行い、工事範囲外の部屋の電気設備に影響が有無を確認の事。

既設電気設備に影響が有る場合は監督員と協議の上、配線迂回、仮電源の準備等の必要と思われる仮設備工事を行う事。

○ 別途機器への接続は、本工事とする。

○ 姿図の寸法、形状は参考とする。

① 高压受変電設備

2 変圧器容量

3 コンデンサ容量

4 盤形式

5 受変電設備基礎

6 接地

⑦ そ の 他

① 電 気 方 式

・ 一次側 三相3線式 6,600V

・ 二次側 三相3線式 200V

・ " 単相3線式 200/100V

・ " 相線式 V

三相: kVA ×1 単相: kVA ×1

高压進相コンデンサ: kVar ×1

直列リアクトル: kVar ×1

4 盤形式

・ キュビクル型（屋外型） ・ 高压閉鎖型 ・ 開放型

・ 本工事 ・ 別途工事（建築）

・ 第1種接地、第3種接地及び特別第3種接地の接地極は共用し、その接地抵抗値は10Ω以下とする。

・ 高压地絡保護装置がある場合には、第2種接地極も共用とする。

○ 本工事は既設高压受変電設備の改修工事一切とし、改修内容は別図による。（低圧分岐開閉器の増設 等）

② 電 気 方 式

○ 動力 三相3線式200V ・ 動力 三相4線式 V

・ 電灯 単相3線式200/100V

・ 電灯 単相2線式200V ○ 電灯 単相2線式100V

○ 鋼製電線管 ○ 合成樹脂可とう電線管（PF）

○ 線び配線 ○ ケーブル配線

ドアの裏面の充電部には、感電防止処置を施す。

① 電 気 方 式

○ 単相2線式 200V ○ 単相2線式 100V

○ 鋼製電線管 ・ 合成樹脂可とう電線管（PF）

○ 線び配線 ○ ケーブル配線

③ 照 明 器 具 の 吊 ボ ル ト

（イ）吊りボルトを必要とする機種及び施工方法は「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）」及び「公共建築設備工事標準図（電気設

④ 照度測定

④ 配線方法

2 館内放送設備

2 ローテーションアウトレット

3 接 地

4 引込口フックボルト

5 インターホン機器仕様

6 自動火災報知設備

⑧ 構内配電線路（強電）

② 地 中 配 線

備工事編）」によりものとする。

改修工事に於いて吊りボルト用あと施工用アンカーは本工事とする。（ロ）その他の照明器具は、上記による他、位置ボックスにネジ止め、又はフィックスチュアスタッド等を使用し支持する。

（ハ）特殊な照明器具は、上記による他、係員の指示による。

（ニ）照明器具を木、その他可燃物に取付ける場合は、遮熱を考慮する。

照度測定を行い測定結果を係員に提出。最低照度は図面参考とする。

④ 鋼製電線管 ○ 合成樹脂可とう電線管（PF）

○ 線び配線 ○ ケーブル配線

・ 増巾器（ 局、 W ・ 一般用 ・ 防災 ・ 一般兼用）

・ 壁掛型 ・ 卓上型 ・ デスク型 ・ 総合盤内組込

・ スピーカー （非常放送用は消防法基準適合品）

・ アッテネーター（特記以外は ・ V-3S ・ V-3P）

・ 一般型 ・ インナード

・ ワンタッチ飛び出し型 ・ フリーアクセスフロア適合品

・ 保安器用接地（100Ω以下）は、本工事とする。

・ その他の機器の接地は、図示による。

引込口には、ケーブル引留フックを設ける。

・ 交互通話方式 ・ 親子式同時通話方式

・ 親子式交互通話方式 ・ 同時通話方式

・ 受信機（P 級 回線） ・ 連動制御盤等と一体形

・ 壁掛形 ・ 総合盤内組込

・ 感知器（特記以外は作動確認灯付）

① 電 気 方 式

・ 高压 三相3線式6,600V

○ 低压 三相3線式200V ・ 低压 三相4線式 V

・ 低压 単相3線式200/100V

・ 低压 単相2線式200V ・ 低压 単相2線式100V

（イ）布設方法: ○ 管路式 ・ 直接埋設式 ・

ケーブル保護材料は下記とする。

○ 耐衝撃性硬質ビニル電線管（HIVE）

○ 波付硬質ポリエチレン管（FEP）

○ ポリエチレンライニング鋼管（PE）

○ 厚鋼電線管（防蝕材巻き）（G管）

（ハ）埋設深度は、土冠り0.6m以上とする。

（ニ）ハンドホール等の鉄蓋には、鋳造流し込みで用途名を明記する。

（ホ）埋設標示杭は、地中線路の曲折部分、道路横断部分等に設ける。

又、直線部分が30m続くごとに1本、30mに満たない場合はその間に1本設ける。

（ヘ）埋設標示テープ（ダブル）を ○ 標示する ・ 標示しない

【機器表】

照明器具一覧表

工事名	日枝中学校EＬV棟増築工事（建築）
図名	電気設備工事仕様書・照明器具一覧表
縮尺	1/100・1/300 番 号 49 枚の内 E-001 号
設計年月日	令和7年 2月
設計	（有）妻太プランニング一級建築士事務所 一級建築士 第266975号 門 秀樹

高山市

